

平成24年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録



東京大学

02 ボランティア活動支援のあゆみ

04 ボランティア活動支援の記録（平成24年度）

- 05 1、 東京大学ボランティア隊の派遣（ゴールデンウィーク・夏季）
 (1)募集要項
 (2)申込書・お知らせ
 (3)参加者説明会
 (4)参加者のしおり(抜粋)
 (5)活動報告
- 19 2、 岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティアの派遣
 (5～7月／10～12月／年末年始／2～3月／参加学生の活動報告書まとめ)
 (1)募集要項
 (2)申込書・お知らせ・オリエンテーション
 (3)参加者のしおり(抜粋)
 (4)活動報告
- 48 3、 福島県相馬市「寺子屋事業」学習支援ボランティアの派遣
 (6～7月／9～10月／11～12月／1～3月／参加学生の活動報告書まとめ)
 (1)募集要項
 (2)申込書・お知らせ・オリエンテーション
 (3)参加者のしおり(抜粋)
 (4)活動報告
- 76 4、 福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティアの派遣
 (8月／参加学生の活動報告書まとめ)
 (1)募集要項
 (2)申込書・お知らせ・オリエンテーション
 (3)参加者のしおり(抜粋)
 (4)活動報告
- 84 5、 ボランティア活動報告会
- 85 6、 被災地ボランティア座談会～この営みを続けていくために～
- 91 7、 ボランティア活動支援金
- 92 ボランティア活動状況調査の結果
- 100 組織・メンバー

ボランティア支援活動のあゆみ

H23. 3. 11	14時46分 三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震発生 「災害対策本部」の設置(総長裁定)	H23. 11. 4	ボランティア支援班会議(第4回)
H23. 3. 22	被災地におけるボランティア活動について(第1報)(災害対策本部長/理事・副学長) 慎重な計画と判断を要請	H23. 12. 5	ボランティア支援班会議(第5回)
H23. 4. 1	震災の名称を「東日本大震災」とすると政府が発表	H23. 12. 6	「ボランティア活動支援金」の制度開始
H23. 4. 1	東日本大震災に関する災害対策本部について(対策本部長/総長) 総長を対策本部長とする体制整備	H23. 12. 21	陸前高田市「学びの部屋」学習支援説明会の開催
H23. 4. 1	東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について(通知)(文部科学副大臣) 同13日に学内通知	H23. 12. 26~12. 29	陸前高田市「学びの部屋」(年末年始) 学習支援A班派遣(学生7名)
H23. 4. 11	東日本大震災に関する「救援・復興支援室」の設置(総長裁定)室の下に「ボランティア支援班」を設置	H24. 1. 6~1. 9	陸前高田市「学びの部屋」(年末年始) 学習支援B班派遣(学生9名)
H23. 4. 15	被災地におけるボランティア活動について(第2報)(救援・復興支援室ボランティア支援担当/理事・副学長)届出様式	H24. 2. 1	ボランティア支援班会議(第6回)
H23. 4. 27	第1回東京大学学生ボランティア活動の報告・連絡会の開催	H24. 2. 18~2. 19	陸前高田市「学びの部屋」(2~3月) 学習支援A班派遣(学生10名)
H23. 4. 28	救援・復興に係るプロジェクト登録の開始	H24. 2. 25~2. 26	陸前高田市「学びの部屋」(2~3月) 学習支援B班派遣(学生9名)
H23. 5. 12	救援・復興支援に関する活動(含ボランティア活動)状況調査の実施 H23.3.11-H23.5.12	H24. 3. 3~3. 4	陸前高田市「学びの部屋」(2~3月) 学習支援C班派遣(学生8名)
H23. 5. 13	救援・復興支援室「遠野分室」の設置	H24. 3. 17~3. 18	陸前高田市「学びの部屋」(2~3月) 学習支援D班派遣(学生8名)
H23. 5. 13	救援・復興支援室「大槌連絡所」の設置	H24. 3. 23~3. 30	福島県大熊町(大熊中学校・3月) 学習支援派遣(学生22名)
H23. 5. 26	救援・復興支援室の班の設置(ボランティア支援班は班員整備) ボランティア支援班/情報発信班/大槌復旧建設班	H24. 3. 26	ボランティア支援班会議(第7回)
H23. 6. 3	ボランティア支援班会議(第1回)	H24. 4. 中旬	「東日本大震災ボランティア支援活動記録」の編集 平成23年度版
H23. 6. 14	東日本大震災に係るボランティア参加への意向調査の実施(職員)	H24. 4. 23	ボランティア支援班会議(第8回)
H23. 6. 27	東日本大震災に係る「夏季ボランティア隊」参加者の募集について 初企画:募集人員45名×5班	H24. 4. 28~5. 1	GWボランティア隊第1班派遣(41名) 「学びの部屋」1日(6名)含む
H23. 6. 28	ボランティア支援班会議(第2回)	H24. 5. 2~ 5. 5	GWボランティア隊第2班派遣(36名) 「学びの部屋」1日(6名)含む
H23. 6. 28	第2回ボランティア活動報告会の開催	H24. 5. 26~5. 27	陸前高田市「学びの部屋」(5~7月) 学習支援A班派遣(学生5名)
H23. 7. 25	東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)の開所	H24. 6. 9~6. 10	陸前高田市「学びの部屋」(5~7月) 学習支援B班派遣(学生5名)
H23. 7. 28	夏季ボランティア隊説明会の開催	H24. 6. 23~6. 24	陸前高田市「学びの部屋」(5~7月) 学習支援C班派遣(学生5名)
H23. 8. 3~8. 7	夏季ボランティア隊第1班派遣(44名)	H24. 7. 7~ 7. 8	陸前高田市「学びの部屋」(5~7月) 学習支援D班派遣(学生5名)
H23. 8. 9~8. 13	夏季ボランティア隊第2班派遣(47名)	H24. 5. 31	ボランティア活動状況調査(第3回目)の実施 H23.10.1-H24.5.10
H23. 8. 24~8. 28	夏季ボランティア隊第3班派遣(46名)	H24. 6. 14	ボランティア支援班会議(第9回)
H23. 9. 3~9. 7	夏季ボランティア隊第4班派遣(42名)	H24. 6. 16~6. 17	相馬市「寺子屋事業」(6~7月) 学習支援A班派遣(学生6名)
H23. 9. 18~9. 22	夏季ボランティア隊第5班派遣(41名)	H24. 6. 30~7. 1	相馬市「寺子屋事業」(6~7月) 学習支援B班派遣(学生6名)
H23. 9. 27	夏季ボランティア隊参加者アンケート調査の実施	H24. 7. 7~7. 8	相馬市「寺子屋事業」(6~7月) 学習支援C班派遣(学生5名)
H23. 9. 28	ボランティア支援班会議(第3回)	H24. 7. 21~7. 22	相馬市「寺子屋事業」(6~7月) 学習支援D班派遣(学生5名)
H23. 10. 7	第3回ボランティア活動報告会及び懇談会の開催	H24. 7. 24	ボランティア支援班会議(第10回)
H23. 10. 13	ボランティア活動状況調査(第2回目)の実施 H23.5.13-H23.9.30	H24. 8. 2~8. 6	夏季ボランティア隊第1班派遣(36名) 「学びの部屋」2日(各6名)含む
		H24. 8. 9~8. 13	夏季ボランティア隊第2班派遣(40名) 「学びの部屋」2日(各6名)含む
		H24. 8. 23~8. 27	夏季ボランティア隊第3班派遣(37名) 「学びの部屋」1日(6名)含む

H24. 8. 17～8. 24 福島県大熊町(大熊中学校・8月)
学習支援派遣(学生11名)

H24. 9. 19 ボランティア支援班会議(第11回) メール審議

H24. 9. 8～9. 9 相馬市「寺子屋事業」(9～10月)
学習支援A班派遣(学生7名)

H24. 9. 29～9. 30 相馬市「寺子屋事業」(9～10月)
学習支援B班派遣(学生7名)

H24. 10. 13～10. 14 相馬市「寺子屋事業」(9～10月)
学習支援C班派遣(学生7名)

H24. 10. 27～10. 28 相馬市「寺子屋事業」(9～10月)
学習支援D班派遣(学生6名)

H24. 10. 10 第4回ボランティア活動報告会及び懇談会の開催

H24. 10. 20～10. 21 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援A班派遣(学生6名)

H24. 11. 3～11. 4 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援B班派遣(学生6名)

H24. 11. 17～11. 18 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援C班派遣(学生6名)

H24. 12. 1～12. 2 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援D班派遣(学生4名)

H24. 11. 10～11. 11 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援A班派遣(学生7名)

H24. 11. 24～11. 25 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援B班派遣(学生7名)

H24. 12. 8～12. 9 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援C班派遣(学生7名)

H24. 12. 22～12. 23 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援D班派遣(学生7名)

H24. 12. 3 ボランティア支援班会議(第12回)

H24. 12. 25～12. 28 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援A班派遣(学生5名)

H25. 1. 5～1. 8 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援B班派遣(学生6名)

H25. 1. 8～1. 11 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援C班派遣(学生6名)

H25. 1. 19～1. 20 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援A班派遣(学生7名)

H25. 2. 2～2. 3 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援B班派遣(学生7名)

H25. 2. 16～2. 17 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援C班派遣(学生7名)

H25. 3. 2～3. 3 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援D班派遣(学生7名)

H25. 2. 4 ボランティア支援班会議(第13回)

H25. 2. 12～2. 15 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援A班派遣(学生8名)

H25. 2. 19～2. 22 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援B班派遣(学生8名)

H25. 2. 26～3. 1 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援C班派遣(学生8名)

H25. 3. 15 ボランティア支援班会議(第14回)

ボランティア活動支援の記録(平成24年度)

- 1、 東京大学ボランティア隊の派遣(ゴールデンウィーク・夏季)
 - (1) 募集要項
 - (2) 申込書・お知らせ
 - (3) 参加者説明会
 - (4) 参加者のしおり(抜粋)
 - (5) 活動報告
- 2、 岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティアの派遣
(5～7月／10～12月／年末年始／2～3月／参加学生の活動報告書まとめ)
 - (1) 募集要項
 - (2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション
 - (3) 参加者のしおり(抜粋)
 - (4) 活動報告
- 3、 福島県相馬市「寺子屋事業」学習支援ボランティアの派遣
(6～7月／9～10月／11～12月／1～3月／参加学生の活動報告書まとめ)
 - (1) 募集要項
 - (2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション
 - (3) 参加者のしおり(抜粋)
 - (4) 活動報告
- 4、 福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティアの派遣
(8月／参加学生の活動報告書まとめ)
 - (1) 募集要項
 - (2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション
 - (3) 参加者のしおり(抜粋)
 - (4) 活動報告
- 5、 ボランティア活動報告会
- 6、 被災地ボランティア座談会～この営みを続けていくために～
- 7、 ボランティア活動支援金

1、東京大学ボランティア隊の派遣

【ゴールデンウィークボランティア隊】

平成24年4月末から5月頭のゴールデンウィークに、学生・教職員総勢77名を2班に編成し「東京大学ゴールデンウィークボランティア隊」として、岩手県遠野市を拠点とした沿岸被災地へ派遣しました。

(1) 募集要項

平成24年3月22日

学生・教職員の皆さんへ

救援・復興支援室

東日本大震災に係る「ゴールデンウィークボランティア隊」
参加者の募集について

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、様々な支援活動の取組みを進めています。

このたびそれらの一環として、ゴールデンウィークの期間に岩手県遠野市を拠点として沿岸地域において救援・復興支援活動を行う、学生及び教職員によるボランティア隊の参加者を募集いたします。

下記の内容をご覧ください、皆様の積極的な応募をお願いいたします。

1 活動期間

第1班
平成24年4月28日(土)～5月1日(火) <3泊4日(うち車中1泊)>

第2班
平成24年5月2日(水)～5月5日(土) <3泊4日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

2 募集人員

各班40名程度

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な活動ができる方。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ウェブサイトを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動内容

居住地や耕作地のガレキ撤去・整備等、子供の学習支援や相談相手、仮設住宅等での各種の生活サポート等が想定されますが、具体的な活動内容は状況に応じ現地連携団体と調整することになります。

現地のニーズや時の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。

5 宿泊場所

遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター／ 各班の男子
同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／ 各班の女子

※ 参加状況などを踏まえて、場所が変更となる場合があります。

※ 宿泊場所・寝具は大学が借上げますので、参加者の負担はありません。

6 活動場所

岩手県の大槌町及び陸前高田市(予定)

7 活動日程

第1日目

7:00 東京大学集合

7:30 出発(車中又は休憩所で昼食)

17:30 宿泊場所(遠野市コミュニティセンター)到着・伝達事項

18:00 オリエンテーション、夕食、入浴など

22:00 就寝

第2日目

6:00 起床、朝食

8:00 宿泊場所を出発

10:00～15:00 活動(昼食持参)

17:00 遠野市に帰着

入浴、夕食、ミーティングなど

22:00 就寝

第3日目

6:00 起床、朝食

8:00 宿泊場所を出発

10:00～15:00 活動(昼食持参)

17:00 遠野市に帰着

入浴、夕食、帰り仕度など

21:30 現地出発(夜行バス)

第4日目

6:00 大学到着(解散)

8 現地等への移動手段

東京(本郷)～遠野市内／ 大学が借上げる貸切バス(1台)

遠野市内～活動場所／ 送迎バス(予定)

※ 上記のバス利用は、参加者の負担はありません。

9 生活環境

・宿泊 大部屋(畳又はフローリング敷き)。寝具は大学が用意します。

・入浴 宿泊場所に風呂・シャワー設備はありませんので、

郊外の入浴施設(有料)への送迎を予定しています。

・食事 各自準備(遠野市内に大型スーパー、コンビニ、食堂等あり)。
宿泊場所に給湯設備、簡易な調理設備があります。

(持込コンロ等は使用禁止)

・洗濯 宿泊場所に設備はありません。

10 大学が用意するもの

・寝具一式、ビブス(ユニホームなどの上に着用するベスト状のもの)。
大学名入り、名札、手袋(軍手)、防塵マスク、大ビニール袋

11 個人が用意するもの

・〈必需品〉作業着(長袖、長ズボン)、着替え、洗面用具、入浴セット、
タオル、マスク、ゴム手袋(厚手)、上下カッパ、帽子、作業靴(踏抜き
防止用スチール製中敷き含)、水筒又はペットボトル、ボランティア
保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食費、飲み
物、他)

・〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、身分証明証(学生証)、健康
保険証、各自必要な薬品、他

12 注意事項等

(1) 本件ボランティアについては、大学が募集して派遣することになります。基本的には ボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

(2) 活動内容は、状況に応じ現地連携団体と調整することになりますので、現地において決定される予定ですが、個人の勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。
なお、全体を通しては、救援・復興支援室ボランティア支援班員及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

(3) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(4) 錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、避難所でインフルエンザ等の感染症に罹患したりした等の例があります。各自で予防接種を受けるようにしてください。(地域の診療所等でお受けください。破傷風については本学の本郷地区保健センターでも実施しています。なお、予防効果には相応の期間や回数が必要な場合がありますのでご注意ください。)

(5) 参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)においてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

(6) 事前に説明会を開催しますので、ご出席ください。開催日は後日E-mail(決定通知)で連絡いたします。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項は、本学ウェブサイトの「Q&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

13 応募方法・締切等

別紙の「ボランティア申込書」に必要な事項を記入の上、締切日4月16日(月)(その時点で各班の募集人員に満たない場合は、延長する場合があります。)までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あてE-mail又はFAXによりお送りください。参加の可否は、追ってご本人あてにE-mail(決定通知書)で連絡いたします。

14 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ

平成 年 月 日提出

ボランティア申込書

(ふりがな)				性別	男・女
氏名				血液型	A, B, AB, O Rh+, Rh-
生年月日	年 月 日	年齢	歳		
所属等	(学生の場合は、学部・研究科、科類・学科・専攻等、学生証番号、学年) (教職員の場合は、部署名、職名)				
※学生の場合は保護者等の承認が必要です。			(保護者等氏名)	承認チェック欄 <input type="checkbox"/>	
希望活動期間 ※ 下段の期間から選択してください。 プルダウン可。	第1希望				
	第2希望				
連絡先	電話番号				
	携帯番号				
	メールアドレス(PO)				
	メールアドレス(携帯)				
緊急連絡先	FAX				
	氏名				
	続柄				
ボランティア経験の有無 (有の場合は内容を記載してください。)	有・無				
	参考までにお持ちの資格がある場合は記載してください。 (医師、看護師、保健師、臨床心理士 等)				

※活動期間は下記のとおりです。

第1班：平成24年 4月 28日(土)～5月 1日(火)

第2班：平成24年 5月 2日(水)～5月 5日(土)

受付日

(お知らせ)

～東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班から お知らせ～

平成24年ゴールデンウィーク ボランティア隊募集

現在予定している内容は次のとおりです。

- 活動日程：(第1班)平成24年4月28日(土)～5月1日(火) <3泊4日>
(第2班)平成24年5月2日(水)～5月5日(土) <3泊4日>
- 活動場所：岩手県の大槌町及び陸前高田市(予定)
- 活動内容：居住地域や耕作地の片手撤去・整備等、子供の学習支援や相談相手、仮設住宅等での各種の生活サポート等が想定されますが、具体的な活動内容は状況に応じ現地連携団体と調整することになります。
現場のコースや時の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。
- 応募資格：本学の学生(保護者等の承認が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な活動ができる方。
- 募集人数：各班40名程度
- 宿泊場所：遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター／各班の男子
同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／各班の女子
- 募集締切：4月16日(月) ※募集人数に達し次第締め切ります。

※大学による支援内容は、宿泊場所の確保、東京～宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。
※このボランティアに興味のある方は、下記URL[本学ボランティア情報中]に詳細を掲載していますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
FAX : 03-5841-2519
TEL : 03-5841-2529 (内線22529)

(3) 参加者説明会

出発に先立ち、4月23日(月)に参加学生に対する事前説明会を開催し、教育学部総合教育科学科4年佐々木敦斗さんによる被災地でのボランティア活動報告、市村桃子ボランティア支援班員による日程や注意事項等の説明が行われました。

平成24年4月23日(月)
18:00～

ボランティア隊説明会次第

会場:工学部11号館講堂



各班に分かれての自己紹介等の様子

- 1 開会の挨拶(富田教育・学生支援部長)
- 2 ボランティア経験者による活動報告
被災地での活動報告
(教育学部総合教育科学科4年 佐々木敦斗さん)
- 3 参加者のしおりの説明
 - ① 日程、注意事項等
 - ② 事前準備と持ち物
 - ③ 質疑・応答
- 4 各班に分かれての自己紹介等



教育学部総合教育科学科4年 佐々木敦斗さんからの活動報告

(4) 参加者のしおり (抜粋)

ゴールデンウィーク
ボランティア隊
参加者のしおり

平成24年4月23日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目次

1 GWボランティア隊に参加するにあたって	・・・ 1
2 活動期間	・・・ 2
3 活動日程・日程表	・・・ 2～4
4 参加者名簿(班別)	・・・ 5～6
5 注意事項等	・・・ 7～11
・活動するにあたっての心構え	
・地震発生時の注意事項	
・急病等発生時の注意事項	
・コミュニティセンター(集会場)の利用について	
6 事前準備と持ち物	・・・12～13
ボランティア活動について	
ボランティア保険への加入について	
予防接種について	
大学への届出	
持ち物	
7 こんな時はどうする(Q&A)	・・・ 14～17

参考資料
関係機関・施設
遠野市内MAP

1. GWボランティア隊の参加に当たって

この度の「ゴールデンウィークボランティア隊」は、大学が力を入れて取り組んでいる東日本大震災被災地への救援・復興支援活動の一環として、大槌町社会福祉協議会ボランティアセンター及び一般社団法人SAVE IWATE等との連携の下に、本学の学生及び教職員により被災地におけるボランティア活動を行おうというものです。

具体的には、ゴールデンウィークの期間に、岩手県遠野市を拠点として、大槌町における居住地・耕作地や海岸等のガレキ撤去・整備、陸前高田市における学習支援、盛岡市における支援物資整理等を行う予定ですが、実際の活動に際しては隊長・副隊長の統括の下、連携先の担当者の指示やボランティア支援班員(随行者)及び遠野分室職員からの連絡事項・指示に従ってください。

また、このボランティア隊は大学が企画し派遣するものですが、基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結が原則となりますので、事前準備や安全・健康管理に十分ご留意をお願いします。

※(関係団体)

- ・大槌町社会福祉協議会ボランティアセンター
URL: <http://kaigo.nsyakyo.or.jp/ootsuchi/>
- ・SAVE IWATE
URL: <http://sviwate.wordpress.com/>

2. 活動期間

第1班 平成24年4月28日(土)～5月 1日(火)
＜3泊4日(うち車中1泊)＞

第2班 平成24年5月 2日(水)～5月 5日(土)
＜3泊4日(うち車中1泊)＞

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

3. 活動日程

※ 道路事情や天候等により変更になる場合があります。

第1日目

- 7:30 集合(東京大学本部棟前)
- 8:00 出発
車中又は休憩所にて昼食(各自負担)適宜休憩
- 17:00 遠野市着
大型スーパーで夕食および翌朝食等の買出し。
入浴施設へ移動、入浴。
- 19:30 遠野東大センターで鍵の受領
宿泊場所(遠野市コミュニティセンター)へ到着
適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等
- 22:00 就寝

第2日目

- 6:00 起床・洗面・朝食・片付け
- 7:30 バスにて宿泊場所を出発
- 9:00 大槌町ボランティアセンター受付
(雨の場合:SAVE IWATE@盛岡)
- 10:00～15:30 活動に従事(昼食)
- 15:30 移動
- 17:30 遠野市へ到着
大型スーパーで夕食及び翌朝食等へ買出し
入浴施設へ移動、入浴。
- 19:30 宿泊場所へ到着
適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等
- 22:00 就寝

第3日目

- 6:00 起床・洗面・朝食・片付け
- 7:30 バスにて宿泊場所を出発
- 9:00 大槌町ボランティアセンター受付
(4/30及び雨の場合:SAVE IWATE@盛岡)
- 10:00~15:30 活動に従事(昼食)
- 15:30 移動
- 17:30 遠野市へ到着
大型スーパーで夕食及び翌朝食等へ買出し。
入浴施設へ移動、入浴。
- 19:30 宿泊場所へ到着
適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等
- 20:30 帰り仕度、鍵の返却等
- 21:30 現地出発(夜行バス)

第4日目

- 6:00 大学到着・解散

※現地への移動手段

「東京～遠野市(往復)」及び「遠野市内～活動場所」の移動は、大学が借り上げるバスで行います。(バス利用に係る参加者の負担はありません。)

※4月30日または雨の場合は、盛岡市にありますSAVE IWATEにおいて活動を行う予定です。

※4月29日及び5月3日は、班の中から学生5名、陸前高田市にあります「学びの部屋」において中学生または高校生への学習支援ボランティア活動を行う予定です。

5. 注意事項等

活動するにあたっての心構え

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さで自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てからにしましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 活動がない場合も少なからずありますが、むりやり行動すると被災地が混乱します。「待つのもボランティア活動」だと考えましょう。

(8) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(9) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらおうと心得ましょう。

[安全面]

(10) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしましょう。

(11) ケガによる破傷風や感染症の罹患に備え、「予防接種」を受けましょう。

(12) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(13) 暑い時期は特に、水分を十分に用意し、こまめにとります。また、汗をかいたら塩分の摂取にも留意しましょう。

(14) 活動が終わったら、熱い気持ちをクールダウン。報告ではヒヤリ・ハッとした経験なども伝えましょう。しっかり寝て翌日も元気に起きましょう。

地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。

揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。

・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りや裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。

・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。

・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。

・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(コミュニティセンターで地震が発生したら)

・コミュニティセンターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・コミュニティセンターは、平屋建てのしっかりした建物ですので、窓ガラス等の破損の危険のない所で、落ち着いて揺れが収まるのを待ってください。

・台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。

・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。

・コミュニティセンターの周辺には空き地があります。余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。

・遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今もかなり強い余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

急病等発生時の注意事項

・(出発前に)急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
直通電話 03-5841-2529
携帯電話 080-2373-1881・1882
携帯アドレス volunteer1881@docomo.ne.jp
volunteer1882@docomo.ne.jp

・活動中に体調が悪くなった時は、無理をしないで、周りの人に声をかけ、移動バスや日陰等で安静にしてください。なお、熱中症等にならないよう、20分程度の活動の後5分程度の休憩をとり、水分・塩分を補給するようにしてください。

・切り傷、擦り傷や古釘を踏むなどがをしてしまった場合には、傷口を流水で清潔にするとともに、清潔なハンカチやタオルを当てがうなどで止血してください。なお、随行しているボランティア支援班員(大学職員)が救急バッグを準備していますので、声をかけてください。

・ピアノ等の重量物を落としてしまい骨折が疑われる場合には、厚紙や割り箸、その他何でもよいので、患部にあてがい、タオル等で固定する等の応急措置をしてください。

・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

・活動を行うに当たっては、必ず安全靴やスチール製の踏み抜き防止具を用意してください。本郷及び駒場生協で装備された長靴を購入することができますし、ホームセンターでも、安全靴仕様の長靴が2千円程度で購入できますので、必ず準備してください。

・活動は、家屋や側溝の汚泥除去等も想定されます。体調不良の場合や持病等によりボランティア活動の自信がない場合には、ボランティア支援班員(大学職員)に相談して、当日の活動を控えるようにしてください。

なお、持病の状況や体調によっては、ボランティア隊への参加自体を再考してください。無理を押しての参加は、他の方々に迷惑をかけることとなりますので、お控えください。



コミュニティセンター(集会場)利用について

遠野市のコミュニティセンターは、地区住民の方々が使用する公共の施設であり、本学のボランティア隊の活動支援のために特別に貸与されたものであるため、以下の注意事項を厳守して使用すること。

1 使用に当たって

使用に当たっては、遠野分室やコミュニティセンターを管理する自治会長及び市役所職員の指示に従い、清潔かつ平穩に使用すること。特に、地区住民の急の使用申し出があった場合には、その指示に従うこと。また、22時以降は静粛にし、夜間の宴会や騒音等は厳に慎むこと。

2 寝具の使用について

①使用した寝具は、使用者が責任を持って毎朝片付けること。寝具の敷きっぱなしは厳禁とする。

②シーツ、枕カバー等のリネン類は、退出日の朝、玄関内の所定の場所に集めること。

③寝具は、当センターを使用する他の本学教職員が共用するので、清潔に使用すること。

3 台所について

①台所に備え付けの備品(やかん、鍋、ポット、茶器等)を使用した場合は、使用後、きれいに洗い元の場所に片付けること。

②火災防止のため、台所に備え付けのレンジ等以外の火器の使用は厳禁とする。

4 トイレについて

①トイレは清潔に使用し、汚損した場合はすぐに掃除すること。

②コミュニティセンターを退館する場合は、必ずトイレの清掃を行うこと。

5 その他

①ごみは、所定の日に、遠野市指定のビニール袋に入れるなど、定められた方法により出すこと。それ以外に新たに出たごみは、各自が持ち帰ること。

②施設及び備品を毀損又は滅失してしまった場合には、随行している職員に連絡し、その指示に従うこと。

③退館する場合は、必ず屋内各所及び建物周辺の清掃を行うこと。

④コミュニティセンター内は、「禁煙」とする。

⑤その他、不明な点があれば随行している職員に連絡し、その指示に従うこと。



(5)活動報告

「ゴールデンウィークボランティア隊」の活動報告

このたび本学では、東日本大震災被災地の救援・復興支援活動の一環として、岩手県大槌町社会福祉協議会、陸前高田市教育委員会及び盛岡市の一般社団法人「SAVE IWATE」等との連携の下に、「ゴールデンウィークボランティア隊」の参加者を募り、岩手県遠野市を拠点として救援・復興支援活動を行いました。

ボランティア隊は、2班に分けてそれぞれ3泊4日の日程で募集をしたところ、募集数を大きく上回る応募があったため、応募順位を優先しつつ、学生と教職員との構成割合を考慮して参加者を決定し、結果として総勢77名を派遣しました。

【第1班】

合計41名(学生24名、教職員17名/男性25名、女性16名)

日程:

平成24年4月28日(土)～5月1日(火)[3泊4日(うち車中1泊)]

宿泊場所:遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター

活動場所:大槌町、陸前高田市、盛岡市

4月28日(土)(移動日)

4月29日(日)活動時間9:00～15:00

・大槌町吉里吉里地区の海岸でのがれき撤去・清掃作業 35名

・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名

4月30日(月)活動時間9:00～15:30

・盛岡市内(SAVE IWATE)での支援物資の搬入・梱包作業等41名

5月 1日(火)帰着



大槌町吉里吉里地区の海岸でのがれき撤去・清掃作業の様子



SAVE IWATEでの支援物資の搬入・梱包作業の様子

【第2班】

合計36名(学生19名、教職員17名/男性17名、女性19名)

日程:平成24年5月2日(水)～5月5日(土)[3泊4日(うち車中1泊)]

宿泊場所:遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター

活動場所:盛岡市、陸前高田市

5月2日(水)(移動日)

5月3日(木)活動時間9:00～15:00

・盛岡市内(SAVE IWATE)での支援物資の保管場所の清掃及びブルミ加工作业等 30名

※ 天候不良のため大槌町での作業が中止

・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名

5月4日(金)活動時間9:00～15:00

・天候不良により大槌町での作業が中止となったため、大槌町、釜石市等の沿岸被災地を視察 36名

5月5日(土)帰着



支援物資の保管場所の清掃作業の様子



被災地からのクルミの加工作业の様子



陸前高田市で学習支援をする学生

【夏季ボランティア隊】

平成24年8月に、学生・教職員総勢113名を3班に編成し「東京大学夏季ボランティア隊」として、岩手県遠野市を拠点とした沿岸被災地へ派遣しました。

(1) 募集要項

平成24年6月21日

学生・教職員の皆さんへ

救援・復興支援室

平成24年夏季「ボランティア隊」参加者の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興、再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しております。

昨年の夏季及び本年のゴールデンウィークに引き続き、夏季の休業期間に岩手県遠野市を拠点として沿岸被災地域等において復興支援の活動を行う、学生及び教職員による「ボランティア隊」参加者を募集いたします。

下記の内容をご覧ください、皆様の積極的な応募をお願いいたします。

1 活動期間

第1班 平成24年8月 2日(木)～8月 6日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第2班 平成24年8月 9日(木)～8月13日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第3班 平成24年8月23日(木)～8月27日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

※各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

2 募集人員

各班40名程度

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な活動ができる方。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ウェブサイトを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動内容

現地のニーズや時間の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。

一般的には、被災地域のがれき撤去・清掃作業、被災児童・生徒の学習支援、仮設住宅等での各種サポート活動等が想定されますが、具体的な活動内容は被災地の連携団体に委ねることになります。

なお、天候不良等により大槌町での活動が中止になる場合は、場所を変更しての活動となる予定です。

5 宿泊場所

遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター／各班の男子
同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／各班の女子
※ 参加状況などを踏まえて、場所が変更となる場合があります。
※ 宿泊場所・寝具は大学が借上げますので、参加者の負担はありません。

6 活動場所

岩手県の大槌町及び陸前高田市

※ 天候不良等により場所が変更となる場合があります。

7 活動日程

第1日目 7:30 東京大学集合
8:00 バスで大学を出発(途中で昼食)
17:00 遠野市に到着(買出し、入浴等)
19:00 宿泊場所に到着
(連絡事項の伝達、夕食、ミーティング等)
22:00 就寝
第2～3日目 6:00 起床、洗面・朝食・片付け
7:30 宿泊場所を出発(移動)
10:00～16:00 活動(昼食持参)
17:30 遠野市に帰着(買出し、入浴等)
19:00 宿泊場所に到着(夕食、ミーティング等)
22:00 就寝
第4日目 6:00 起床、洗面・朝食・片付け
7:30 宿泊場所を出発(移動)
10:00～16:00 活動(昼食持参)
17:30 遠野市に帰着(買出し、入浴等)
19:00 宿泊場所に到着(夕食、ミーティング等)
帰り仕度、片付け・清掃
21:30 現地出発(夜行バス)
第5日目 6:00 大学に到着・解散

8 現地等への移動手段

東京(本郷)～遠野市内／大学が借上げる貸切バス(1台)

遠野市内～活動場所／送迎バス(予定)

※ 上記のバス利用は、参加者の負担はありません。

9 生活環境

- ・宿泊 大部屋(畳又はフローリング敷き)。寝具は大学が用意します。
- ・入浴 宿泊場所に風呂・シャワー設備はありませんので、郊外の入浴施設(有料)への送迎を予定しています。
- ・食事 各自準備(遠野市内に大型スーパー、コンビニ、食堂等あり)。宿泊場所に給湯設備、簡易な調理設備があります。(持込コンロ等は使用禁止)
- ・洗濯 宿泊場所に設備はありません。

10 大学が用意するもの

・寝具一式、ビブス(ユニホームなどの上に着用するベスト状のもの。大学名入り)、名札、手袋(軍手)、防塵マスク、大ビニール袋

11 個人が用意するもの

- ・〈必需品〉作業着(長袖、長ズボン)、着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、マスク、ゴム手袋(厚手)、上下カップ、帽子、作業靴(踏抜き防止用スチール製中敷き含)、水筒又はペットボトル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食費、飲み物、他)
- ・〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、身分証明証(学生証)、健康保険証、各自必要な薬品、他

12 注意事項等

(1) 本件ボランティアについては、大学が募集して派遣することになりますが、基本的には ボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

(2) 活動内容は、状況に応じ現地連携団体と調整することになりますので、現地において決定される予定ですが、個人の勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。
なお、全体を通しては、救援・復興支援室ボランティア支援班員及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

(3) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(4) 錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、避難所でインフルエンザ等の感染症に罹患したりした等の例があります。各自で予防接種を受けるようにしてください。(地域の診療所等でお受けください。破傷風については本学の本郷地区保健センターでも実施しています。なお、予防効果には相応の期間や回数が必要な場合がありますのでご注意ください。)

(5) 参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)においてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

(6) 事前に説明会を開催しますので、ご出席ください。開催日は後日E-mail(決定通知)で連絡いたします。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項は、本学ウェブサイトの「Q&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

13 応募方法・締切等

別紙の「ボランティア申込書」に必要事項を記入の上、締切日7月6日(金)(その時点で各班の募集人員に満たない場合は、延長する場合があります。)までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あてE-mail又はFAXによりお送りください。
参加の可否は、追ってご本人あてにE-mail(決定通知書)で連絡いたします。

14 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ

平成 年 月 日提出

ボランティア申込書

(ふりがな)				性別	男・女
氏名				血液型	A, B, AB, O Rh+, Rh-
生年月日	年 月 日	年齢	歳		
所属等	(学生の場合は、学部・研究科、科類・学科・専攻等、学生証番号、学年) (教職員の場合は、部局名、職名)				
※学生の場合は保護者等の承諾が必要です。			(保護者等氏名)	承諾チェック欄 <input type="checkbox"/>	
希望活動期間 ※ 下段の欄から選択してください。 フルタイム可。	第1希望				
	第2希望				
連絡先	電話番号				
	携帯番号				
	メールアドレス(PO)				
	メールアドレス(携帯)				
緊急連絡先	FAX				
	氏名				
	続柄				
ボランティア経験の有無 (有の場合は内容を記載してください。)	有・無				
	参考までにお持ちの資格がある場合は記載してください。	(医師、看護師、保健師、臨床心理士等)			

※活動期間は下記のとおりです。

第1班：平成24年8月 2日(木)～8月 6日(月)
第2班：平成24年8月 9日(木)～8月13日(月)
第3班：平成24年8月23日(木)～8月27日(月)

受付日

(お知らせ)

～東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班から お知らせ～

平成24年度 夏季ボランティア隊募集

現在予定している内容は次のとおりです。


- 活動日程：
 - 第1班 平成24年8月 2日(木)～8月 6日(月) <4泊5日(うち車中1泊)>
 - 第2班 平成24年8月 9日(木)～8月13日(月) <4泊5日(うち車中1泊)>
 - 第3班 平成24年8月23日(木)～8月27日(月) <4泊5日(うち車中1泊)>
- 活動場所：
 - 岩手県の大槌町及び陸前高田市(予定)
- 活動内容：
 - 居住地や耕作地のガレキ撤去・整備等、子供の学習支援や相談相手、仮設住宅等での各種の生活サポート等が想定されますが、具体的な活動内容は状況に応じ現地連携団体と調整することになります。
 - 現地のニーズや時の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。
- 応募資格：
 - 本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な活動ができる方。
- 募集人数：各班40名程度
- 宿泊場所：
 - 遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター／各班の男子
 - 同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／各班の女子
- 募集締切：7月6日(金) ※募集人数に達し次第締め切ります。

※大学による支援内容は、宿泊場所の確保、東京～宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載していますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
 東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529 (内線22529)



13

(3) 参加者説明会

出発に先立ち、7月23日(月)に参加学生に対する事前説明会を開催し、法学部留学生クー・カーチャイさんと総合文化研究科職員工藤麻衣子さんによる被災地でのボランティア活動の報告、土井達雄ボランティア支援班員による日程や注意事項等の説明が行われました。

平成24年7月19日(木)
18:00～

ボランティア隊説明会次第

会場:工学部2号館213号室

- 1 開会の挨拶(武藤理事・副学長)
- 2 ボランティア活動経験者による活動報告
被災地での活動報告
 - 法学部留学生 クー・カーチャイさん「大槌町VCの活動について」
 - 総合文化研究科職員 工藤麻衣子さん「ボランティア隊に参加して」
- 3 参加者のしおりの説明(ボランティア支援班)
 - ① 日程と活動内容
 - ② 事前準備と注意事項
- 質疑・応答 —
- 4 各班に分かれての自己紹介等



法学部留学生 クー・カーチャイさんからの活動報告



総合文化研究科職員 工藤麻衣子さんからの活動報告



説明会の会場の様子

(4) 参加者のしおり (抜粋)

平成24年度夏季
ボランティア隊
参加者のしおり

平成24年7月19日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目 次

1 平成24夏季ボランティア隊の参加に当たって	・・・ 1
2 活動期間	・・・ 2
3 活動日程・日程表	・・・ 2～4
4 参加者名簿(班別)	・・・ 5～7
5 事前準備と持ち物	・・・ 8～9
1) ボランティア活動について	
2) ボランティア保険への加入について	
3) 予防接種について	
4) 大学への届出	
5) 持ち物	
6 注意事項等	・・・ 10～14
活動するに当たっての心構え	
地震発生時の注意事項	
急病等発生時の注意事項	
コミュニティセンター(集会場)の利用について	
7 こんな時はどうする(Q&A)	・・・ 15～18

参考資料

- ① 関係機関・施設
- ② 集合場所MAP
- ③ 遠野市内MAP
- ④ ボランティア保険加入手続きの手順・留意点・Q&A

1. 平成24年度夏季ボランティア隊の参加に当たって

この度の「夏季ボランティア隊」は、大学が力を入れて取り組んでいる東日本大震災にかかる被災地への救援・復興支援活動の一環として、大槌町社会福祉協議会ボランティアセンター等との連携の下に、本学の学生及び教職員により被災地におけるボランティア活動を行おうというものです。

具体的には、夏季の休業期間に、岩手県遠野市を拠点として、大槌町における居住地・耕作地や海岸等のガレキ撤去・整備、陸前高田市における学習支援等を行う予定ですが、実際の活動に際しては隊長・副隊長の統括の下、連携先の担当者の指示やボランティア支援班員(随行者)及び遠野分室職員からの連絡事項・指示に従ってください。

また、このボランティア隊は大学が企画し派遣するものですが、基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結が原則となりますので、事前準備や安全・健康管理に十分ご留意をお願いします。

※(関係団体)

・大槌町社会福祉協議会ボランティアセンター

URL: <http://kaigo.nsyakyo.or.jp/ootsuchi/>

・SAVE IWATE

URL: <http://sviwate.wordpress.com/>

・子どものエンパワメントいわて

URL: <http://soup1993.com/epatch.html>

2. 活動期間

第1班 平成24年8月 2日(木)～8月 6日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第2班 平成24年8月 9日(木)～8月13日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

第3班 平成24年8月23日(木)～8月27日(月)

<4泊5日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

3. 活動日程

※ 道路事情や天候等により変更になる場合があります。

第1日目

7:30 集合(東京大学本部棟前)

8:00 出発

車中又は休憩所にて昼食(各自負担)、適宜休憩

17:00 遠野市着

大型スーパーで夕食及び翌朝食等の買出し

入浴施設へ移動、入浴

19:00 遠野東大センターで鍵の受領

宿泊場所(遠野市コミュニティセンター)へ到着

適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等

22:00 就寝

第2～3日目

6:00 起床・洗面・朝食・片付け

7:30 バスにて宿泊場所を出発

9:00 大槌町ボランティアセンター受付

10:00～16:00 活動に従事(昼食)

17:30 遠野市へ到着

大型スーパーで夕食及び翌朝食等の買出し

入浴施設へ移動、入浴

19:00 宿泊場所へ到着

適宜、連絡事項の伝達、ミーティング等

22:00 就寝

平成24年8月30日

「夏季ボランティア隊」の活動報告

このたび、東日本大震災の被災地支援活動の一環として、岩手県大槌町社会福祉協議会及び陸前高田市教育委員会等との連携の下に、本学の学生及び教職員による「夏季ボランティア隊」の参加者を募り、岩手県遠野市を拠点として復興・再生への支援活動を行った。

夏季ボランティア隊は、3班編成でそれぞれ4泊5日(うち車中1泊)の日程で参加者を募集したところ、募集数を上回る多数の応募があったため、応募順位を優先しつつ学生と教職員との構成割合等を考慮して参加者を決定し、結果として総勢113名を派遣した。

【第1班】

合計36名(学生29名、教職員7名／男性24名、女性12名)
日程:平成24年8月2日(木)～8月6日(月)[4泊5日(うち車中1泊)]
宿泊場所:遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター
活動場所:大槌町、陸前高田市

8月2日(木)(移動日)

8月3日(金)活動時間10:00～15:30

・大槌町沢山地区の用水路の草刈り及びヘドロ出し作業 30名
「学びの部屋」学習支援の様子

・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名
(参加生徒数:1個所にて午前5名、午後21名)

8月4日(土)活動時間10:00～15:30

・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 36名

8月5日(日)活動時間10:00～15:30

・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 30名
・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名

(参加生徒数:3個所にて午前12名、午後10名)

8月6日(月)帰着



大槌町沢山地区の用水路のヘドロ出し



吉里吉里地区の海岸での清掃作業



出発時に本部棟前にて



「学びの部屋」学習支援の様子

【第2班】

合計40名(学生24名、教職員16名／男性25名、女性15名)
日程:平成24年8月9日(木)～8月13日(月)[4泊5日(うち車中1泊)]
宿泊場所:遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター
活動場所:大槌町、陸前高田市

8月 9日(木)(移動日)

8月10日(金)活動時間10:00～15:30

吉里吉里海岸の清掃作業遠景

- ・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 34名
- ・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名
(参加生徒数:1個所にて22名)

8月11日(土)活動時間10:00～15:30

・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 40名

8月12日(日)活動時間10:00～15:00

- ・大槌町吉里吉里地区の被災住宅地の草刈り作業 34名
- ・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名
(参加生徒数:3個所にて合計22名)

8月13日(月)帰着

合計37名(学生24名、教職員13名／男性19名、女性18名)
日程:平成24年8月23日(木)～8月27日(月)[4泊5日(うち車中1泊)]

宿泊場所:遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター

活動場所:大槌町、陸前高田市

8月23日(木)(移動日)

8月24日(金)活動時間10:00～15:30

マンツーマンの学習支援

- ・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 37名

※ 清掃作業用の「篩(フルイ)」10個を、大学から大槌町ボランティアセンターに寄付した。

8月25日(土)活動時間10:00～15:30

- ・大槌町でのお寺の清掃作業 37名

8月26日(日)活動時間10:00～15:30

- ・大槌町吉里吉里地区の海岸での清掃作業 31名

- ・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名
(参加生徒数:3個所にて合計9名)

【第3班】

8月27日(月)帰着



2日目の海岸清掃作業を終えて



吉里吉里地区の被災住宅地の草刈り作業



出発時の本部棟前にて全員写真



大槌町のお寺の清掃作業

2、岩手県陸前高田市「学びの部屋」 学習支援ボランティアの派遣

平成24年5月～7月、10月～12月、年末年始、平成25年2月～3月にかけて、学生による学習支援ボランティアを、岩手県陸前高田市へ派遣しました。

【5～7月学習支援ボランティア】

(1) 募集要項

平成24年4月17日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班
学習支援ボランティアの募集について(5月～7月)

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、「救援・復興支援室」を設置して様々な支援活動の取組みを進めています。

それらの一環として、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どもエンパワメントいわて」が主催する被災児童・生徒を対象とした学習支援事業「学びの部屋」に協力し、主に小・中学生の学習サポート活動等を行う、学生ボランティアを募集します。
下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年 5月26日(土)～5月27日(日) <1泊2日>
- (B) 平成24年 6月 9日(土)～6月10日(日) <1泊2日>
- (C) 平成24年 6月23日(土)～6月24日(日) <1泊2日>
- (D) 平成24年 7月 7日(土)～7月 8日(日) <1泊2日>

2 募集人員

各班5名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

岩手県陸前高田市市内3箇所の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童・生徒の学習をサポートする。

なお、具体的な活動内容は、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どもエンパワメントいわて」に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

※ 市職員の学習支援員(専任講師)並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に、サポート活動をする。

5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)

※ 寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

6 活動日程

第1日目

16:00 各自で遠野東大センター(宿泊場所)に集合
伝達事項、夕食、入浴、ミーティング等

22:00 就寝

第2日目

6:00 起床、朝食、清掃等

7:30 送迎用バスにより遠野東大センターを出発

9:00～15:00 活動(昼食持参)

17:30 送迎用バスによりJR一ノ関駅に到着・解散

7 現地等への移動手段

第1日目

東京～遠野市/各自、JRあるいは長距離バス等を利用(現地集合)

第2日目

遠野市～陸前高田市/ 送迎用バス

陸前高田市～JR一ノ関駅/ 送迎用バス(一ノ関駅解散)

JR一ノ関駅～JR東京駅/ 各自、JR等を利用

※ 遠野市～陸前高田市～一ノ関の送迎用バスは、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

※ 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

8 生活環境

・宿泊 遠野東大センター(小部屋又は大部屋)。
寝具は用意されています。

・入浴 宿泊場所にユニットバスがありますが、
多人数に対応するには不便です。
遠野市内に銭湯(有料)があります。

・食事 各自準備してください
(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。
宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

9 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、入浴、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 寝具、腕章、救急箱、トイレトペーパー・石鹸等の生活消耗品は、大学で用意しています。

10 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

11 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、各日程締切【(A)5月16日(B)5月30日(C)6月13日(D)6月27日】までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、各日程の締切については満員になり次第募集を終了いたします。

12 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア用】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名、研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可。希望順位があれば数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成24年 5月26日(土)～平成24年 5月27日(日)	
	(B)	平成24年 6月 9日(土)～平成24年 6月10日(日)	
	(C)	平成24年 6月23日(土)～平成24年 6月24日(日)	
	(D)	平成24年 7月 7日(土)～平成24年 7月 8日(日)	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PC)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄		
	電話番号		
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2524(内線22524)
 E-mail: volunteer@jmu@mladmu.tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成24年5月11日(金) 16:00～17:00

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

16:00～16:30 ボランティア支援班土井班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」

16:40～16:50 学習支援ボランティア参加者経験談
 法学政治学研究所法曹養成専攻3年
 大江弘之さんより

16:50～ 参加学生の顔合わせなど

(お知らせ)

学習支援ボランティア募集
 @ 陸前高田市「学びの部屋」

現在予定している内容が次のとおりです。

●活動日程:
 (A) 平成24年5月26日(土)～5月27日(日)<1泊2日>
 (B) 平成24年6月 9日(土)～6月10日(日)<1泊2日>
 (C) 平成24年6月23日(土)～6月24日(日)<1泊2日>
 (D) 平成24年7月 7日(土)～7月 8日(日)<1泊2日>

●活動場所: 岩手県陸前高田市の学校の教室
 ●活動内容: 中学校生徒の学習をサポート
 ●募集人数: 各日程: 5名
 ●宿泊施設: 遠野東大センター
 ●募集締切:
 (A)5月16日(B)5月30日(C)6月13日(D)6月27日
 各日程の募集は、満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援会による補助:2万円上限)、宿泊場所の確保、高田市内～陸前高田市内の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URLに【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/publish/recovery/volunteer_list.html

【問合せ先】
 東京大学教養・国際支援基ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階学生支援課内)
 E-mail: volunteer@mladmu.tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529 (内線22529)



「学びの部屋」
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年5月11日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目次

1、学習支援ボランティアの参加にあたって	・・・	1
2、活動期間	・・・	2
3、活動日程・日程表	・・・	2～4
4、参加者名簿(班別)	・・・	5
5、注意事項等	・・・	6～11
・活動するにあたっての心構え		
・地震発生時の注意事項		
・急病等発生時の注意事項		
・遠野東大センターの利用について		
6、事前準備と持ち物	・・・	12
1 ボランティア活動について		
2 ボランティア保険への加入について		
3 大学への届出		
4 持ち物		
5 食事・入浴について		
7 こんな時はどうする(Q&A)	・・・	13～14

参考資料

- ①関係機関・施設
- ②遠野市周辺MAP
- ③陸前高田市MAP
- ④学びの部屋とは
- ⑤ボランティア保険の加入の流れ

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

○学習支援ボランティアの活動について

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてに委ねています。

○活動にあたっての活動概要・注意事項等について

(1日目):東京駅から遠野市へ ※宿泊場所:遠野東大センター

・必ず集合時間(16:00)に遠野東大センターに集合してください。

(2日目):陸前高田市「学びの部屋」にてボランティア活動
～一ノ関駅から東京駅へ

- ・遠野東大センターから学びの部屋の間は送迎用の車を用意しています。
- ・活動内容については現地の学習支援員(陸前高田市職員)の指示に従ってください。
- ・活動場所を持っていくもの
□救急バッグ □腕章 □デジカメ□昼食 □飲み物
- ・活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください。(腕章の番号を確認します)
- ・送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。
- ・帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。
- ・帰りは、JR一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をして車に乗り込みましょう。
- ・救急バッグ、腕章、デジカメは、帰りの車の中に置いておいてください。

2. 活動期間

- (A) 平成24年 5月26日(土)～5月27日(日) <1泊2日>
(B) 平成24年 6月 9日(土)～6月10日(日) <1泊2日>
(C) 平成24年 6月23日(土)～6月24日(日) <1泊2日>
(D) 平成24年 7月 7日(土)～7月 8日(日) <1泊2日>

3. 活動日程

【1日目】東京から遠野市へ

16:00頃 宿泊場所(遠野東大センター)集合
適宜、ミーティング等
夕食(各自用意)

- ※ 宿泊場所である遠野東大センターの利用についての説明書が置いてありますので、みなさんで必ずよく読んでください。
- ※ 特に施設・火の用心については注意するようお願いいたします。
- ※ 翌日の朝食及び昼食を各自用意しましょう。(センターの近くに三丸屋、遠野駅の近くにとびあというスーパーがあります。コンビニは徒歩20分ほど。)
- ※ 入浴は、センター内の浴室を交代で使用してください。
なお、遠野駅の付近に「亀の湯:390円」という銭湯もあります。

22:00 就寝

◎往路の例(新幹線の場合)※P4参照

11:40 東京駅 出発(JR新幹線やまびこ59号)
新幹線内で昼食

14:40 新花巻 到着(乗換)

14:49 新花巻 出発(JR釜石線・釜石行)

15:42 遠野駅着 遠野東大センターへ
:徒歩15分程度(別紙遠野市周辺MAP参照)

運賃:片道13,840円(乗車券8,510円 特別料金5,330円)

【2日目】陸前高田市「学びの部屋」において学習支援活動

～一ノ関から東京へ

- 6:30 起床・朝食・片付け／帰り支度をする
※片付け等を行ってください。
- 7:30 送迎用車により遠野東大センターを出発(帰り荷物の積込)
(活動に持っていくもの)
□救急バッグ □腕章 □デジカメ □昼食 □飲み物
- 8:45 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着
- 9:00～15:00 学習支援活動に従事(昼食:各自用意)
- 17:30 送迎用車によりJR一ノ関駅へ到着、解散

◎復路の例(新幹線の場合)※P4参照

18:06 一ノ関駅 出発(JR新幹線はやて112号)

20:24 東京駅 到着

運賃:片道**12,470円**(乗車券7,140円 特別料金5,330円)

- ※1 現地(遠野東大センター～陸前高田市活動場所～一ノ関駅)のボランティア活動にかかる移動手段(送迎用車)は大学で手配します。
- ※2 今回のボランティア活動に従事した後、学習支援ボランティア活動報告書を提出願います。
- ※3 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(別紙参照)

5. 注意事項等

活動するにあたっての心構え

【全般】

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さ自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

【安全面】

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は**1000円**)に加入してください。(参考資料参照)

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

[学習支援ボランティア]

(11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(12) 今後の本学の学習支援ボランティアに生かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(13) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。1日という短期間ではありますが、児童・生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

- 走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- 活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- 屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- 沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。
- 体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- 余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- 自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(遠野東大センターで地震が発生したら)

- 遠野東大センターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- 台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- 万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- 余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- 遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

急病等発生時の注意事項

- (出発前に)急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。
《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)
携帯電話 080-2373-1881
- (活動中に)怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、すみやかに遠野分室までご連絡ください。
《連絡先》 東京大学救援・復興支援室遠野分室
E-mail tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
電話 080-1012-9827
- 意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。
少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

遠野東大センターの利用について

1. 利用できるセンターの施設
 - (1) 研究個室3部屋(各7.49㎡)
 - (2) 研究オフィス3ブロック(17.34㎡、13.78㎡、13.95㎡)
 - (3) その他(給湯室・冷蔵庫・洗面所・洗濯機・トイレ・ユニットバス等)
2. 利用上の注意事項
 - (1) 遠野東大センターの出入口は「2階」を使用し、ナンバー錠で管理しております。
 - (2) 利用した設備、備品等は利用後、速やかに原状に戻して下さい。
 - (3) 他の利用者に迷惑を及ぼすような行為はしないで下さい。
 - (4) 遠野分室の職員から指示があった場合には、必ずその指示に従って下さい。
3. 無線LAN使用について
 - (1) 学内LANが使用可能です。
 - (2) 2階電話機横の「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用して下さい。
 - (3) センター内のパソコン(3台)は利用可能ですので、共有して使用して下さい。
4. 複合機(プリンター)の使用について
 - (1) コピーは認証機能なく使用可能です。
 - (2) プリンターとして使用する場合(WIN.Mac)、プリンタドライバのインストールが必要となりますので、インストールマニュアルを参照し使用して下さい。
5. 掃除について
東京大学の共同利用の施設ですので、必ず毎日掃除を行いきれいに利用して下さい。
ゴミは、センター内に設置されたゴミ箱に捨ててください。遠野市のごみの分別は東京と異なりますので、指示どおりに分別して捨てして下さい。

6. 寝具について

寝具(羊毛掛布団・毛布・羊毛敷布団・枕)を用意しております。朝晩は冷え込む事がありますので、温かく睡眠できるよう各自準備してください。(1階事務室左から、敷布団・掛布団・毛布・枕・リネンと並んでいます。)

なお、使用後は1階事務室まで返却し、使用後のリネン(枕カバー・シーツ)は「2階洗濯機の上」に置いて下さい。(クリーニングします)

7. センターに宿泊する場合の注意事項

センターは一般住宅地にありますので、騒音を発しないようお願いいたします。
また、未成年者は絶対に飲酒しないこと、成人であっても飲みすぎないように注意して下さい。

8. その他

その他不明な点等ありましたら、ボランティア支援班員(080-2373-1881、1882)または遠野分室職員(080-1012-9827)まで問合せ願います。

6. 事前準備と持ち物

1 ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになります。基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。
- 2) 活動内容は、福島県大熊町教育委員会の要請に基づいていきますので、担当者等の連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は**1,000円**)に加入するようにしてください。

3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、運動靴(室内レク用)、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金
〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

5 食事・入浴について

食事は、朝・夕は会津自然の家でのバイキング形式で、1日当たり朝食410円、夕食560円の食費がかかります。
活動日の昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合って決めてください。近所に配達可能な弁当屋も幾つかあるので、利用が可能です。
入浴時間は、会津自然の家にて17:00~21:30の間ですが、他団体の利用状況によっては、事前調整があります。ポディーソープ、シャンプーはありますが、タオル等は各自準備してください。ドライヤーは2台設置されておりますが、洗面所でご利用ください。(設置場所以外で使用するとブレーカーが落ちるそうです。)

7. こんな時はどうする(Q&A)

[目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすればよいですか？

Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなかった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881

Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、遠野分室職員に連絡をしてからお帰りください。

Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物してしまった場合には、遠野分室職員に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 作業場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。

地震が発生したら、まずは家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、高台等の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

(例) 死亡保険金	2,000万円
後遺障害保険金	2,000万円(限度額)
入院保険金日額	11,000円
通院保険金日額	6,370円
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)

Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 遠野東大センターでは無線LAN(学内LAN)が使用可能です。無線LAN対応のノートパソコン等を持参であれば、「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用してください。

Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 本活動は、東京大学として活動しておりますので、無理な計画を立てずに団体行動をお願いします。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすればよいですか？

A 参加者で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局または遠野分室へご相談ください。

(4)活動報告

平成24年7月19日

「学びの部屋」学習支援ボランティアの活動報告

救援・復興支援室では、昨年度から引き続き、「陸前高田市教育委員会」等が主催する被災生徒等を対象とする学習支援事業「学びの部屋」に協力し、陸前高田市の中学校生徒等の学習を支援する学生ボランティアを派遣している。今回、平成24年5～7月の期間にA班5名(5月26日～27日)、B班5名(6月9日～10日)、C班5名(6月23日～24日)、D班5名(7月7日～8日)の全4班を派遣した。

【A班】 参加学生:5名(学部学生1名、大学院学生4名)
日程:平成24年5月26日(土)～5月27日(日) [1泊2日]
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
(1日目)5月26日(土)移動日:遠野東大センターに集合、ミーティング等
(2日目)5月27日(日)活動9:00～15:00
個別学習サポート、地域イベント参加、市の学習支援員との情報交換

高田第一中学校(参加生徒6名):東大学生3名
横田中学校(参加生徒なし):東大学生2名
※ 活動終了後帰途へ(JR一ノ関駅にて解散)



高田第一中学校での学習支援活動の様子



【B班】 参加学生:5名(学部学生1名、大学院学生4名)
日程:平成24年6月9日(土)～6月10日(日) [1泊2日]
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

(1日目)6月9日(土)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
(2日目)6月10日(日)活動9:00～15:00
個別学習サポート、試験の準備学習サポート

高田第一中学校(参加生徒17名):東大学生3名
米崎小学校(参加生徒5名):東大学生2名
※ 活動終了後帰途へ(JR一ノ関駅にて解散)



高田第一中学校での学習支援活動の様子

【C班】参加学生:5名(学部学生2名、大学院学生3名)
 日程:平成24年6月23日(土)~6月24日(日) [1泊2日]
 宿泊場所:遠野東大センター
 活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
 (1日目)6月23日(土)移動日:
 遠野東大センターに集合、ミーティング等
 (2日目)6月24日(日)活動9:00~15:00
 個別学習サポート、試験の準備学習サポート、情報交換
 高田第一中学校(参加生徒21名):東大学生3名
 横田中学校(参加生徒1名):東大学生2名
 ※ 活動終了後帰途へ(JR一ノ関駅にて解散)



高田第一中学校での学習支援活動の様子

【D班】参加学生:5名(学部学生3名、大学院学生2名)
 日程:平成24年7月7日(土)~7月8日(日) [1泊2日]
 宿泊場所:遠野東大センター
 活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
 (1日目)7月7日(土)移動日:
 遠野東大センターに集合、ミーティング等
 (2日目)7月8日(日)活動9:00~15:00
 個別学習サポート、入試の準備学習サポート
 高田第一中学校(参加生徒8名):東大学生3名
 米崎小学校(参加生徒1名):東大学生2名
 ※ 活動終了後帰途へ(JR一ノ関駅にて解散)



高田第一中学校での学習支援活動の様子

(1) 募集要項

平成24年4月17日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班
学習支援ボランティアの募集について(10～12月)

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災者の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、「救援・復興支援室」を設置して様々な支援活動の取組みを進めています。

それらの一環として、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する被災児童・生徒を対象とした学習支援事業「学びの部屋」に協力し、主に小・中学生の学習サポート活動等を行う、学生ボランティアを募集します。
下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年 10月20日(土)～10月21日(日) <1泊2日>
- (B) 平成24年 11月 3日(土)～11月 4日(日) <1泊2日>
- (C) 平成24年 11月17日(土)～11月18日(日) <1泊2日>
- (D) 平成24年 12月 1日(土)～12月 2日(日) <1泊2日>

2 募集人員

各班6名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

岩手県陸前高田市内3箇所の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童・生徒の学習をサポートする。

なお、具体的な活動内容は、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

※ 市職員の学習支援員(専任講師)並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に、サポート活動をする。

5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)

※ 寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

6 活動日程(内容は変更になる場合があります。)

第1日目

16:00 各自で遠野東大センター(宿泊場所)に集合
伝達事項、夕食、入浴、ミーティング等

22:00 就寝

第2日目

6:00 起床、朝食、清掃等

7:30 送迎用バスにより遠野東大センターを出発

9:00～15:00 活動(昼食持参)

17:30 送迎用バスによりJR一ノ関駅に到着・解散

7 現地等への移動手段

第1日目

東京～遠野市／各自、JRあるいは長距離バス等を利用(現地集合)

第2日目

遠野市～陸前高田市／送迎用バス

陸前高田市～JR一ノ関駅／送迎用バス(一ノ関駅解散)

JR一ノ関駅～JR東京駅／各自、JR等を利用

※ 遠野市～陸前高田市～一ノ関の送迎用バスは、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

※ 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

8 生活環境

・宿泊 遠野東大センター(小部屋又は大部屋)。
寝具は用意されています。

・入浴 宿泊場所にユニットバスがありますが、
多人数に対応するには不便です。
遠野市内に銭湯(有料)があります。

・食事 各自準備してください
(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。
宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

9 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、入浴、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 寝具、腕章、救急箱、トイレトペーパー・石鹸等の生活消耗品は、大学で用意しています。

10 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

11 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日9月28日(金)までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、募集人員に達し次第、募集を終了いたします。

12 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@陸前高田市】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名、研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可、希望順位があれば数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成24年 10月20日(土)～ 10月21日(日)	
	(B)	平成24年 11月 3日(土)～ 11月 4日(日)	
	(C)	平成24年 11月17日(土)～ 11月18日(日)	
	(D)	平成24年 12月 1日(土)～ 12月 2日(日)	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PO)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄	承諾チェック欄	<input type="checkbox"/>
	電話番号		
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成24年10月11日(木)
 16:30～17:30

場所 学生支援センター3F ディスカッションルーム
 (本郷キャンパス 学生支援センター本部学生支援課)

次第 16:30～17:00 ボランティア支援班
 土井達雄班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」

17:00～17:10 学習支援ボランティア参加者 経験談
 新領域創成科学研究科博士課程1年
 河底秀幸さんより

17:10～ 参加学生の顔合わせなど

(お知らせ)

学習支援ボランティア募集 @陸前高田市「学びの部屋」

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程:
 (A) 平成24年10月20日(土)～10月21日(日) <1泊2日>
 (B) 平成24年11月 3日(土)～11月 4日(日) <1泊2日>
 (C) 平成24年11月17日(土)～11月18日(日) <1泊2日>
 (D) 平成24年12月 1日(土)～12月 2日(日) <1泊2日>

●活動場所: 岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

●活動内容: 中学校等生徒の学習をサポート

●募集人数: 各日程 6名程度

●宿泊場所: 遠野東センター

●募集締切: 9月28日(金)
 (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。
 ・交通費 (ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)
 ・宿泊場所の確保
 ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
 東京大学支援・復興支援ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529
 (内線22529)

(3) 参加者のしおり(抜粋)



「学びの部屋」
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年10月11日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目次

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって	...1
2. 活動期間	...2
3. 活動日程・日程表	...2~4
4. 参加者名簿	...5
5. 事前準備と持ち物	...6
6. 活動から帰ったら	...7
7. 注意事項等	...8~13
活動するに当たっての心構え	
地震発生時の注意事項	
急病等発生時の注意事項	
遠野東大センターの利用について	
8. こんな時はどうする(Q&A)	...14~15

参考資料

関係機関・施設
遠野市周辺MAP
陸前高田市MAP
学びの部屋とは
ボランティア保険の加入の流れ

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

○学習支援ボランティアの活動

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてに委ねています。

2. 活動期間

A班 平成24年 10月20日(土)～10月21日(日)<1泊2日>
B班 平成24年 11月 3日(土)～10月 4日(日)<1泊2日>
C班 平成24年 11月17日(土)～11月18日(日) <1泊2日>
D班 平成24年 12月 1日(土)～12月 2日(日)<1泊2日>

3. 活動日程

【1日目】東京から遠野市へ

16:00頃 宿泊場所(遠野東大センター)集合
適宜、ミーティング等
夕食(各自用意)

- ※ 必ず集合時間(16:00)に遠野東大センターに集合してください。
- ※ 宿泊場所である遠野東大センターの利用についての説明書が置いてありますので、必ずお読みください。
- ※ 特に施設・火の用心にはご注意ください。
- ※ 翌日の朝食及び昼食を各自用意してください。
(センターの近くに三丸屋、遠野駅の近くにとぴあというスーパーがあります。コンビニは徒歩20分ほどです。)
- ※ 入浴は、センター内の浴室を交代で使用してください。なお、遠野駅の近くに「亀の湯:390円」という銭湯もあります。

22:00 就寝

◎往路の例(新幹線の場合)※P4参照

11:56 東京駅 出発(はやて25号新青森行)
新幹線内で昼食
13:37 仙台到着、乗換(やまびこ59号盛岡行)
14:40 新花巻到着、乗換
14:49 新花巻 出発(JR釜石線・釜石行)
15:42 遠野駅着 遠野東大センターへ
:徒歩15分程度(別紙遠野市周辺MAP参照)
運賃:片道**13,840円**(乗車券8,510円 特別料金5,330円)

【2日目】陸前高田市「学びの部屋」において学習支援活動

～一ノ関から東京へ

- 6:30 起床・朝食・片付け/帰り支度
- ※ 現地(遠野東大センター～陸前高田市活動場所～一ノ関駅)のボランティア活動にかかる移動手段(送迎用車)は大学で手配します。帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。
- 7:30 送迎用車により遠野東大センターを出発(帰り荷物の積込)
帰りは一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をして車に乗り込んでください。活動場所へは以下の物を持って行ってください。救急バッグ 腕章 デジカメ 昼食 飲み物
- 8:45 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着
- ※ 送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。
- 9:00～ 学習支援活動に従事(昼食:各自用意)
- ※ 活動内容については現地の学習支援員(陸前高田市職員)の指示に従ってください。
 - ※ 活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください
(腕章の番号を確認します)。
- 15:00 学習支援活動終了
- 17:30 送迎用車によりJR一ノ関駅へ到着、解散
救急バッグ・腕章・デジカメは帰りの車の中に置いておいてください。(別紙参照)

◎復路の例(新幹線の場合)※P4参照

18:06 一ノ関駅 出発(JR新幹線はやて112号)
20:24 東京駅 到着

運賃:片道**12,470円**(乗車券7,140円 特別料金5,330円)

5. 事前準備と持ち物

1 ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、自治体の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都:1000円)に加入するようにしてください。

2 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

3 持ち物

【必需品】 着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金

【その他】 携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※自分の持ち物は、責任を持って管理しましょう。

4 食事・入浴

原則として、食事・入浴の費用は各自で用意してください。活動日の昼食は周辺のスーパーなどで事前に用意してください(参考資料:関係機関・施設の連絡先、及び遠野市周辺MAP)。

遠野東大センター付近の三丸屋ではお弁当(500円)の注文が可能です(前日までに)。

お風呂については、遠野東大センターにシャワー設備が1つあります。または駅前に亀の湯(390円)という銭湯があります。

※ 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになります。基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結を原則とします。

※ 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください

6. 活動から帰ったら

1 ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を必ずご提出ください(別紙参照)。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2 写真

ボランティア支援班のデジタルカメラをお渡ししますので、活動の様子を複数枚は撮影してください。活動中、デジタルカメラを放置せずに大切に扱ってください。

ボランティア支援班で用意したデジタルカメラ以外で写真を撮影した場合は、差支えない範囲で写真を提供願えると幸いです。写真もボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3 ボランティア活動支援金

東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようご注意ください。ただし、迂回などをした場合は減額される可能性があります。

7. 注意事項等

活動するにあたっての心構え

【全般】

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

【安全面】

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1000円)に加入してください(参考資料参照)。

(10) 自分の体調を見極めましょう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

【学習支援ボランティア】

(11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(12) 今後の本学の学習支援ボランティアに生かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(13) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。1日という短期間ではありますが、児童・生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

(バス乗車時に地震が発生したら)

- (1) 走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- (2) 地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- (3) 活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (4) 屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- (5) 沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。
- (6) 体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- (7) 余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- (8) 自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(遠野東大センターで地震が発生したら)

- (9) 遠野東大センターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (10) 台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- (11) 万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- (12) 余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- (13) 遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

(4)活動報告

平成24年12月3日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア(10～12月)の活動報告

救援・復興支援室では、昨年度から引き続き、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災した中学校生徒等を対象とした学習支援活動を実施している。今回は、平成24年10～12月の期間に全4班22名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】 参加学生:6名(学部学生3名、大学院学生3名)
日程:平成24年10月20日(土)～10月21日(日)
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市市内の小・中学校の教室を利用

(1日目)10月20日(土)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
(2日目)10月21日(日)活動9:00～15:00
中学生への個別学習サポート、学習支援員等との情報交換

高田第一中学校(参加生徒10名)
米崎小学校(参加生徒2名)
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



米崎小学校での学習支援活動の様子



高田第一中学校での学習支援活動の様子

【B班】 参加学生:6名(学部学生1名、大学院学生5名)
日程:平成24年11月3日(土)～11月4日(日)
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市市内の小・中学校の教室を利用

(1日目)11月3日(土)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
(2日目)11月4日(日)活動9:00～15:00
中学生への個別学習サポート、学習支援員等との情報交換

高田第一中学校(参加生徒6名)
横田中学校(参加生徒1名)
米崎小学校(参加生徒2名)
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



高田第一中学校での学習支援活動の様子



米崎小学校での学習支援活動の様子

【第C班】参加学生:6名(学部学生2名、大学院学生4名)

日程:平成24年11月17日(土)~11月18日(日)

宿泊場所:遠野東大センター

活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

(1日目)11月17日(土)移動日:

遠野東大センターに集合、ミーティング等

(2日目)11月18日(日)活動9:00~15:00

中学生への個別学習サポート、情報交換

高田第一中学校(参加生徒10名)

横田中学校(参加生徒0名)

米崎小学校(参加生徒2名)

※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



横田中学校での学習支援活動の様子

【第D班】参加学生:4名(学部学生2名、大学院学生2名)

日程:平成24年12月1日(土)~12月2日(日)

宿泊場所:遠野東大センター

活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

(1日目)12月1日(土)移動日:

遠野東大センターに集合、ミーティング等

(2日目)12月2日(日)活動9:00~15:00

中学生への個別学習サポート、情報交換

高田第一中学校(参加生徒7名)

横田中学校(参加生徒0名)

米崎小学校(参加生徒2名)

※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



高田第一中学校での学習支援活動の様子

(1) 募集要項

平成24年11月15日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

「学びの部屋」学習支援ボランティア(年末年始)の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取り組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび昨年からの活動に引き続き、岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災児童・生徒を対象とした学習支援活動等を行う、学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年 12月25日(火)～12月28日(金) <3泊4日>
(B) 平成25年 1月 5日(土)～ 1月 8日(火) <3泊4日>
(C) 平成25年 1月 8日(火)～ 1月11日(金) <3泊4日>

※各日程、1日目は移動日で、学習支援活動は3日間行う

2 募集人員

各班6名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

岩手県陸前高田市内3箇所の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童・生徒の学習をサポートする。

なお、具体的な活動内容は、「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

※ 市職員の学習支援員(専任講師)並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に、サポート活動をする。

5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)

※ 寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

6 活動日程(内容は変更になる場合があります。)

- 第1日目
16:00 各自で遠野東大センター(宿泊場所)に集合
伝達事項、夕食、入浴、ミーティング等
22:00 就寝
第2～3日目
6:30 起床、朝食、清掃等
7:30 送迎車により遠野東大センターを出発
9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参)
16:30 遠野東大センターへ
夕食、入浴、ミーティング等
第4日目
6:30 起床、朝食、清掃等
7:30 送迎車により遠野東大センターを出発
9:00～15:00 学習支援活動(昼食持参)
17:30 送迎車によりJR一ノ関駅に到着・解散

7 現地等への移動手段

第1日目 東京～遠野市/ 各自、JRあるいは長距離バス等を利用(現地集合)

第2・3日目 遠野市～陸前高田市/ 送迎車

第4日目 遠野市～陸前高田市/ 送迎車
陸前高田市～JR一ノ関駅/ 送迎車(一ノ関駅解散)
JR一ノ関駅～JR東京駅/ 各自、JR等を利用

※ 遠野市～陸前高田市～一ノ関の送迎車は、大学で用意しますので参加者の負担はありません。

※ 東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html)

8 生活環境

- ・宿泊 遠野東大センター(小部屋又は大部屋)。寝具は用意されています。
・入浴 宿泊場所にユニットバスがありますが、多人数に対応するには不便です。遠野市内に銭湯(有料)があります。
・食事 各自準備してください(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

9 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、入浴、交通費、他)
〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他
※ 寝具、腕章、救急箱、トイレットペーパー・石鹸等の生活消耗品は、大学で用意しています。

10 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

11 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日1月30日(金)までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、募集人員に達し次第、募集を終了いたします。

12 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
FAX 03-5841-2519
TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@陸前高田市】ボランティア活動申込書

氏名 (ふりがな)		()	性別	男・女
学生証番号				
学部名・研究科名・学年		年		
科類・学科・専攻等				
希望活動日程 ※A～Cの期間で希望する日程に○(複数可。希望順位があれば数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成24年 12月25日(火)～12月28日(金)		
	(B)	平成25年 1月 5日(土)～1月 8日(火)		
	(C)	平成25年 1月 8日(火)～1月11日(金)		
連絡先	電話番号			
	携帯番号			
	Eメールアドレス(PO)			
	Eメールアドレス(携帯)			
緊急連絡先 (保護者等)	FAX			
	氏名			
	続柄			承諾チェック欄 <input type="checkbox"/>
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有			
	無			
備考				

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529 (内線22529)
 E-mail: volunteer-jmu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～ オリエンテーション次第

日時 平成24年12月10日(月)17:00～18:00

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第 17:00～17:30 ボランティア支援班 土井班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」

17:30～17:40 学習支援ボランティア参加者 経験談
 総合文化研究科博士課程 1年
 若杉 誠さんより

17:40～ 参加学生の顔合わせなど

(お知らせ)



★ 学習支援ボランティア募集
 @陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)

現在予定している内容は次のとおりです。



陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本震災によって、学習環境を失った子どもたちの安心して過ごせる空間(シンマ:空間、時間、仲間)を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。

- 活動日程:
 (A) 平成24年12月25日(火)～12月28日(金)<3泊4日>
 (B) 平成25年 1月 5日(土)～1月 8日(火)<3泊4日>
 (C) 平成25年 1月 8日(火)～1月11日(金)<3泊4日>
 ※各日程、1日目は移動日で、学習支援活動は3日間行います。

●活動場所: 岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

●活動内容: 中学校等生徒の学習をサポート

●募集人数: 各日程 6名程度

●宿泊場所: 遠野大センター

●募集締切: 11月30日(金)
 (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

- ※大学による支援内容は以下のとおりです。
- ・交通費(ボランティア活動支援会による後払い:2万円上限)
 - ・宿泊場所の確保
 - ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
 東京大学教養・復興支援ボランティア支援班
 (学生支援センター地下階本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jmu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529
 (内線22529)



(3) 参加者のしおり(抜粋)



「学びの部屋」
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年12月10日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目 次

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって	...1
2. 活動期間	...2
3. 活動日程・日程表	...2～5
4. 参加者名簿	...6
5. 事前準備と持ち物	...7
6. 活動から帰ったら	...8
7. 注意事項等	...9～14
活動するに当たっての心構え	
地震発生時の注意事項	
急病等発生時の注意事項	
遠野東大センターの利用について	
8. こんな時はどうする(Q&A)	...15～17

参考資料

関係機関・施設
遠野市周辺MAP
陸前高田市MAP
学びの部屋とは
ボランティア保険の加入の流れ

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

○学習支援ボランティアの活動について

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてに委ねています。

2. 活動期間

A班 平成24年 12月25日(火)～12月28日(金)	<3泊4日>
B班 平成25年 1月5日(土)～1月8日(火)	<3泊4日>
C班 平成25年 1月8日(火)～1月11日(日)	<3泊4日>

3. 活動日程

【1日目】東京から遠野市へ

16:00頃 宿泊場所(遠野東大センター)集合
適宜、ミーティング等
夕食(各自用意)

- ※ 必ず集合時間(16:00)に遠野東大センターに集合してください。
- ※ 宿泊場所である遠野東大センターの利用についての説明書が置いてありますので、必ずお読みください。
- ※ 特に施設・火の用心についてはご注意ください。
- ※ 翌日の朝食及び昼食を各自用意してください。(センターの近くに三丸屋、遠野駅の近くにとびあというスーパーがあります。コンビニは徒歩20分ほどです。)
- ※ 入浴は、センター内の浴室を交代で使用してください。なお、遠野駅の近くに「亀の湯:390円」という銭湯もあります。

22:00 就寝

【2～3日目】陸前高田市「学びの部屋」において学習支援活動

6:30 起床・朝食・片付け/帰り支度

- ※ 現地(遠野東大センター～陸前高田市活動場所～一ノ関駅)のボランティア活動にかかる移動手段(送迎用車)は大学で手配します。

7:30 送迎用車により遠野東大センターを出発

- ※ 活動場所へは以下の物を持っていくてください。
□救急バッグ □腕章 □デジカメ □昼食 □飲み物

8:45 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着

- ※ 送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

9:00～学習支援活動に従事(昼食:各自用意)

- ※ 活動内容については現地の学習支援員(陸前高田市職員)の指示に従ってください。

- ※ 活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください(腕章の番号を確認します)。

15:00 学習支援活動終了

16:30 送迎用車により遠野東大センターへ帰着
夕食・入浴・ミーティング等

22:00 就寝

【4日目】陸前高田市「学びの部屋」において学習支援活動

～一ノ関から東京へ

6:30 起床・朝食・片付け/帰り支度

- ※ 帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。

7:30 送迎用車により遠野東大センターを出発(帰り荷物の積込)

- ※ 帰りは一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をして車に乗り込んでください。

- ※ 活動場所へは以下の物を持っていくてください。
□救急バッグ □腕章 □デジカメ □昼食 □飲み物

8:45 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着

- ※ 送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

9:00～学習支援活動に従事(昼食:各自用意)

- ※ 活動内容については現地の学習支援員(陸前高田市職員)の指示に従ってください。

- ※ 活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください(腕章の番号を確認します)。

15:00 学習支援活動終了

17:30 送迎用車によりJR一ノ関駅へ到着、解散

- ※ 救急バッグ・腕章・デジカメ・名札ケース等は帰りの車の中に置いておいてください。

5. 事前準備と持ち物

1 ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、自治体の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都:1000円)に加入するようにしてください。

2 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

3 持ち物

【必需品】着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金

【その他】携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※自分の持ち物は、責任を持って管理しましょう。

4 食事・入浴

原則として、食事・入浴の費用は各自で用意してください。活動日の昼食は周辺のスーパーなどで事前に用意してください(参考資料:関係機関・施設の連絡先、及び遠野市周辺MAP)。

遠野東大センター付近の三丸屋ではお弁当(500円)の注文が可能です(前日までに)。

お風呂については、遠野東大センターにシャワー設備が1つあります。または駅前に亀の湯(390円)という銭湯があります。

※ 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結を原則とします。

※ 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください

6. 活動から帰ったら

1 ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を必ずご提出ください(別紙参照)。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2 写真

ボランティア支援班のデジタルカメラをお渡ししますので、活動の様子を複数枚は撮影してください。活動中、デジタルカメラを放置せずに大切に扱ってください。

ボランティア支援班で用意したデジタルカメラ以外で写真を撮影した場合は、差支えない範囲で写真を提供願えると幸いです。写真もボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3 ボランティア活動支援金

東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようにご注意ください。ただし、迂回などをした場合は減額される可能性があります。

7. 注意事項等

活動するにあたっての心構え

【全般】

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

【安全面】

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1000円)に加入してください(参考資料参照)。

(10) 自分の体調を見極めましょう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

【学習支援ボランティア】

(11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(12) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

(13) 問題の正誤だけでなく、学習の方法についても注意し、自立した学習の形成を促すようにしましょう。

(14) 家庭での学習方法に配慮し、日頃の生活も含めた心のケアを行うよう努めましょう。

(15) 活動後は、今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、ボランティア活動報告書を提出してください。

8. こんな時はどうする(Q&A)

[目次]

- Q-1. 急に参加できなくなった時は？
- Q-2. 急に帰京しなければならなくなった時は？
- Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？
- Q-4. 活動中に地震が発生した時は？
- Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？
- Q-6. 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられますか？
- Q-7. パソコンを持参しても使用できますか？
- Q-8. 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- Q-9. 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

Q-1. 急に参加できなくなった時は？
遅くとも、出発日の前日(前日が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail	volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
直通電話	03-5841-2529(平日9時～17時)
携帯電話	080-2373-1881、1882
携帯アドレス	volunteer1881@docomo.ne.jp
	volunteer1882@docomo.ne.jp

Q-2. 急に帰京しなければならなくなった時は？
何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881)に連絡をしてからお帰りください。

Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？
まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、遠野分室職員に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4. 活動中に地震が発生した時は？
作業場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。
地震が発生したら、まずは家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。
揺れが収まってから、高台等の避難場所へ速やかに移動してください。
その際、決して単独行動はしないでください。

Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？
天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

(例)	死亡保険金	2,000万円
	後遺障害保険金	2,000万円(限度額)
	入院保険金日額	11,000円
	通院保険金日額	6,370円
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)

Q-6. 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられますか？

ボランティア保険は、活動中に自分がけがなどをした場合や、第三者の身体・財物に損害を与えた場合などに補償を受けられるものですが、自分の持ち物が破損等の損害を被った際には補償の対象とはなりません。活動場所に持ち込むカメラ・携帯電話等の持ち物については責任を持って管理してください。

Q-7. パソコンを持参しても使用できますか？

宿泊場所及び活動場所にはネットワーク環境が整備されていないので、パソコンをお持ちいただいてもインターネットへの接続は行えません。また、WiMAXやE-mobile等の無線モバイルインターネット接続サービスに関しても、サービス提供エリア外の可能性があるため、事前に各自で確認をお願いします。

Q-8. 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いします。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようお願いいたします。

Q-9. 期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

土曜日の集合時間・場所から日曜日の解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。

Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

参加者で協議して対応してください。
対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局または遠野分室へご相談ください。

平成25年1月15日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア
(H24年末～H25年始)の活動報告

救援・復興支援室では、昨年度から引き続き、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災した中学校生徒等を対象とした学習支援活動を実施している。今回は、平成24年末～平成25年始の期間に全3班17名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】 参加学生:5名(学部学生3名、大学院学生2名)
日程:平成24年12月25日(火)～12月28日(金)
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
活動内容:
中学生への個別学習サポート、学習支援員等との情報交換

- (1日目)12月25日(火)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
- (2日目)12月26日(水)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒25名)
広田中学校(参加生徒12名)
- (3日目)12月27日(木)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒14名)
横田中学校(参加生徒6名)
- (4日目)12月28日(金)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒15名)
広田中学校(参加生徒10名)
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



高田第一中学校での学習支援活動の様子



広田小学校での学習支援活動の様子



横田中学校での学習支援活動の様子

【B班】 参加学生:6名(学部学生5名、大学院学生1名)
日程:平成25年1月5日(土)～1月8日(火)
宿泊場所:遠野東大センター
活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
活動内容:中学生への個別学習サポート、情報交換

- (1日目)1月5日(土)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
- (2日目)1月6日(日)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒6名)
米崎小学校(参加生徒1名)
広田中学校(参加生徒3名)
- (3日目)1月7日(月)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒20名)
- (4日目)1月8日(火)活動9:00～15:00
高田第一中学校(参加生徒10名)
米崎小学校(参加生徒2名)
横田中学校(参加生徒4名)
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



高田第一中学校での学習支援活動の様子



広田小学校での学習支援活動の様子



広田小学校での学習支援活動の様子

【C班】参加学生:6名(学部学生1名、大学院学生5名)
 日程:平成25年1月8日(火)~1月11日(金)
 宿泊場所:遠野東大センター
 活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
 活動内容:中学生への個別学習サポート、情報交換

- (1日目)1月 8日(火)移動日:
遠野東大センターに集合、ミーティング等
- (2日目)1月 9日(水)活動9:00~15:00
高田第一中学校(参加生徒13名)
広田中学校(参加生徒9名)
- (3日目)1月10日(木)活動9:00~15:00
高田第一中学校(参加生徒12名)
米崎小学校(参加生徒4名)
横田中学校(参加生徒16名)
- (4日目)1月11日(金)活動9:00~15:00
高田第一中学校(参加生徒20名)
広田中学校(参加生徒9名)
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



高田第一中学校での学習支援活動の様子

(1)募集要項

平成24年12月27日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

「学びの部屋」学習支援ボランティア(2～3月)の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取り組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび昨年からの活動に引き続き、岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災児童生徒を対象とした学習支援活動等を行う、学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

(A) 平成25年 2月12日(火)～ 2月15日(金) <3泊4日>

(B) 平成25年 2月19日(火)～ 2月22日(金) <3泊4日>

(C) 平成25年 2月26日(火)～ 3月 1日(金) <3泊4日>

※ 各日程とも、学習支援活動は3日間で、最終日は移動日。

※ 活動時間は、各日18:30～20:30。(現地での都合により活動時間帯や内容が変更になる場合もあります。)

2 募集人員

各班8名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

岩手県陸前高田市市内の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童生徒の学習をサポートする。

なお、活動内容は「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねていますが、具体的内容の一部を任せられる場合があります。

※ 市職員や学習支援員等と協力し、学習サポート活動をする。

※ 活動時間中に、生徒と交流ができるようなレクリエーション等の時間を含みます。

5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター(遠野東大センター)

※ 寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

6 活動日程(内容は変更になる場合があります。)

第1日目

13:30 各自で遠野東大センター(宿泊場所)に集合

伝達事項、ミーティング、食事準備等

17:00 送迎車により遠野東大センターを出発

18:30～20:30 学習支援活動

22:00 遠野東大センターへ

入浴、ミーティング等

23:00 就寝

第2～3日目

7:00 起床、清掃等

活動準備、ミーティング、食事準備等

17:00 送迎車により遠野東大センターを出発

18:30～20:30 学習支援活動

22:00 遠野東大センターへ

入浴、ミーティング等

23:00 就寝

第4日目

7:00 起床、清掃等

現地にて解散(移動日)

7 現地等への移動手段

第1日目 東京～遠野市/ 各自、JRあるいは長距離バス等を利用(現地集合)

遠野市～陸前高田市/ 送迎車

第2・3日目 遠野市～陸前高田市/ 送迎車

第4日目 遠野市～東京/ 各自、JR等を利用

※ 遠野市～陸前高田市の送迎車は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

※ 東京～遠野市の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html)

8 生活環境

・宿泊 遠野東大センター(小部屋又は大部屋)。寝具は用意されています。

・入浴 宿泊場所にユニットバスがありますが、多人数に対応するには不便です。遠野市内に銭湯(有料)があります。

・食事 各自準備してください(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。特に、夕食の時間・場所は、各自で工夫してください。宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

9 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、入浴、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 寝具、腕章、救急箱、トイレトペーパー・石鹸等の生活消耗品は、大学で用意しています。

10 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

11 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日1月21日(月)までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、募集人員に達し次第、募集を終了します。

12 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション次第

【東京大学学習支援ボランティア@陸前高田市】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名・研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Cの期間で希望する日程に○(複数可。希望順位があれば数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成25年 2月12日(火)～ 2月15日(金) <3泊4日>	
	(B)	平成25年 2月19日(火)～ 2月22日(金) <3泊4日>	
	(C)	平成25年 2月26日(火)～ 3月 1日(金) <3泊4日>	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PC)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄	承諾チェック欄	<input type="checkbox"/>
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有		
	無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jinu@mail.adm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成25年1月31日(木) 18:00～19:00(予定)

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第 18:00～18:30 ボランティア支援班 土井班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」
 18:40～18:45 学習支援ボランティア参加者 経験談
 工学部建築学科 4年 福田 佳彰さんより
 18:45～ 参加学生の顔合わせなど

(お知らせ)



現在予定している内容は次のとおりです。



陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間(サンマ:空間、時間、仲間)を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。

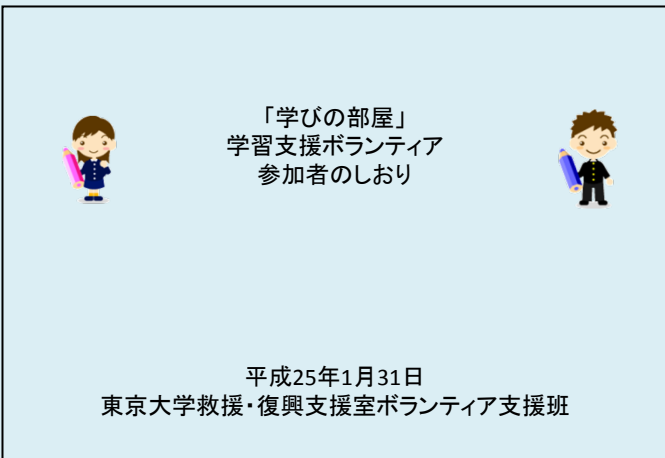
- 活動日程:
 (A) 平成25年2月12日(火)～2月15日(金) <3泊4日>
 (B) 平成25年2月19日(火)～2月22日(金) <3泊4日>
 (C) 平成25年2月26日(火)～3月 1日(金) <3泊4日>
 ※各日程とも、学習支援活動は3日間で、最終日は移動日。
 ※活動時間は、各日18:30～20:30。
 (混地での都合により活動時間帯や内容が変更になる場合もあります。)

- 活動場所: 岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室
- 活動内容: 中学校等生徒の学習をサポート
- 募集人数: 各日程 8名程度
- 宿泊場所: 遠野東大センター
- 募集締切: 1月21日(月)
 (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

- ※大学による支援内容は以下のとおりです。
 - ・交通費 (ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)
 - ・宿泊場所の確保
 - ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
 東京大学教援・復興支援班ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jinu@mail.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2510
 TEL: 03-5841-2529
 (内線22529)



目 次

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって	...1
2. 活動期間	...2
3. 活動日程・日程表	...2～5
4. 参加者名簿	...6
5. 事前準備と持ち物	...7
6. 活動から帰ったら	...8
7. 注意事項	...9～14
活動するにあたっての心構え	
地震発生時の注意事項	
急病等発生時の注意事項	
遠野東大センターの利用について	
8. こんな時はどうする(Q&A)	...15～17

参考資料

- 関係機関・施設
- 遠野市周辺MAP
- 陸前高田市MAP
- 学びの部屋とは
- ボランティア保険の加入の流れ

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

○学習支援ボランティアの活動について

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする小・中学生の学習サポートをするというもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動にあたっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてに委ねています。

- ※ 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任・自己完結**を原則とします。
- ※ 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご注意ください。
- ※ 一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」については、HP (<http://www.epatch.jp/>) や、巻末の「学びの部屋新聞」等を参照ください。

- 2. 活動期間
 - A班 平成25年 2月12日(火)～2月15日(金) <3泊4日>
 - B班 平成25年 2月19日(火)～2月22日(金) <3泊4日>
 - C班 平成25年 2月26日(火)～3月 1日(金) <3泊4日>

3. 活動日程

【1日目】

- 東京から遠野へ ○初日オリエンテーション ○学習支援活動
- ※ 各自で行きの電車内または到着後に昼食をとってください。

13:00頃 宿泊場所(遠野東大センター) 集合
適宜、ミーティング等

- ※ 必ず集合時間(13:00)に遠野東大センターに集合してください。
- ※ 宿泊場所である遠野東大センターの利用について、職員から説明いたします。なお、利用についての説明書も置いてありますので、併せてお読みください。
- ※ 特に施設・火の用心にはご注意ください。
- ※ 翌日の朝食及び昼食を各自用意してください。(センターの近くに三丸屋、遠野駅の近くにとぴあというスーパーがあります。コンビニは徒歩20分ほどです。)

14:30 送迎用車により遠野東大センターを出発

- ※ 現地(遠野東大センター～陸前高田市内活動場所)のボランティア活動にかかる移動手段(送迎用車)は大学で手配します。
- ※ 活動場所へは以下の物を持って行ってください。
□救急バッグ □腕章 □デジカメ □飲み物 □名札ケース

15:45 陸前高田市「陸前高田まちづくり協働センター」に到着

- ※ 「陸前高田まちづくり協働センター」とは、復興に向けて、地域の活性化・より良い町づくりのための支援活動(地域の情報収集・発信、講座の開催など)を行っているセンターです。詳しくはセンターのHP (<http://rtmachikyodo.jimdo.com/>) などをご覧ください。

16:00～ 初日オリエンテーション(1時間程度を予定)に参加
終了後、夕食

- ※ 一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」の担当者からオリエンテーションがあります。当日は他大学の学生も参加する予定です。
- ※ 夕食は会場近くの「高田大隅つどいの丘商店街」でとる予定です。この商店街は14の店舗・事務局の入居する市内最大の仮設商店街で、「まちづくり協働センター」もそのうちの1つです。巻末に店舗の紹介を含むマップがありますので参考にしてください。

送迎用車により各活動場所へ移動

18:30 「学びの部屋」活動場所に到着、活動開始

- ※ 送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

20:30 学習支援活動終了

22:00 送迎用車により遠野東大センターへ帰着
入浴・ミーティング等

- ※ 入浴は、センター内のユニットバスを交代で使用してください。

23:00 就寝

【2～3日目】○振り返り・情報交換会 ○学習支援活動

8:00 起床・朝食

活動のための準備、買い出し等

※ 午後からはずっと活動なので、食事などの買い出しは午前中にすませましょう。

適宜昼食

12:30 送迎用車により遠野東大センターを出発

13:45 陸前高田市「陸前高田まちづくり協働センター」に到着

14:00 振り返り・情報交換会(2時間程度を予定)に参加

終了後、休憩・夕食

※ 振り返り・情報交換会では一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」の担当者の指示に従ってください。

※ 夕食は会場近くの「高田大隅つどいの丘商店街」でとる予定です。

18:00 送迎用車により移動

18:30 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着

学習支援活動に従事

20:30 学習支援活動終了

22:00 送迎用車により遠野東大センターへ帰着

入浴・ミーティング等

23:00 就寝

【4日目】○遠野から東京へ

8:00 起床・朝食・片付け/帰り支度

※ 朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をしてください。

※ 救急バッグ・腕章・デジカメ・名札ケース等がそろっているか確認してください。

適宜解散

6. 活動から帰ったら

1 ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を必ずご提出ください(別紙参照)。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2 写真

ボランティア支援班のデジタルカメラをお渡ししますので、活動の様子を複数枚は撮影してください。活動中、デジタルカメラを放置せずに大切に扱ってください。

ボランティア支援班で用意したデジタルカメラ以外で写真を撮影した場合は、差支えない範囲で写真を提供願えると幸いです。写真もボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3 ボランティア活動支援金

東京～遠野の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようご注意ください。ただし、迂回や本活動以外の目的による寄り道などをした場合は減額される可能性があります。

平成25年3月4日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア
(平成25年2～3月)の活動報告

救援・復興支援室では、昨年度から引き続き、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災した中学校生徒等を対象とした学習支援活動を実施している。

今回は、平成25年2～3月の期間に、1回当たり3泊4日の日程で他大学の学生と共同で行う学習支援事業(スリーデイズプログラム)に対し、全3班23名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】参加学生:8名(学部学生4名、大学院学生4名)

日程:平成25年2月12日(火)～2月15日(金)

宿泊場所:遠野東大センター

活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

活動内容:中学生への個別学習サポート、
学習支援員等との情報交換

※ 各日の活動前に、市内「陸前高田まちづくり協働センター」において情報交換会。

(1日目)2月12日(火)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒23名)

米崎小学校(参加生徒18名)

(2日目)2月13日(水)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒25名)

米崎小学校(参加生徒4名)

(3日目)2月14日(木)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒33名)

米崎小学校(参加生徒10名)

(4日目)2月15日(金)移動日(活動なし)



【B班】参加学生:8名(学部学生7名、大学院学生1名)

日程:平成25年2月19日(火)～2月22日(金)

宿泊場所:遠野東大センター

活動場所:陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

活動内容:中学生への個別学習サポート、
学習支援員等との情報交換

※ 各日の活動前に、市内「陸前高田まちづくり協働センター」において情報交換会。

(1日目)2月19日(火)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒36名)

米崎小学校(参加生徒10名)

(2日目)2月20日(水)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒25名)

米崎小学校(参加生徒3名)

(3日目)2月21日(木)活動18:30～20:30

高田第一中学校(参加生徒25名)

米崎小学校(参加生徒11名)

(4日目)2月22日(金)移動日(活動なし)





- 【C班】** 参加学生：7名（学部学生6名、大学院学生2名）
 日程：平成25年2月26日（火）～3月1日（金）
 宿泊場所：遠野東大センター
 活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
 活動内容：中学生への個別学習サポート、
 学習支援員等との情報交換
- ※ 各日の活動前に、市内「陸前高田まちづくり協働センター」において情報交換会。
- （1日目）2月26日（火）活動18：30～20：30
 高田第一中学校（参加生徒11名）
 米崎小学校（参加生徒 名）
- （2日目）2月27日（水）活動18：30～20：30
 高田第一中学校（参加生徒4名）
 米崎小学校（参加生徒 名）
- （3日目）2月28日（木）活動18：30～20：30
 高田第一中学校（参加生徒8名）
 米崎小学校（参加生徒 名）
- （4日目）3月 1日（金）移動日（活動なし）

【ボランティア参加者の活動報告(抜粋)】

○学習支援の面からも、今後長期間にわたる被災生徒の学力低下が懸念されることなので、精神的サポートも含めた、数年単位での活動が必要だと思われる。(大学院修士課程1年生)

○1日(実質の活動は3時間に満たない)では現地の雰囲気はつかむことはできて、具体的に何か活動ができる、というわけではないと感じました。長期休暇などにもっと長い期間まとまった支援ができればよりよい形になるのではないかと思います。(学部2年生)

○勉強の合間に話をしたときに、自分の夢を語ってくれた生徒が印象的です。ただ勉強を教えに行っただけでなく、このように生徒と普通の交流ができたことが私にとって大きな収穫であったと思っています。今後も継続して活動していくことを生徒も欲していると感じました。(学部4年生)

○学習面はもちろんのこと、大学生活の話とか、自分の研究の話とか、中学生が今後の進路を考えることの助となるような話ができたらよりよいように感じました。「学習相談会」だと構えてしまう生徒さんも、「大学生との交流会」という名前なら気軽に来てくれるのではと思います。今回は自分があまり役立てなかった印象を持ったのですが、ボランティアを押し付けるのではなく、単にそこでじっと待ってボランティアをしてほしい人のことを待つこともまたボランティアだということを教えていただいて、目から鱗が落ちる思いでした。(学部4年生)

○中学生らしい素朴な質問も投げかけられて、こちらも勉強になった。具体的には算数と数学のギャップだ。実学に沿った数字の扱いが算数である。数学ではそこに負の概念や方程式を持ち込むことにより、「数学」の土俵だけで問題を解決していくようになる。担当した中学生はそのような疑問を持っていた。そんな生徒に対して、常駐のボランティアの方が鶴亀算と方程式の例を使ってわかりやすく説明していたことに感銘を受けた。このように、意識の高い生徒が多かったので、教える方も教え甲斐があった。この地域の実情は高校全入のようだが、それでも高めに目標を設定して教育している点が素晴らしかった。(大学院修士課程1年生)

○東大生に勉強の方法を聞いたり、大学生活や授業について聞いたりする機会にしてもよいかなと思います。様々なバックグラウンドの理系学生などは東大の強みかなとも思います。長期的なつながりや、参加した学生がまた参加して再び指導・交流できる機会にできるとより良くなるのではないかなと思いました。(大学院修士課程1年生)

○「問題を解ける」という自信を持たすなどして、1つの問題に時間をかけて考えることができるようになるのとびていくのではないかなと思いました。(大学院修士課程2年生)

○中三の学生が多かったです。独学で勉強できるので、勉強を教えることはあまりなく、将来の夢などについて話し合いました。一人の中三の男子は、薬剤師になりたくて、東北大学薬学部を目指しているそうです。中三の頃でも、それほどはっきりした夢を持っていて驚きました。中国語も少し教えました。集まった生徒たちは自分の名前の中国語の発音に興味があるらしく、楽しんでもらえたようです。(大学院修士課程1年、留学生)

○冬の遠野は非常に寒いです。風邪を引いてしまっただけでは、ボランティアにきた意味がなくなってしまうので、防寒対策には十分気をつけたいところ。また近くのスーパーは夜9時に閉まってしまうし、食料の調達などにも気をつけた方がいいかなと思いました。(大学院博士課程2年生)

○学習支援ボランティアの後、送迎の方が陸前高田市や気仙沼市の津波被害の傷跡を回っていただきました。テレビなどで被災地の様子はたくさん見てきたはずでしたが、実際に目にすると思像していたよりはるかにすさまじいもので、背筋が寒くなる思いでした。テレビと違い、ここに現実として起こったことなのだと実感しました。年内にすべての建物が処理されてしまう前に、その現実を見させていただき、よい経験になりました。(学部3年生)

○子どもは多かれ少なかれ学習内容について疑問を抱えているはずで、個別の相談はぜひとも必要です。生徒が質問しないときでも、他の子どもや忙しい指導員を気遣って質問をしないだけということが多々あります。被災地では継続的に人手を増やしていくことが必要だと感じました。(大学院博士課程2年生)

○現地の支援員の方によれば、支援が受験指導に偏りがちなのが気がかりとのことで、天体観測など学問への興味を促すような企画もあればと思います。生徒さんたちも長い仮設住宅暮らしで運動不足や不規則な生活になっており、非常に気になりました。(学部4年生)

○ノートの取り方や答え合わせのやり方など私たちが暗黙知的に抱えている知識は意外と一人では気づけない。継続した学びのためにも”勉強の仕方”を教えることが重要であろう。(学部3年生)

○東大生が定期的に被災地を訪れるということは、学習支援を行うとともに、東大が被災地を長期的にバックアップしたいという意味を示すという意味もあると思いますので、長期的に継続していくことが重要だと思います。(大学院修士課程2年生)

○中3受験生を中心に学習支援活動を行った。最初は緊張している様子で生徒からあまり質問をしてもらうことはほとんどなかったが日を重ねるにつれてお互い打ち解け合い、生徒の方から質問も数多く出るようになった。内容としては生徒が持参の高校入試対策問題集を解いていき、分からない問題を解説していった。答えをすぐ見ってしまう癖があったので数学などではヒントを少しづつだしてなるべく自分で考えさせるように努めた。(学部4年生)

○今回は「スリーデイズ・プログラム」としてこれまでの単発的な大学生の参加ではなく、3日間にわたって、しかもほぼマンツーマンに近い人数規模で学習サポートしたため、これ以前の「学びの部屋」の参加者に聞いていた内容よりも生徒との関係が密となり、生徒側、学生双方にとって良い効果をもたらしたように思う。(修士課程1年)

3、福島県相馬市「寺子屋事業」 学習支援ボランティアの派遣

平成24年6月～7月、9月～10月、11月～12月、平成25年1月～3月にかけて、学生による学習支援ボランティアを、福島県相馬市の応急仮設住宅へ派遣しました。

【6～7月学習支援ボランティア】

(1) 募集要項

平成24年5月21日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県相馬市学習支援ボランティア(6～7月)の募集について

本学は、社会的公共性を有する総合大学として、東日本大震災被災地の救援・復興支援に当たることは責務であるとの認識のもとに、様々な支援活動の取組みを進めています。

このたびそれらの一環として、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小中学生を対象として、学習支援活動を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年6月16日(土)～6月17日(日)
- (B) 平成24年6月30日(土)～7月1日(日)
- (C) 平成24年7月7日(土)～7月8日(日)
- (D) 平成24年7月21日(土)～7月22日(日)

各日の活動時間:

- 土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
- 日曜日 10:00～12:00

2 募集人員

各班6名。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所を利用し、自習を基本とする小中学生の学習支援を行う。

なお、具体的な活動内容は、相馬市教育委員会等と協議して決定する。

5 宿泊場所

相馬市内の賃貸アパート

※ 相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

6 現地等への移動手段

東京～JR福島駅: 各自、JR等を利用(JR福島駅集合・解散)

JR福島駅～相馬市内: 定期バス(福島交通)により移動

相馬市内の移動(宿泊場所～活動場所): タクシーを利用

※ JR福島駅～相馬市内及び相馬市内の移動費用は、相馬市が負担します。

※ 東京～JR福島駅の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が大学から補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

7 生活環境

- 宿泊 相馬市が用意する宿泊場所(寝具等あり)に宿泊します。
- 入浴 宿泊場所に設備があります。
- 食事 食事代を相馬市が負担。近隣に食堂、コンビニ等があります。

8 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章、名札ケースを、大学で用意します。

9 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切【6月4日(月)】までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail添付又はFAXによりお送りください。参加の可否・方法及び活動の詳細等については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。

なお、募集人員に達した時点で募集を終了しますので、ご承知置きください。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@福島県相馬市】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出	
氏名 (ふりがな)	() 性別 男・女
学生証番号	
学部名、研究科名・学年	年
科類、学科、専攻等	
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可、希望順位があれば数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A) 平成24年 6月16日(土)～平成24年 6月17日(日)
	(B) 平成24年 6月30日(土)～平成24年 7月 1日(日)
	(C) 平成24年 7月 7日(土)～平成24年 7月 8日(日)
	(D) 平成24年 7月21日(土)～平成24年 7月22日(日)
連絡先	電話番号
	携帯番号
	Eメールアドレス(PC)
	Eメールアドレス(携帯)
緊急連絡先 (保護者等)	FAX
	氏名
	続柄
	電話番号
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無
備考	

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jimu@mladm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成24年6月8日(金) 16:00～17:00

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

16:00～16:30 ボランティア支援班 市村桃子班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」

16:30～ 参加学生の顔合わせなど

(お知らせ)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア募集
 @福島県相馬市

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程:

- (A) 平成24年6月16日(土)～6月17日(日)
- (B) 平成24年6月30日(土)～7月 1日(日)
- (C) 平成24年7月 7日(土)～7月 8日(日)
- (D) 平成24年7月21日(土)～7月22日(日)



※活動時間(予定): 土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
 日曜日 10:00～12:00

- 活動場所: 福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所
- 活動内容: 避難生活をしている小中学生の学習支援
- 募集人数: 各班 6名
- 宿泊場所: 相馬市内の賃貸アパート
 ※ 相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。
- 募集締切: 6月 4日(月) ※ 満員になり次第締め切ります。



※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。
 ※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html



【問合せ先】
 東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@mladm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529 (内線22529)



(3) 参加者のしおり(抜粋)

福島県相馬市
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年6月8日
東京大学救済・復興支援室ボランティア支援班

目次

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって	… 1
2. 活動期間	… 2
3. 活動日程・日程表	… 2～4
4. 参加者名簿	… 5
5. 注意事項等	… 6～9
・ 活動するに当たっての心構え	
・ 地震発生時の注意事項	
・ 急病等発生時の注意事項	
6. 事前準備と持ち物	… 10
1 ボランティア活動について	
2 ボランティア保険への加入について	
3 大学への届出	
4 持ち物	
5 食事・入浴について	
7. こんな時はどうする(Q&A)	… 11～12

参考資料

- ①関係機関・施設
- ②相馬市MAP
- ③相馬市役所から宿泊場所までの地図
- ④活動場所MAP
- ⑤ボランティア保険加入について

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

「福島県相馬市の学習支援」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小・中学生を対象として、学習サポートを行うものです。

子どもたちからの質問等に応える形での支援が主となりますが、活動時間内の時間配分やレクリエーションの実施等、学習サポートの進め方はすべて任せられる予定ですので、リーダーを中心に話し合ってお決めください。

なお、活動に入る時には自己紹介等により児童・生徒との融和を図っていただくとともに、適度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでの企画・実施をお願いします。

なお、活動場所の応急仮設住宅集会所は市内4個所に分散していますが、ローテーションにより各班3個所(2名ずつ)で実施し、相馬市が手配するタクシーで移動します。

●学習支援をするに当たっての注意点

(附属中学校教諭の講話より)

- ①公の活動であること。
アルバイトとは異なり、教育委員会の正式な依頼をうけて大学の代表として活動することを肝に銘じてほしい。
- ②言動に注意すること。
普通のことでも迷惑になる場合もある。
- ③全体的なサポートをすること。
・問題の正誤だけでなく学習の方法に注意し、自立した学習の形成を促す
・家庭での勉強法にも配慮する(日頃の生活を含めた心のケア)
→一時の正解ではなく、長い目で見た学習方法を

2. 活動期間

- 平成24年6月16日(土)～6月17日(日)
- 平成24年6月30日(土)～7月1日(日)
- 平成24年7月7日(土)～7月8日(日)
- 平成24年7月21日(土)～7月22日(日)

各日の活動時間:

- 土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
- 日曜日 10:00～12:00

3. 活動日程

1日目(土曜)

- 10:20 JR福島駅東口10番バス集合【厳守】
- 10:30 JR福島駅東口より高速バス乗車
- 11:55 相馬市役所前降車
- 12:00 適宜昼食
- 13:30 宿泊場所集合(別途地図参照)

※ 相馬市担当者の方より鍵を授受し宿泊場所の説明を受けてください。

- 相馬市宿泊場所到着 ミーティング等
- 15:00～19:00 学習支援活動(適宜休憩を入れる)
□腕章 □名札 □デジカメ □飲み物
- 20:00 宿泊場所へ到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
- 22:30 就寝

2日目(日曜)

- 7:00 起床、洗面、清掃等
朝食、出発準備等
- 9:00 宿泊場所を出発
- 10:00～12:00 学習支援活動
宿泊場所へもどり適宜昼食 等
- 14:25 相馬市役所前出発
- 15:50 JR福島駅東口到着・解散

※1 東京駅～福島駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額が補助されます。(別紙参照)

※2 福島駅～相馬市役所前の移動は、事前に渡す回数券で高速バスに乗車してください。

※3 宿泊場所～活動場所(仮設住宅集会所)の移動は、タクシーを利用します。

※4 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。

※5 食事代は、相馬市より補助が出ます。

※6 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

5. 注意事項等

活動するにあたっての心構え

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらおうと心得ましょう。

[安全面]

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1000円)に加入してください。

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

[学習支援ボランティア]

(11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(12) 今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(13) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

(バス乗車時に地震が発生したら)

- ・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- 地震が収まり、運転手の指示により車外へ待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- ・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- ・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。
- ・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- ・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- ・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(宿泊場所:地震が発生したら)

- ・宿泊場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- ・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- ・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- ・防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

急病等発生時の注意事項

- ・出発前に急病等の不測の事態が生じたときや活動中に怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(当日の場合) volunteer1881@docomo.ne.jp

volunteer1882@docomo.ne.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881、1882

- ・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。

少人数での行動時や保健師等の資格保有者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

6. 事前準備と持ち物

1 ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

2) 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」に加入するようにしてください。

3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金
〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

5 食事・入浴について

原則として、食事・入浴の費用は各自で用意してください。活動日の昼食は周辺のスーパーなどで事前に用意してください。(参考資料:関係機関・施設の連絡先、及び遠野市周辺MAP)遠野東大センター付近の三丸屋ではお弁当(500円)の注文が可能です(前日までに)。

お風呂については、遠野東大センターにシャワー設備が1つありますが、長時間使用すると給湯が止まる仕組みになっている等、多人数への対応が困難ですので、活動からの帰途にたかむろ水光園という入浴施設に寄る予定にしています(お風呂代520円)。活動場所への出発時に、必ず入浴の準備をしてバスに乗ってください。

7. こんな時はどうする(Q&A)

[目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。
(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881

Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、遠野分室職員に連絡をしてからお帰りください。

Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、遠野分室職員に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 作業場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。

地震が発生したら、まずは家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、高台等の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

(例) 死亡保険金	2,000万円
後遺障害保険金	2,000万円(限度額)
入院保険金日額	11,000円
通院保険金日額	6,370円
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)

Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 宿泊場所及び活動場所には、ネットワーク環境が整備されていませんので、ケーブルを用いての使用はできません。

また、無線LANであってもサービス提供エリア外の会社もあるため、事前に確認をお願いします。

Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 本活動は、東京大学として活動しておりますので、無理な計画を立てずに団体行動をお願いします。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

A 参加者で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局または遠野分室へご相談ください。

平成24年7月24日

福島県相馬市学習支援ボランティア(6～7月)の活動報告

「福島県相馬市の避難生徒への学習支援」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小中学生を対象に学習支援を行うもので、今回、平成24年6～7月の期間にA班6名(6月16日～17日)、B班6名(6月30日～7月1日)、C班5名(7月7日～8日)、D班5名(7月21日～22日)の全4班を派遣した。

【A班】

- 参加学生:6名(大学院学生6名)
- 日程:平成24年6月16日(土)～6月17日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所
- 活動内容:児童・生徒への学習サポート
- (1日目)6月16日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)6月17日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
(東大学生は各所2名)
- 大野台(土曜:20名、日曜:16名)
- 刈敷田(土曜:11名、日曜:10名)
- 北飯淵(土曜:10名、日曜:10名)

なお、マスコミ6社(NHK福島、福島中央テレビ、毎日新聞、読売新聞、福島民友、福島民報)の取材があった。

【B班】

- 参加学生:6名(学部学生1名、大学院学生5名)
- 日程:平成24年6月30日(土)～7月1日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所
- 活動内容:児童・生徒への学習サポート
- (1日目)6月30日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)7月1日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
(東大学生は各所2名)
- 大野台(土曜:8名、日曜:6名)
- 北飯淵(土曜:15名、日曜:15名)
- 柚木(土曜:7名、日曜:6名)



刈敷田応急仮設住宅での活動の様子



大野台応急仮設住宅での活動の様子



【C班】

- 参加学生:5名(学部学生2名、大学院学生3名)
 - 日程:平成24年7月7日(土)～7月8日(日) [1泊2日]
 - 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
 - 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所
 - 活動内容:児童・生徒への学習サポート
- (1日目)7月7日(土)活動15:00～19:00
(2日目)7月8日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
(東大学生は各所2名)
- 大野台(土曜:8名、日曜:4名)
刈敷田(土曜:9名、日曜:7名)
柚木(土曜:5名、日曜:5名)



【D班】

- 参加学生:5名(学部学生1名、大学院学生4名)
 - 日程:平成24年7月21日(土)～7月22日(日) [1泊2日]
 - 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
 - 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所
 - 活動内容:児童・生徒への学習サポート
- (1日目)7月21日(土)活動15:00～19:00
(2日目)7月22日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
(東大学生は各所2名)
- 刈敷田(土曜:8名、日曜:8名)
北飯淵(土曜:8名、日曜:10名)
柚木(土曜:10名、日曜:1名)

(1) 募集要項

平成24年7月19日

学生の皆さんへ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県相馬市「寺子屋事業」

学習支援ボランティア(9・10月)の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび6・7月に引き続き、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小中学生を対象として、学習支援活動を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年 9月 8日(土)～ 9月 9日(日)
- (B) 平成24年 9月29日(土)～ 9月30日(日)
- (C) 平成24年10月13日(土)～10月14日(日)
- (D) 平成24年10月27日(土)～10月28日(日)

各日の活動時間:

土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)

日曜日 10:00～12:00

2 募集人員

各班7名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者等の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所を利用し、自習を基本とする小中学生の学習支援を行う。

なお、具体的な活動内容は、相馬市教育委員会等と協議して決定する。

5 宿泊場所

相馬市内の賃貸アパート

※相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

6 現地等への移動手段

東京～JR福島駅: 各自、JR等を利用(JR福島駅集合・解散)

JR福島駅～相馬市内: 定期バス(福島交通)により移動

相馬市内の移動(宿泊場所～活動場所): タクシーを利用

※ JR福島駅～相馬市内及び相馬市内の移動費用は、相馬市が負担します。

※ 東京～JR福島駅の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が大学から補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

7 生活環境

- ・ 宿泊 相馬市が用意する宿泊場所(寝具等あり)に宿泊します。
- ・ 入浴 宿泊場所に設備があります。
- ・ 食事 食事代を相馬市が負担。近隣に食堂、コンビニ等があります。

8 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章、名札ケースを、大学で用意します。

9 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ & A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切【8月24日(金)】までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail添付又はFAXによりお送りください。参加の可否・方法及び活動の詳細等については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。

なお、募集人員に達した時点で募集を終了しますので、ご承知置ください。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@福島県相馬市】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名・研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可、希望順位が各1位は数字を記入)、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成24年 9月 8日(土) ～ 平成24年 9月 9日(日)	
	(B)	平成24年 9月29日(土) ～ 平成24年 9月30日(日)	
	(C)	平成24年10月13日(土) ～ 平成24年10月14日(日)	
	(D)	平成24年10月27日(土) ～ 平成24年10月28日(日)	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PO)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄	承諾チェック欄	<input type="checkbox"/>
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有		
	無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成24年8月30日(木) 14:00～15:30

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

- 14:00～14:40 ボランティア支援班 土井達雄班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」
- 14:40～ 相馬市学習支援ボランティア経験者
 新領域創成科学研究科博士課程1年
 河底秀幸さんから
- 15:10～ 参加学生の顔合せなど

(お知らせ)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア
 「寺子屋事業」参加者募集@相馬市

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程:

- (A) 平成24年 9月 8日(土)～ 9月 9日(日)
- (B) 平成24年 9月29日(土)～ 9月30日(日)
- (C) 平成24年10月13日(土)～10月14日(日)
- (D) 平成24年10月27日(土)～10月28日(日)



※活動時間(予定): 土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
 日曜日 10:00～12:00

●活動場所: 福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所

●活動内容: 避難生活をしている小中学生の学習支援

●募集人数: 各班 7名程度

●宿泊場所: 相馬市内の賃貸アパート

※ 相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

●募集締切: 8月24日(金) ※ 満員になり次第締め切ります。



※ 大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学支援・復興支援室 ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529(内線22529)



(3) 参加者のしおり(抜粋)

福島県相馬市
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年8月30日
東京大学救済・復興支援室ボランティア支援班

目次

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって	...	1
2. 活動期間	...	2
3. 活動日程・日程表	...	2~4
4. 参加者名簿	...	5
5. 注意事項等	...	6~9
・ 活動するに当たっての心構え		
・ 地震発生時の注意事項		
・ 急病等発生時の注意事項		
6. 事前準備と持ち物	...	10
1 ボランティア活動について		
2 ボランティア保険への加入について		
3 大学への届出		
4 持ち物		
5 食事・入浴について		
7. こんな時はどうする(Q&A)	...	11~12

参考資料

- ①関係機関・施設
- ②相馬市MAP
- ③相馬市役所から宿泊場所までの地図
- ④活動場所MAP
- ⑤ボランティア保険加入について

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

「福島県相馬市の学習支援」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小・中学生を対象として、学習サポートを行うものです。

子どもたちからの質問等に応える形での支援が主となりますが、活動時間内の時間配分やレクリエーションの実施等、学習サポートの進め方はすべて任せられる予定ですので、リーダーを中心に話し合ってお決めください。

なお、活動に入る時には自己紹介等により児童・生徒との融和を図っていただくとともに、適度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでの企画・実施をお願いします。

なお、活動場所の応急仮設住宅集会所は市内4箇所に分散していますが、ローテーションにより各班3箇所(2名ずつ)で実施し、相馬市が手配するタクシーで移動します。

●学習支援をするに当たっての注意点

(附属中学校教諭の講話より)

- ①公の活動であること。
アルバイトとは異なり、教育委員会の正式な依頼をうけて大学の代表として活動することを肝に銘じてほしい。
- ②言動に注意すること。
普通のことでも迷惑になる場合もある。
- ③全体的なサポートをすること。
・問題の正誤だけでなく学習の方法に注意し、自立した学習の形成を促す
・家庭での勉強法にも配慮する(日頃の生活を含めた心のケア)
→一時の正解ではなく、長い目で見た学習方法を

2. 活動期間

- 平成24年 9月 8日(土)~ 9月 9日(日)
- 平成24年 9月29日(土)~ 9月30日(日)
- 平成24年10月13日(土)~10月14日(日)
- 平成24年10月27日(土)~10月28日(日)

各日の活動時間:

- 土曜日 15:00~19:00(間に適宜の休憩を含む。)
日曜日 10:00~12:00

3. 活動日程

1日目(土曜)

- 10:20 JR福島駅東口10番バス集合【厳守】
10:30 JR福島駅東口より高速バス乗車
11:55 相馬市役所前降車
12:00 適宜昼食
13:30 宿泊場所集合(別途地図参照)

※ 相馬市担当者の方より鍵を授受し宿泊場所の説明を受けてください。

- 相馬市宿泊場所到着 ミーティング等
15:00~19:00 学習支援活動(適宜休憩を入れる)
□腕章 □名札 □デジカメ □飲み物
20:00 宿泊場所へ到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
22:30 就寝

2日目(日曜)

- 7:00 起床、洗面、清掃等
朝食、出発準備等
9:00 宿泊場所を出発
10:00~12:00 学習支援活動
宿泊場所へもどり適宜昼食 等
14:25 相馬市役所前出発
15:50 JR福島駅東口到着・解散

※1 東京駅~福島駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額が補助されます。(別紙参照)

※2 福島駅~相馬市役所前の移動は、事前に渡す回数券で高速バスに乗車してください。

※3 宿泊場所~活動場所(仮設住宅集会所)の移動は、タクシーを利用します。

※4 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。

※5 食事代は、相馬市より補助が出ます。

※6 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

※ 当日、新幹線の遅延等で福島駅の集合場所に時間通りに着くことができない場合も有り得ます。その場合は、班のリーダーを中心に連絡を取り合い、以下のような別ルートを経由して、相馬市へ直接向かってください。

リーダーは、ボランティア支援班の公用携帯に状況の報告をお願いします。

□東京～仙台～亶理～相馬

(例)

08:56-10:37(東京－仙台): はやて19号(E5系)(新青森行)

↓

11:15-11:48(仙台－亶理): 常磐線(亶理行)

↓

11:55-13:08(亶理－相馬): 常磐線(代行バス)(相馬行)

□東京～仙台～相馬市役所前

(例)

09:56-11:37(東京－仙台): はやて21号(E5系)(新青森行)

↓

11:55-13:20(仙台～相馬市役所): 福島交通バス

上記のように、福島駅を発着するバス以外の手段で相馬市へ向かった場合は、交通費の分かる領収書などを保存しておいてください。

〔 以下、6～7月の参加者のしおり(抜粋)と同様 〕

相馬市「寺子屋事業」学習支援ボランティア(9～10月)の活動報告

救援・復興支援室では、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している被災小・中学生を対象とした「寺子屋事業」に協力し、本年6月から引き続き、学習支援活動を実施している。今回は、9～10月の期間に全4班28名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】

- 参加学生:7名(学部学生2名、大学院学生5名)
- 日程:平成24年9月8日(土)～9月9日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)9月8日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)9月9日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
- 大野台(土曜:9名、日曜:3名)
- 刈敷田(土曜:10名、日曜:5名)
- 北飯渕(土曜:17名、日曜:5名)



【B班】

- 参加学生:7名(学部学生4名、大学院学生3名)
- 日程:平成24年9月29日(土)～9月30日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)9月29日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)9月30日(日)活動10:00～12:00
- ※各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
- 大野台(土曜:6名、日曜:4名)
- 北飯渕(土曜:7名、日曜:11名)
- 柚木(土曜:16名、日曜:9名)



【C班】

- 参加学生：7名(学部学生3名、大学院学生4名)
- 日程：平成24年10月13日(土)～10月14日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所：相馬市内賃貸アパート
- 活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)10月13日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)10月14日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
大野台(土曜:6名、日曜:6名)
刈敷田(土曜:4名、日曜:0名)
柚木(土曜:10名、日曜:10名)



【D班】

- 参加学生：6名(学部学生4名、大学院学生2名)
- 日程：平成24年10月27日(土)～10月28日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所：相馬市内賃貸アパート
- 活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)10月27日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)10月28日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
刈敷田(土曜:6名、日曜:2名)
北飯渕(土曜:6名、日曜:2名)
柚木(土曜:8名、日曜:2名)



(1) 募集要項

平成24年10月5日

学生の皆さんへ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県相馬市「寺子屋事業」

学習支援ボランティア(11～12月)の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび9～10月に引き続き、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小中学生を対象として、学習支援活動を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成24年11月10日(土)～11月11日(日)
- (B) 平成24年11月24日(土)～11月25日(日)
- (C) 平成24年12月8日(土)～12月9日(日)
- (D) 平成24年12月22日(土)～12月23日(日)

各日の活動時間:

土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)

日曜日 10:00～12:00

2 募集人員

各班7名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者等の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所を利用し、自習を基本とする小中学生の学習支援を行う。

なお、具体的な活動内容は、相馬市教育委員会等と協議して決定する。

5 宿泊場所

相馬市内の賃貸アパート

※ 相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

6 現地等への移動手段

東京～JR福島駅: 各自、JR等を利用(JR福島駅集合・解散)

JR福島駅～相馬市内: 定期バス(福島交通)により移動

相馬市内の移動(宿泊場所～活動場所): タクシーを利用

※ JR福島駅～相馬市内及び相馬市内の移動費用は、相馬市が負担します。

※ 東京～JR福島駅の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が大学から補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

7 生活環境

- ・ 宿泊 相馬市が用意する宿泊場所(寝具等あり)に宿泊します。
- ・ 入浴 宿泊場所に設備があります。
- ・ 食事 食事代を相馬市が負担。近隣に食堂、コンビニ等があります。

8 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章、名札ケースを、大学で用意します。

9 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ & A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切【10月19日(金)】までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail添付又はFAXによりお送りください。参加の可否・方法及び活動の詳細等については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。

なお、募集人員に達した時点で募集を終了しますので、ご承知置ください。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@福島県相馬市「寺子屋事業」】 ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名、研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可)。希望順位があれば数字を記入し、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成24年11月10日(土)～11月11日(日)	
	(B)	平成24年11月24日(土)～11月25日(日)	
	(C)	平成24年12月 8日(土)～12月 9日(日)	
	(D)	平成24年12月22日(土)～12月23日(日)	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PC)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄	承諾チェック欄	<input type="checkbox"/>
	電話番号		
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
電話：03-5841-2529(内線22529)
E-mail: volunteer-jimu@mladm.u-tokyo.ac.jp
住所：〒113-8654
東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター

～オリエンテーション次第

日時 平成24年11月2日(木) 16:30～17:30

場所 学生支援センター3階
本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

- 16:30～16:50 ボランティア支援班 土井達雄班員からの説明
「日程説明、連絡・注意事項等」
- 16:50～ 相馬市学習支援ボランティア経験者
教養学部4年 濱島暁達さんから
- 17:10～ 参加学生の顔合せなど

(お知らせ)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア 「寺子屋事業」参加者募集@相馬市

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成24年11月10日(土)～11月11日(日)
- (B) 平成24年11月24日(土)～11月25日(日)
- (C) 平成24年12月 8日(土)～12月 9日(日)
- (D) 平成24年12月22日(土)～12月23日(日)



※活動時間(予定)：土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
日曜日 10:00～12:00



- 活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所
- 活動内容：避難生活をしている小中学生の学習支援
- 募集人数：各班 7名程度
- 宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート

※相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

- 募集締切：10月19日(金) ※満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html



【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
E-mail: volunteer-jimu@mladm.u-tokyo.ac.jp
FAX: 03-5841-2519
TEL: 03-5841-2529 (内線22529)



福島県相馬市
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年11月2日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目次

学習支援ボランティアの参加に当たって	・・・ 1
活動期間	・・・ 2
活動日程・日程表	・・・ 2～4
参加者名簿	・・・ 5
事前準備と持ち物	・・・ 6
活動から帰ったら	・・・ 7
困ったときの連絡先	・・・ 8
注意事項等	・・・ 9～11
活動するに当たっての心構え	
地震発生時の注意事項	
こんな時はどうする(Q&A)	・・・ 12～14

参考資料

- ①関係機関・施設
- ②相馬市MAP
- ③相馬市役所から宿泊場所までの地図
- ④活動場所MAP
- ⑤ボランティア保険加入について

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

福島県相馬市での学習支援ボランティア活動「寺子屋事業」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小・中学生を対象として、学習サポートを行うものです。

子どもたちからの質問等に応える形での支援が主となりますが、活動時間内の時間配分やレクリエーションの実施等、学習サポートの進め方はすべて任される予定ですので、リーダーを中心に話し合っ

て決めてください。
なお、活動に入る時には自己紹介等により児童・生徒との融和を図っていただくとともに、適度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでの企画・実施をお願いします。

なお、活動場所の応急仮設住宅集会所又は談話室は市内4個所に分散していますが、ローテーションにより各班3個所(2, 3名ずつ)で実施し、相馬市が手配するタクシーで移動します。

2. 活動期間

- (A) 平成24年11月10日(土)～11月11日(日)
- (B) 平成24年11月24日(土)～11月25日(日)
- (C) 平成24年12月 8日(土)～12月 9日(日)
- (D) 平成24年12月22日(土)～12月23日(日)

各日の活動時間:

土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
日曜日 10:00～12:00

3. 活動日程

1日目(土曜)

- 10:20 JR福島駅東口10番バス集合【厳守】
- 10:30 JR福島駅東口より高速バス乗車
- 11:55 相馬市役所前降車
- 12:00 適宜昼食
- 13:30 宿泊場所集合(別途地図参照)

※ 相馬市担当者の方より鍵を授受し宿泊場所の説明を受けてください。

相馬市宿泊場所到着 ミーティング等

- 15:00～19:00 学習支援活動(適宜休憩を入れる)
□腕章 □名札 □デジカメ □飲み物
- 20:00 宿泊場所へ到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
- 22:30 就寝

2日目(日曜)

- 7:00 起床、洗面、清掃等
朝食、出発準備等
- 9:00 宿泊場所を出発
- 10:00～12:00 学習支援活動
宿泊場所へもどり適宜昼食 等
- 14:25 相馬市役所前出発
- 15:50 JR福島駅東口到着・解散

※1 東京駅～福島駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額が補助されます。(別紙参照)

※2 福島駅～相馬市役所前の移動は、事前に渡す回数券で高速バスに乗車してください。

※3 宿泊場所～活動場所(仮設住宅集会所)の移動は、タクシーを利用します。

※4 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。

※5 食事代は、相馬市より補助が出ます。

※6 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

※当日、新幹線の遅延等で福島駅の集合場所に時間通りに着くことができない場合も有り得ます。その場合は、班のリーダーを中心に連絡を取り合い、以下のような別ルートを経由して、相馬市へ直接向かってください。

リーダーは、ボランティア支援班の公用携帯に状況の報告をお願いします。

□東京～仙台～亶理～相馬

(例)

08:56-10:37(東京－仙台)：はやて19号(E5系)(新青森行)

↓

11:15-11:48(仙台－亶理)：常磐線(亶理行)

↓

11:55-13:08(亶理－相馬)：常磐線(代行バス)(相馬行)

□東京～仙台～相馬市役所前

(例)

09:56-11:37(東京－仙台)：はやて21号(E5系)(新青森行)

↓

11:55-13:20(仙台～相馬市役所)：福島交通バス

上記のように、福島駅を発着するバス以外の手段で相馬市へ向かった場合は、交通費の分かる領収書などを保管しておいてください。

5. 事前準備と持ち物

1. ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、自治体(住所地でなくても

かまいません)の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(推奨：天災Bプラン)」(東京都の場合は1,000円)に加入するようにしてください。

2. 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。様式は本学HPの

【HOME > 東日本大震災<東京大学の対応について> > ボランティア情報】

からダウンロードできます。

3. 持ち物

【必需品】：着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード又は加入証等)、現金

【その他】：携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

4. 食事・入浴

食事は相馬市から食事代の補助が出ます(当日現地にて支給されます)。

宿泊場所周辺にはスーパーや食事等をすることがありますので、巻末の市内地図を参照しながらご利用ください。

入浴は宿泊場所に設備がありますので、ご利用ください。

○ボランティア活動について

1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになります。

基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。

(事前の準備・用意についても自己責任でしっかり整えましょう)

2) 活動内容は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会の要請に基づいていますので、

相馬市の担当者の方および、宿泊場所の管理者の方の連絡事項や指示に従ってください。

また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

6. 活動から帰ったら

1. ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を必ずご提出ください(別紙参照)。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2. 写真

大学でカメラを用意してはおりませんので、みなさんのお持ちのカメラがございましたら、恐縮ですが活動中の写真を撮影・差支えない範囲でご提供いただけると幸いです。写真はボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3. ボランティア活動支援金

東京～福島の間復の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようにご注意ください。ただし、迂回などをした場合は減額される可能性があります。

7. 困ったときの連絡先

○出発前・活動中に怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、速やかに下記ボランティア支援班事務局までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(当日の場合) volunteer1881@docomo.ne.jp

volunteer1882@docomo.ne.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時～17時)

携帯電話 080-2373-1881、1882

その他、以下のような場合も速やかにご連絡下さい。

- ・(出発前に)急に参加できなくなった。
- ・(活動中に)急に帰京しなければならなくなった。
- ・(活動後に)忘れ物をしてきたことに気付いた。
- ・その他、自分たちで対応しきれない場合等にはすぐにご連絡ください。

8. 注意事項等

8-1. 活動するに当たっての心構え

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。

ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

【安全面】

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険(天災Bプラン)**」(東京都の場合は1000円)に加入してください。

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

【学習支援ボランティア】

(11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(12) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

(13) 問題の正誤だけではなく、学習の方法についても注意し、自立した学習の形成を促す。

(14) 家庭での学習方法に配慮し、日頃の生活も含めた心のケアを行うよう努める。

(15) 活動後は、今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、ボランティア活動報告書を提出してください。

8-2. 地震発生時の注意事項

【バス乗車時に地震が発生したら】

(1) 走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。

(2) 地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、運転手の指示に従いバスの前の路肩等で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

【ボランティア活動中に地震が発生したら】

(3) 活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

(4) 屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。

(5) 活動場所で地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。

(6) 余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。

(7) 自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

【宿泊場所:地震が発生したら】

(8) 宿泊場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

(9) 台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。

(10) 万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。

(11) 余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。

(12) 防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

○東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

9. 一般的な時はどうする(Q&A)

[目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑨期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑩ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすればよいですか？

Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

(連絡先) 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(当日の場合) volunteer1881@docomo.ne.jp

volunteer1882@docomo.ne.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881、1882

Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881、1882)に連絡をしてからお帰りください。

Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881、1882)に相談してください。ひとりで行くようなことはしないでください。

Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 活動場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。地震が発生したら、家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、指定の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。詳しくは「[地震発生時の注意事項\(13ページ\)](#)」をあわせてご覧ください。

Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

(例) 死亡保険金	2,000万円
後遺障害保険金	2,000万円(限度額)
入院保険金日額	11,000円
通院保険金日額	6,370円
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)

Q-6 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられますか？

A ボランティア保険は、活動中に自分がけがなどをした場合や、第三者の身体・財物に損害を与えた場合などに補償を受けられるものですが、自分の持ち物が破損等の損害を被った際には補償の対象とはなりません。活動場所に持ち込むカメラ・携帯電話等の持ち物については責任を持って管理してください。

Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8 パソコンを持参しても使用できますか？

A 宿泊場所及び活動場所にはネットワーク環境が整備されていませんので、パソコンをお持ちいただいてもインターネットへの接続は行えません。また、WiMAXやE-mobile等の無線モバイルインターネット接続サービスに関しても、サービス提供エリア外の可能性があるため、事前に各自で確認をお願いします。

Q-9 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 集合時間・場所から解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。

Q-10 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすればよいですか？

A 参加者相互で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局へご相談(「[困ったときの連絡先](#)」[8ページ](#)を参照)ください。

(4)活動報告

平成24年12月26日

相馬市「寺子屋事業」学習支援ボランティア(11～12月)の活動報告

救援・復興支援室では、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している被災小・中学生を対象とした「寺子屋事業」に協力し、本年6月から引き続き、学習支援活動を実施している。今回は、11～12月の期間に全4班28名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】

- 参加学生:7名(学部学生6名、大学院学生1名)
 - 日程:平成24年11月10日(土)～11月11日(日) [1泊2日]
 - 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
 - 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)11月10日(土)活動15:00～19:00
(2日目)11月11日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
大野台(土曜:8名、日曜:8名)
刈敷田(土曜:0名、日曜:2名)
北飯渕(土曜:8名、日曜:4名)



【B班】

- 参加学生:7名(学部学生4名、大学院学生3名)
 - 日程:平成24年11月24日(土)～11月25日(日) [1泊2日]
 - 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
 - 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)11月24日(土)活動15:00～19:00
(2日目)11月25日(日)活動10:00～12:00
- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
大野台(土曜:3名、日曜:8名)
北飯渕(土曜:9名、日曜:6名)
柚木(土曜:7名、日曜:3名)



【C班】

- 参加学生:7名(学部学生5名、大学院学生2名)
- 日程:平成24年12月8日(土)~12月9日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)12月8日(土)活動15:00~19:00
- (2日目)12月9日(日)活動10:00~12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
- 大野台(土曜:4名、日曜:5名)
- 刈敷田(土曜:4名、日曜:0名)
- 柚木(土曜:3名、日曜:7名)



【D班】

- 参加学生:7名(学部学生5名、大学院学生2名)
- 日程:平成24年12月22日(土)~12月23日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)12月22日(土)活動15:00~19:00
- (2日目)12月23日(日)活動10:00~12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
- 刈敷田(土曜:5名、日曜:5名)
- 北飯渕(土曜:5名、日曜:5名)
- 柚木(土曜:4名、日曜:4名)



(1) 募集要項

平成24年12月10日

学生の皆さんへ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県相馬市「寺子屋事業」

学習支援ボランティア(1～3月)の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび11～12月に引き続き、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している児童生徒を対象として、学習支援活動を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

- (A) 平成25年1月19日(土)～1月20日(日)
- (B) 平成25年2月2日(土)～2月3日(日)
- (C) 平成25年2月16日(土)～2月17日(日)
- (D) 平成25年3月2日(土)～3月3日(日)

各日の活動時間:

土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)

日曜日 10:00～12:00

2 募集人員

各班7名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者等の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所・内容

福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所を利用し、自習を基本とする小中学生の学習支援を行う。なお、具体的な活動内容は、相馬市教育委員会等と協議して決定する。

5 宿泊場所

相馬市内の賃貸アパート

※相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

6 現地等への移動手段

東京～JR福島駅: 各自、JR等を利用(JR福島駅集合・解散)

JR福島駅～相馬市内: 定期バス(福島交通)により移動

相馬市内の移動(宿泊場所～活動場所): タクシーを利用

※ JR福島駅～相馬市内及び相馬市内の移動費用は、相馬市が負担します。

※ 東京～JR福島駅の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が大学から補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。)

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

7 生活環境

- ・ 宿泊 相馬市が用意する宿泊場所(寝具等あり)に宿泊します。
- ・ 入浴 宿泊場所に設備があります。
- ・ 食事 食事代を相馬市が負担。近隣に食堂、コンビニ等があります。

8 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章、名札ケースを、大学で用意します。

9 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ & A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切【12月26日(水)】までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail添付又はFAXによりお送りください。参加の可否・方法及び活動の詳細等については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。

なお、募集人員に達した時点で募集を終了しますので、ご承知置ください。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア@福島県相馬市「寺子屋事業」】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

(ふりがな) 氏名	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名・研究科名・学年	年		
科類、学科、専攻等			
希望活動日程 ※A～Dの期間で希望する日程に○(複数可)希望単位があれば数字を記入し、希望しない日程に×を記入してください。	(A)	平成25年 1月19日(土)～1月20日(日)	
	(B)	平成25年 2月 2日(土)～2月 3日(日)	
	(C)	平成25年 2月16日(土)～2月17日(日)	
	(D)	平成25年 3月 2日(土)～3月 3日(日)	
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PC)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	続柄	承諾チェック欄 <input type="checkbox"/>	
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無		
	備考		

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援事務局(本部学生支援課内)
 電話: 03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 住所: 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成25年1月10日(木)18:00～19:00

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

- 18:00～18:30 ボランティア支援班 海老沢班員からの説明「日程説明、連絡・注意事項等」
- 18:30～ 相馬市学習支援ボランティア経験者 教養学部2年 波多野昂也さんから
- 18:40～ 参加学生の顔合せなど

(お知らせ)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア 「寺子屋事業」参加者募集@相馬市

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成25年1月19日(土)～1月20日(日)
- (B) 平成25年2月 2日(土)～2月 3日(日)
- (C) 平成25年2月16日(土)～2月17日(日)
- (D) 平成25年3月 2日(土)～3月 3日(日)

※活動時間(予定)：土曜日15:00～18:00(間に適宜の休憩を含む。)
 日曜日10:00～12:00

●活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の集会所

●活動内容：避難生活をしている児童生徒の学習支援等

●募集人数：各班 7名程度

●宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート

※相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

●募集締切：12月26日(水) ※満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援-復興支援室 ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529 (内線22529)

(3) 参加者のしおり(抜粋)

福島県相馬市
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成25年1月10日
東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

目次

1 学習支援ボランティアの参加に当たって	p. 1
2 活動期間	p. 2
3 活動日程	pp. 2-4
4 参加者名簿	pp. 5-6
5 事前準備と持ち物	p. 7
6 活動から帰ったら	p. 8
7 困ったときの連絡先	p. 9
8 注意事項等	pp. 10-12
8-1 活動するに当たっての心構え	p. 10
8-2 地震発生時の注意事項	p. 12
9 こんな時はどうする(Q&A)	p. 13-15

参考資料

- ① 関係機関・施設
- ② 相馬市MAP
- ③ 相馬市役所から宿泊場所までの地図
- ④ 活動場所MAP
- ⑤ ボランティア保険加入について

1. 学習支援ボランティアの参加にあたって

福島県相馬市での学習支援ボランティア活動「寺子屋事業」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小・中学生を対象として、学習サポートを行うものです。

子どもたちからの質問等に応える形での支援が主となりますが、活動時間内の時間配分やレクリエーションの実施等、学習サポートの進め方はすべて任される予定ですので、リーダーを中心に話し合ってください。

なお、活動に入る時には自己紹介等により児童・生徒との融和を図っていただくとともに、適度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでの企画・実施をお願いします。

なお、活動場所の応急仮設住宅集会所又は談話室は市内4個所に分散していますが、ローテーションにより各班3個所(2, 3名ずつ)で実施し、相馬市が手配するタクシーで移動します。

ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。
(事前の準備・用意についても自己責任でしっかり整えましょう)
- 2) 活動内容は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会の要請に基づいていますので、相馬市の担当者の方および、宿泊場所の管理者の方の連絡事項や指示に従ってください。
また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

2. 活動期間

- A班 平成25年1月19日(土)～1月20日(日)
B班 平成25年2月2日(土)～2月3日(日)
C班 平成25年2月16日(土)～2月17日(日)
D班 平成25年3月2日(土)～3月3日(日)

各日の活動時間:

- 土曜日 15:00～19:00(間に適宜の休憩を含む。)
日曜日 10:00～12:00

3. 活動日程

1日目(土曜)

- 10:20 R福島駅東口10番バス集合
※ 必ず時間までに集合してください
- 10:30 JR福島駅東口より高速バス乗車
※ 事前に渡した回数券で高速バスに乗車してください
- 11:55 相馬市役所前降車
12:00 昼食
13:30 宿泊場所に集合
適宜、ミーティング等
※ 相馬市担当者から鍵を授受し宿泊場所の説明を受けてください。
※ 宿泊場所と活動場所(仮設住宅集会所)との間はタクシーで移動します
- 15:00 学習支援活動開始
※ 活動場所へは以下の物を持って行ってください
□腕章 □名札 □飲み物
※ 活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください

- 18:00 学習支援活動終了
19:00 宿泊場所へ到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
22:30 就寝

2日目(日曜)

- 7:00 起床、清掃、朝食、出発準備
9:00 宿泊場所を出発
※ 宿泊場所と活動場所(仮設住宅集会所)との間はタクシーで移動します
- 10:00 学習支援活動開始
12:00 学習支援活動終了
※ 宿泊場所へ戻り適宜昼食等
- 14:25 相馬市役所前出発
※ 事前に渡した回数券で高速バスに乗車してください。
- 15:50 JR福島駅東口到着・解散

もし、1日目の集合時刻に間に合わないときは...

班のリーダーを中心に連絡を取り合い、以下の別ルートを経由して相馬市へ直接向かってください。

また、リーダーは、ボランティア支援班の公用携帯(090-2373-1881または090-2373-1882)に状況の報告をお願いします。

□東京→仙台→亶理→相馬ルート

08:56-10:37(東京-仙台):はやて19号(E5系)(新青森行)

↓

11:15-11:48(仙台-亶理):常磐線(亶理行)

↓

11:55-13:08(亶理-相馬):常磐線(代行バス)(相馬行)

□東京→仙台→相馬市役所前ルート

09:56-11:37(東京-仙台):はやて21号(E5系)(新青森行)

↓

11:55-13:20(仙台~相馬市役所):福島交通バス

上記のような経路で相馬市へ向かった際は、経路を記録し、交通費の分かる領収書などを保管しておいてください(ボランティア活動支援金の申請に必要です)。

〔 以下、6~7月の参加者のしおり(抜粋)と同様 〕

平成25年3月6日

相馬市「寺子屋事業」学習支援ボランティア(1~3月)の活動報告

救援・復興支援室では、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している被災児童生徒を対象とした「寺子屋事業」に協力し、平成24年6月から引き続き、学習支援活動を実施している。今回は、平成25年1~3月の期間に全4班25名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】

- 参加学生:7名(学部学生4名、大学院学生3名)
- 日程:平成25年1月19日(土)~1月20日(日)[1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)1月19日(土)活動15:00~19:00
- (2日目)1月20日(日)活動10:00~12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童生徒数
- 大野台(土曜:7名、日曜:9名)
- 北飯淵(土曜:7名、日曜:3名)
- 刈敷田(土曜:8名、日曜:なし)



【B班】

- 参加学生:6名(学部学生5名、大学院学生1名)
- 日程:平成25年2月2日(土)~2月3日(日)[1泊2日]
- 宿泊場所:相馬市内賃貸アパート
- 活動場所:相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)2月2日(土)活動15:00~19:00
- (2日目)2月3日(日)活動10:00~12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童生徒数
- 大野台(土曜:8名、日曜:6名)
- 刈敷田(土曜:4名、日曜:なし)
- 柚木(土曜:5名、日曜:2名)



【C班】

- 参加学生：6名(学部学生5名、大学院学生1名)
- 日程：平成25年2月16日(土)～2月17日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所：相馬市内賃貸アパート
- 活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)2月16日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)2月17日(日)活動10:00～12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童生徒数
- 大野台(土曜:6名、日曜:4名)
- 北飯淵(土曜:10名、日曜:8名)
- 柚木(土曜:5名、日曜:5名)



【D班】

- 参加学生：名(学部学生4名、大学院学生2名)
- 日程：平成25年3月2日(土)～3月3日(日) [1泊2日]
- 宿泊場所：相馬市内賃貸アパート
- 活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等
- (1日目)3月2日(土)活動15:00～19:00
- (2日目)3月3日(日)活動10:00～12:00

- ※ 各仮設住宅集会所の参加児童・生徒数
- 北飯淵(土曜:7名、日曜:4名)
- 柚木(土曜:5名、日曜:3名)



【ボランティア参加学生の活動報告(抜粋)】

○今回の学習支援全体を通じて感じたことは、いかに子どもたちと関係を作り心を開いてもらうのかという点である。そのためには、2日間で同じ学生が同じ集会所へ行くことが最も重要であると考えた。初日の終了時点で「必ずまた明日来るからね!」と言えると出来ないでは、児童生徒の心境は全く異なるであろう。(大学院修士課程2年生)

○子供の数が多く、私たち学生の人数が足りていないように思えた。小学生と戯れる分には問題ないが、中学生に勉強を教える場合には、個々で扱う科目も異なるので1対1くらいの人数比が理想的であろうと感じた。(大学院博士課程1年生)

○中学生2人は試験があるためずっと勉強していました。小学生は学校の宿題や自習問題、漢字練習などをやっていたのですが、ほとんどの小学生は途中で止めてレクリエーションをしました。レクリエーションは鬼ごっこをした他、算数のゲームをしました。その他に出身国についての話をし、写真も見せました。(大学院博士課程2年生、留学生)

○小学生に関しては学習指導というよりも遊び相手になることが多かった。宿題を放置したまま遊ぶ小学生も何人かいて、そういう小学生には適宜「宿題は終わったの?」と聞いて学習を促すようにし、あまり「勉強しなさい」と強制することはしなかった。話を聞いた感じでは、普段あまり大人と遊んでおらず、一人ラジコンで遊んだり虫取りをしたりする子供もいたので、子供たちにとって大人世代と交わって遊ぶいい機会になったのではないかと思う。(大学院博士課程1年生)

○漢字をバラバラにしたものから元の漢字を当てるゲームや数列に空欄を設けて入るべき数と規則性を当てるクイズを行った。(専門職大学院3年生)

○各児童が持参した教材を題材としながら、個別に指導した。教科は国語と算数が主。なにも持参しなかった児童に対しては、私が個人的に持参した論理パズルの問題集を貸与し、それを解かせた。途中で退屈する者が数名現れたので、彼女らにはトランプに書かれた数字の総和をひたすら筆算させた。計算を終えた後に私が等差数列の和の公式を用いて総和を瞬時に導出したところ、一同が驚いていた。(学部4年生)

○集会所で勉強をする子と外で遊ぶ子に分けた。2つのグループに分けると、子どもたちは自分のしたいことをできる為いいと思う。遊んでばかりいる子には、100マス計算をやるようすすめ、全問正解したらお土産のボールペンをプレゼントすると言うと、夢中になって解いていた。皆、遊びと勉強の切りかえをきちんとできる子ばかりであった。(大学院修士課程1年生)

○以前の活動を経験して雰囲気把握していたようで、「今日は何をして遊ぶの?」と、大学生と遊ぶ場として位置づけられていたようだった。本来の目的とは異なるが、普段好きなように体を動かしていない子供たちにとって、このような機会は有意義なものであると考える。(専門職大学院1年生)

○何も聞かずに遊び、勉強を教える。こういう存在も大切だと思う。変に震災を気にして気を使うこともなく自然体でいられる空間。そうした空間を作るべきだと私は思う。(専門職大学院1年生)

○初めに遊んで過ごすということはのちに学習支援をする上で重要ではないかと感じます。なぜならその時間である程度の信頼関係を築かないことには、こと遊び盛りの男子小学生などには勉強をしてみようと言っても拒まれてしまうからです。初日はまったく学習関係のことに耳を貸さなかった子たちが、2日目にはこちらの出した計算問題やクイズに興味を示して取り組むといった変化が、多少なりとも見られました。(学部4年生)

○小5の男の子は「俺、寺子屋来た人のことみんな覚えてる、みんなと思い出作ってんだ。だから、お兄さんとは鬼ごっこして思い出作りたい。」と言ってくれた。(学部4年生)

○中学1年生の男の子と中学3年生の女の子に英語を教えた。2人とも非常にまじめで、勉強に対する意識が高かった。男の子は英語を習い始めたばかりで、英語に対する取り組み方や基本的なことを中心に教えた。女の子は勉強がよくできる子で、英語以外の科目のレベルも非常に高く、模試(英語)の解説を行った。女の子に関しては学校生活の相談などにも乗った。(学部1年生)

○小学生7人の参加で勉強は全くせず、外でずっと鬼ごっこをしていた。皆元気で、屋根に登ったりボールを投げたりコーンをひっくり返したりしていた。そんな元気いっぱい小学生の相手はやや疲れた。やたらだっこをせがむところなど少し気になる部分もあった。(学部4年生)

○最初はサッカーをしていましたが、途中で女の子が習字を始め、サッカーが終わったら室内でカードゲームをしました。合計を10にするカードゲームで、5歳の女の子が足し算を理解しながらカードを出せるようになりました。(学部4年生)

○1日目は、他のボランティア団体が高齢者支援を行う時間と並行していたが、その傍らで漢字の勉強をしたり、ボードゲームで遊んだりした。その後小4~小6の男子4名程度が合流し、一緒にサッカーをした。どの生徒も人懐こくて、楽しい時間を過ごせた。(博士課程1年)

4、福島県大熊町の避難生徒への 学習支援ボランティアの派遣

平成24年3月の春休み期間中に引き続き、平成24年8月の夏休み期間中の7泊8日で、大熊町教育委員会からの要請により、同町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒（仮設住宅、借上げ住宅、旅館、ホテル等で避難生活中）を対象として、主に自習形式での教室における学習サポートを行いました。

(1) 募集要項

平成24年7月5日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県大熊町の学習支援ボランティアの募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興、再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび春季(3月)の活動に引き続き、福島県大熊町教育委員会からの要請により、大熊町から会津若松市に避難している中学生を対象として、学習支援活動等を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

平成24年8月17日(金)～8月24日(金) <7泊8日>

2 募集人員

10名程度。

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所

大熊中学校(福島県会津若松市内)の教室を利用

5 活動内容

中学生を対象として、自習形式を主とした学習支援を行う。

なお、具体的事項は、大熊町教育委員会等と協議の上、追って決定します。

6 宿泊場所

福島県会津自然の家(会津坂下町)

7 活動日程

8月17日(金)(移動日)

12:00 東京駅を出発(各自)

15:00 会津若松駅に集合

16:00 会津自然の家に到着
(適宜ミーティング等/自由時間)

22:00 就寝

8月18日(土)～8月23日(木)(活動日)

6:00 起床、朝食等

9:00 送迎用バスにより会津自然の家を出発

10:00～16:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

17:00 送迎用バスにより宿泊場所に到着
(適宜ミーティング等/自由時間)

22:00 就寝

8月24日(金)(活動及び移動日)

6:00 起床、朝食等

9:00 送迎用バスにより会津自然の家を出発

10:00～16:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)

17:00 会津若松駅にて解散

8 現地等への移動手段

東京駅～会津若松駅の移動/各自JR等利用(活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより大学が補助)

会津若松駅～会津自然の家～大熊中学校の移動/会津自然の家所有の送迎車(無料)

9 生活環境

宿泊、入浴環境は、会津自然の家の施設利用となります。(施設使用料、クリーニング代は大学負担。食事代及び活動場所での昼食は各自負担となります。)

10 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴セット、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※ 腕章は、大学で用意しています。

11 注意事項等

(1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

(2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。

(3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

12 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日【3月14日(水)】までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail又はFAXによりお送りください。

参加の可否については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、満員になり次第募集を終了いたします。

13 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529(内線22529)

(2) 申込書・お知らせ・オリエンテーション

【東京大学学習支援ボランティア用】ボランティア活動申込書

平成 年 月 日提出

氏名 (ふりがな)	()	性別	男・女
学生証番号			
学部名、研究科名			
科類、学科、専攻、学年			
希望活動日程	<input type="radio"/> 平成24年8月17日(金)～平成24年8月24日(金)		
連絡先	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス(PC)		
	メールアドレス(携帯)		
緊急連絡先 (保護者等)	FAX		
	氏名		
	電話番号		
ボランティア経験の有無 (有る場合は内容を記載してください。)	有・無		
備考			

受付日
平成 年 月 日

【提出先】
 東京大学ボランティア支援班事務局(本部学生支援課内)
 電話:03-5841-2529(内線22529)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 〒113-8654
 東京都文京区本郷7-3-1 学生支援センター内

～オリエンテーション次第

日時 平成24年8月8日(月)13:30～15:00

場所 学生支援センター3階
 本部学生支援課ディスカッションルーム

次第

- 13:30～14:00 ボランティア支援班 市村桃子班員からの説明
 「日程説明、連絡・注意事項等」
- 14:00～14:15 3月の福島県大熊町学習支援ボランティア参加者
 総合文化研究科博士課程 1年
 若杉誠さんの経験談
- 14:15～ 参加学生の顔合わせ、リーダー決めなど

(お知らせ)

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア募集 @ 福島県大熊町

現在予定している内容は次のとおりです。

- 活動日程:平成24年 8月17日(金)～8月24日(金) <7泊8日>
- 活動場所:大熊中学校(福島県会津若松市内)の教室
- 活動内容:避難生活をしている中学生の学習支援
- 募集人数:10名程度(本学の学生)
- 宿泊場所:会津自然の家
- 募集締切:7月27日(金) ※満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
 東京大学教授・復興支援室 ボランティア支援班
 (学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
 E-mail: volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
 FAX: 03-5841-2519
 TEL: 03-5841-2529 (内線22529)

(3) 参加者のしおり(抜粋)

福島県
学習支援ボランティア
参加者のしおり



平成24年8月8日

東京大学教養・復興支援室ボランティア支援班

目 次

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって	・・・ 1
2. 活動期間	・・・ 2
3. 活動日程・日程表	・・・ 2～4
4. 参加者名簿	・・・ 5
5. 事前準備と持ち物	・・・ 6
1 ボランティア活動について	
2 ボランティア保険への加入について	
3 大学への届出	
4 持ち物	
5 食事・入浴について	
6. 注意事項等	・・・ 7～10
・ 活動するに当たっての心構え	
・ 地震発生時の注意事項	
・ 急病等発生時の注意事項	
7. こんな時はどうする(Q&A)	・・・ 11～12

参考資料

- ① 関係機関・施設
- ② 福島県会津自然の家利用の手引き
- ③ 大熊中学校(大熊町役場会津若松出張所)周辺MAP
- ④ 福島県会津自然の家～大熊中学校のMAP
- ⑤ ボランティア保険加入手続きの手順・留意点・Q&A

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、大熊町教育委員会からの要請により、同町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒(仮設住宅、借上げ住宅、旅館、ホテル等で避難生活中)を対象として、主に自習形式での教室における学習サポートを行うものです。

教室の分け方やタイムスケジュール、学習サポートの進め方や分担等はすべて任される予定ですので、リーダーを中心に話し合っ

て決めてください。
なお、初日の開講時には自己紹介や学習方法等の話題提供により生徒との親睦を図っていただくとともに、1日1～2時間程度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでいただき、それらの企画・実施をお願いします。

活動場所の大熊中学校は、会津若松市内の大熊町役場会津若松出張所の2階に設置されており、宿泊場所の会津自然の家から、送迎バスにより毎日通うことになります。

●学習支援をするに当たっての注意点

(附属中学校教諭の講話より)

- ① 公の活動であること。
アルバイトとは異なり、教育委員会の正式な依頼を受けて大学の代表として活動することを肝に銘じてほしい。
- ② 言動に注意すること。
普通のことでも迷惑になる場合もある。
- ③ 全体的なサポートをすること。
 - ・ 問題の正誤だけでなく学習の方法に注意し、自立した学習の形成を促す
 - ・ 家庭での勉強法にも配慮する(日頃の生活を含めた心のケア)
→ 一時の正解ではなく、長い目で見た学習方法を

2. 活動期間

平成24年8月17日(金)～8月24日(金) <7泊8日>

3. 活動日程

8月17日(金)(移動日)

- 15:00 会津若松駅に集合(現地集合)
→ 駅前から送迎バス(予定)で大熊中学校へ移動
15:20 大熊中学校(大熊町教育委員会2F)に到着後打合せ等
16:00 送迎バスで大熊中学校から会津自然の家へ移動
17:00 会津自然の家に到着
オリエンテーション、夕食、入浴、適宜ミーティング等
22:00 就寝

8月18日(土)～8月23日(木)(活動日)

- 6:00 起床、洗面、清掃等
7:20 朝食、出発準備等
9:00 送迎バスで会津自然の家を出発
9:50～14:50 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)
16:20 送迎バスで会津自然の家へ移動
17:00 会津自然の家に到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
22:00 就寝

(活動に持っていくもの)

□救急バッグ □腕章 □名札 □デジカメ □昼食 □飲み物

8月24日(金)(活動及び移動日)

- 6:00 起床、洗面、清掃等/帰り支度をする
7:20 朝食、出発準備等
9:00 送迎バスにより会津自然の家を出発
9:50～14:50 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)
16:20 送迎バスで会津若松駅へ移動
17:00 会津若松駅にて解散(現地解散)

※1 東京駅～会津若松駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額(迂回した場合など減額される場合があります。)が補助されます。(別紙参照)

※2 会津自然の家～大熊中学校の移動は、送迎用のバスを利用しますので、各自の負担はありません。

※3 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。

※4 食事・飲み物代は、すべて各自の負担となります。朝食(410円)・夕食(560円)は、会津自然の家の食事(バイキング形式)をとっていただきます。昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所に配達可能な弁当屋もいくつかあるので、利用が可能です。

※5 会津自然の家の生活の注意事項は参考資料を参照してください。

※6 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

5. 事前準備と持ち物

1 ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結を原則とします。
- 2) 活動内容は、福島県大熊町教育委員会の要請に基づいていますので、担当者等の連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1,000円)に加入するようにしてください。

3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、運動靴(室内レク用)、ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金

〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

5 食事・入浴について

食事は、朝・夕は会津自然の家でのバイキング形式で、1日当たり朝食410円、夕食560円の食費がかかります。

活動日の昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所に配達可能な弁当屋もいくつかあるので、利用が可能です。

入浴時間は、会津自然の家にて17:00～21:30の間ですが、他団体の利用状況によっては事前調整があります。ボディークリーム、シャンプーはありますが、タオル等は各自準備してください。ドライヤーは2台設置されておりますが、洗面所でご利用ください。(設置場所以外で使用するとブレーカーは落ちるそうです。)

6. 注意事項等

活動するに当たっての心構え

[全般]

(1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。

(2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

(3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。

(4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。

(5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。

(6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

(7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。

(8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらうと心得ましょう。

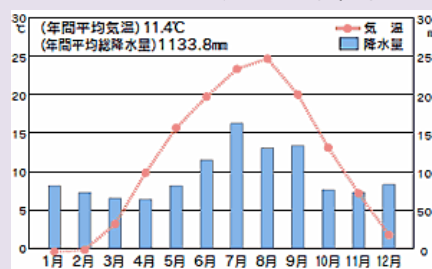
[安全面]

(9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1000円)に加入してください。

(10) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

(11) 暑い時期ではありますが、露出度の高い服装はやめましょう。

＜会津地方の気候＞会津若松市



(福島県HPより)

[学習支援ボランティア]

(12) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。

(13) 今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

(14) 学習をサポートすることと同時に、生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。

地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。

揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。

・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物(できれば4階以上が望ましい)に避難してください。

・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。

・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。

・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(宿泊場所:会津自然の家で地震が発生したら)

・会津自然の家に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。

・台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。

・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。

・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。

・会津若松市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

急病等発生時の注意事項

・出発前に急病等の不測の事態が生じたときや活動中に怪我や急病等の不測の事態が生じたときは、速やかにボランティア支援班事務局までご連絡ください。

《連絡先》 東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局

(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(当日の場合) volunteer1882@docomo.ne.jp

直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)

携帯電話 080-2373-1881、1882

・意識を失った者を発見した場合には、むやみに移動させず、安静な体勢にしてください。

・少人数での行動時や保健師等の資格保持者が周りにいない場合には、応急措置を行うとともに、周りの人に声をかけ、直ちに救急通報(119番)を行ってください。

7. こんな時はどうする(Q&A)

[目次]

- ①急に参加できなくなった時は？
- ②急に帰京しなければならなくなった時は？
- ③活動場所に忘れ物をした時は？
- ④活動中に地震が発生した時は？
- ⑤活動中に負傷した時の補償は？
- ⑥パソコンを持参しても使用できますか？
- ⑦負傷して入院することになった場合はどうなりますか？
- ⑧期間終了後に引き続き遠野市に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？
- ⑨ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

Q-1 急に参加できなくなった時は？

A 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。
(連絡先)東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班事務局
(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
(当日の場合) volunteer1882@docomo.ne.jp
直通電話 03-5841-2529(平日9時~17時)
携帯電話 080-2373-1881、1882

Q-2 急に帰京しなければならなくなった時は？

A 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881、1882)に連絡をしてからお帰りください。

Q-3 活動場所に忘れ物をした時は？

A まずは、忘れ物をしないよう、各自注意してください。忘れ物をしてしまった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881、1882)に相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4 活動中に地震が発生した時は？

A 活動場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。地震が発生したら、家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。

Q-5 活動中に負傷した時の補償は？

A 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

(例) 死亡保険金	2,000万円
後遺障害保険金	2,000万円(限度額)
入院保険金日額	11,000円
通院保険金日額	6,370円
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)

Q-6 パソコンを持参しても使用できますか？

A 大熊中学校及び会津自然の家には、ネットワーク環境が整備されていませんので、ケーブルを用いての使用はできません。また、無線LANであってもサービス提供エリア外の会社もあるため、事前に確認をお願いします。

Q-7 負傷して入院することになった場合はどうなりますか？

A ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいのですが、一緒に帰京しなくてもよいですか？

A 集合時間・場所から解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。

Q-9 ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうすれば良いですか？

A 参加者相互で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局へご相談ください。

(4)活動報告

平成24年8月30日

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援(8月)」の活動報告

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、福島県教育委員会及び大熊町教育委員会からの要請により、大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒(仮設住宅等で避難生活中)を対象とした学習支援活動で、平成24年3月実施の第1回目(7泊8日)に続き、本年8月17日(金)～8月24日(金)の間に、11名の学生ボランティアを派遣し実施した。

【活動概要】

- 日程:平成24年8月17日(金)～8月24日(金) [7泊8日]
- 参加学生:11名(学部学生4名、大学院学生7名)
- 宿泊場所:福島県会津自然の家(会津坂下町)
- 活動場所:大熊中学校(会津若松市内の仮校舎)の教室を利用
- 活動日程
8月17日(金) 現地集合、活動打合せ、オリエンテーション・ミーティング等
8月18日(土)～8月23日(木)活動9:50～14:50
学習、レクリエーションの時間割、進め方等はすべて学生が主体に決定。
8月24日(金) 活動後、現地解散

※ 参加生徒数(各日午前・午後の延人数)

- 18日(土):中学1年生11名、2年生20名、3年生 5名
- 19日(日):中学1年生14名、2年生13名、3年生 4名
- 20日(月):中学1年生 3名、2年生17名、3年生 2名
- 21日(火):中学1年生 5名、2年生10名、3年生 4名
- 22日(水):中学1年生 3名、2年生16名、3年生 1名
- 23日(木):中学1年生 2名、2年生16名、3年生 4名
- 24日(金):中学1年生 2名、2年生17名、3年生 5名

また、活動初日(18日)に開講式、24日には閉講式が行われ、学生ひとりひとりがメッセージを伝えるとともに、記念品を贈呈した。



開講式での小野田校長の挨拶



学習支援活動の開始の様子



勉強の間にレクリエーション



学習する生徒たち



学習後にみんなで記念撮影

【ボランティア参加者の活動報告(抜粋)】

○生徒さん達はすごく真面目で、しっかりと学校の宿題等に取り組んでいました。中でも、学校の勉強についていけないような生徒さんには、東大生が一人付いて、しっかり教えました。勉強が良くできる生徒さんには、プラスαの知識を話すと、興味深そうに聞いてくれました。(大学院修士課程1年生)

○前回の活動を経験したメンバーが自分を含め二人おり、また中学生も前回参加した生徒が多数であったため、極めてやりやすかったように思う。参加した大熊中の生徒や、参加学生自身にとっても、大変好評な企画であったと受け取っている。機会があれば、また実施することを強く望む。(大学院博士課程1年生)

○学習の合間にレクレーションを行った。特に中1、中2の生徒は集中力に限界があり、レクレーションを楽しみに学習に励んでいる生徒も見受けられた。内容は学年ごとの話し合いで決められ、学習を交えたレク(英単語しりとり、部首書き出し、また大学での研究を模したディスカッション等)や、フルーツバスケット、カードゲーム(トランプやウノ)など行った。(大学院修士課程2年生)

○午前中から15時まで集中力の続かない生徒も多いので、特に1・2年生に対してはレクレーションを取り入れた。フルーツバスケットやウインクキラーなど、楽しむだけのレクも行ったが、ゲーム理論、フェルミ推定、ディスカッションなどの頭を動かすレクも多く行い、概して好評であったと思われる。(専門職大学院生)

○生徒は学年ごとに3教室に分け、夏休みの課題となっているワークブックを中心に、各自の学習進度や希望に基づいて解説・講義を行った。1・2年生に関しては、自習中の集中力が持たない生徒もいたため、午前・午後ともに30分程度のゲームなどを行い、学習には集中して臨めるよう配慮した。(学部学生)

○基本的には生徒に自習学習をしてもらい、分からない部分について質問してもらおうという形を取った。各学年ごとにある程度メンバーを割り振ったが、その日の参加生徒数等を考慮しつつ各自柔軟に生徒の対応に当たった。(専門職大学院生)

○生徒と話したりご飯を食べたりしている時には、生徒は至って元気で、普通の生活を送っているように感じたのですが、震災と原発事故からショックを受けていることは間違いないと思います。特にそれだからといって、生徒に対して特別な接し方をする必要はないと思いますが、震災や原発の話をするには慎重になった方がよいと思いました。(学部2年生)

【学習支援に参加した中学生の声】

●とてもたのしかったです。また来てください、まっています。勉強をおしえていただき、ありがとうございました。

●1週間のお世話になりました。とても…いや、とてつもなく楽しかったです。また来てください。

●分かりやすかったし大学生(東大)とも仲良くなったので、ちょー楽しかったです

●ものすごくいいねいで、わかるまでやってくれたりしたので勉強がおもいきりできました。次も勉強会をやりたいと思っています。

●東大生に分からない事がたくさん聞けたので、とても良かったです。分からないところから話を広げて聞けたのもよかったです。レクレーションも種類が豊富にあって、とても楽しかったです。昼ご飯の時なども、楽しくしゃべりながらできてよかったです。とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

●最後の2日間しかいりませんが、わかりやすくいいねいにおしえてくれて、宿題が進みました。また冬休みや春休みに来てほしいです。次は、しっかり毎日参加したいです。

●楽しかった!!次あったら、また来てほしいです。

●みんなキャラがこくておもしろかったです。1週間お世話になりました。

●けっこう楽しかったです。冬休みもやってほしい。もっと長い期間やってほしい。

●東大の人に勉強をおしえてもらって、すごく頭に入りました。すごくおもしろかったです。次も来てほしいです。

●今回、夏休みの課題がピンチだったので、とても助かりました。期間が短く感じたので、もっと延ばして欲しいと思いました。勉強会のおかげで、今まで分からなくてもほったらかしにしていたところが分かるようになったので、良かったです。最初に比べれば、大分かしくなりました。有り難うございました。

5、ボランティア活動報告会

本学構成員によるボランティア活動の体験報告等により、今後の活動計画への参考に資するため、平成23年度は計3回、平成24年度は大学企画のボランティア活動の報告を中心に第4回ボランティア活動報告会が開催されました。

【第4回ボランティア活動報告会】

平成24年9月13日

学生及び教職員のための 第4回ボランティア活動報告会

理事・副学長 武藤芳照

深刻かつ未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年半が経ちます。この間、東京大学では、災害からの復興・再生に向けての支援活動の取組みを推進するとともに、学生や教職員による持続可能な形と方法でのボランティア活動を展開してきました。

このたび、平成24年度に入ってからボランティア活動の体験報告により、現在の被災地の状況把握や今後の活動計画の参考に資するため、下記のとおり「第4回ボランティア活動報告会」を開催します。

本学の学生、教職員の方は奮ってご参加ください。

■内容

- 武藤理事・副学長の挨拶
- 東京大学ボランティア隊の活動報告
ゴールデンウィークボランティア隊
夏季ボランティア隊
- 学習支援ボランティア活動の報告
岩手県陸前高田市
福島県相馬市
福島県大熊町
- 質疑応答



日時：平成24年10月10日（水）
時間：18時00分～19時30分（予定）
場所：駒場Ⅰキャンパス
数理学研究科大講義室

※参加自由

「第4回ボランティア活動報告会」が開催される

10月10日（水）午後6時から、駒場キャンパス数理学研究科大講義室において、本学の学生及び教職員75名の参加の下、「第4回ボランティア活動報告会」が開催された。

開会に当たり、濱田純一総長から挨拶があり、ボランティア活動に参加した学生及び教職員に対するねぎらいと激励の言葉及び震災ボランティア活動の取組みは極めて意義深い旨が述べられた。続いて、本年度上半期に実施したボランティア活動報告があった。GW、夏季のボランティア隊及び岩手県陸前高田市「学びの部屋」、福島県相馬市「寺子屋事業」、福島県大熊町での学習支援への各参加代表者並びに自主的に宮城県七ヶ浜町でボランティア活動を行った学生からそれぞれ報告され、活動の概要とともに被災地の状況や実体験に基づく提言、アドバイス等極めて有益な情報が伝えられた。

最後に、武藤芳照理事・副学長（ボランティア支援担当）から、報告者への謝辞とともに活動の内容や取組みが大きく進化してきている旨と更に継続性と多様化に繋げていきたい旨が述べられ、有意義な報告会となって終了した。



濱田総長から
開会の挨拶



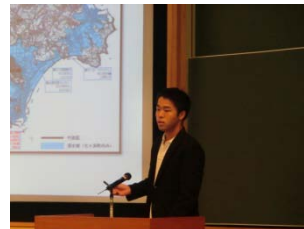
武藤理事・副学長
から閉会の挨拶



GWボランティア隊：
斉藤美樹氏
（本部奨学厚生課職員）



夏季ボランティア隊：
入手藤雄氏
（医学部附属病院医事課副課長）



宮城県七ヶ浜町ボランティア
センターでの活動報告：
篠原光太郎氏
（工学部システム創成学科4年）



陸前高田市「学びの部屋」：
富田真緒氏
（教養学部前期課程2年）



相馬市「寺子屋事業」：
山本達人氏
（教育学研究科修士課程2年）



福島県大熊町学習支援：
若杉誠氏
（総合文化研究科博士課程1年）



会場の様子

6、被災地ボランティア座談会～この営みを 続けていくために～

本学では引き続きボランティア活動を推進しているが、被災地においては時の経過とともに、ボランティア数は大きく減少している。そこで、大学においてボランティア活動を推進する意味や継続的な活動についての理解を深めてもらうことを目的として、ボランティア支援担当理事・副学長とボランティア活動に参加した学生との座談会を行い、その模様を「学内広報の特集号」に掲載しました。



学内広報

2012.10.25

no.1430



平成24年度秋季学位記授与式・卒業式
平成24年度秋季入学式

被災地ボランティア座談会
この営みを続けていくために

被災地ボランティア座談会 この営みを続けていくために



昨年の東日本大震災発生以来、本学では学生と教職員によるボランティアの派遣を実施しています。被災地復興は息の長い活動を必要とするため、今後も継続的にボランティア派遣を続けていく予定です。そこでこの特集では武藤芳照理事・副学長（ボランティア支援班担当）とボランティア経験のある学部学生・大学院学生の皆さんに、この1年半の体験と今後の継続的ボランティア活動の展望について語っていただきました。

武藤 昨年の3月11日、東日本大震災が発生しました。東京も震度5強の揺れに見舞われましたが、皆さんはあのとき、どちらにいましたか？

吉田 埼玉の自宅にいました。揺れているときは「マンションのドアが開かなくなると困る」と思っただけで、ドアを押さえながら共用の廊下に立っていました。幸い、怪我などはありませんでした。

延川 葛飾区の祖父母の家で暮らしているんですが、地震のときに出かけていた祖母としばらく連絡がつかなくて心配でした。幸い、バスが動いていて間もなく帰宅しましたが。

河底 僕は柏キャンパスで就職活動のセミナーに参加していました。一度目の揺れで外に出たんですが、二度目の揺れのときにガラス張りの建物のガラスがぶるんぶると大きな音をたてて揺れて、怖かったですね。

武藤 地震のとき、私は教育学部長室で千明賢治事務長と話していたんですが、揺れ始めて間もなく、めりめりと壁がひび割れていく音がして「も



理事・副学長

武藤 芳照

本学のボランティア支援班担当理事・副学長として、平成23年4月から救援・復興支援室ボランティア支援班を統括し、本学の東日本大震災に関わる支援活動の施策を担っている。

うこれで終わりかな」と覚悟しました。教育学部の事務室からは女性職員の悲鳴が聞こえてきて。本当に激しい揺れでしたね。幸い、教育学部内では大きな被害はありませんでしたが……。

あの地震の混乱がやや収まってきた3月下旬、濱田総長から「4月以降、東大構成員による被災地ボランティア活動を始めてほしい」と命じられ、「東京大学百年史」を紐解きました。関東大震災時の帝大生の市民支援について調べると「学生たちが自発的に避難民を支援し、それを大学が支える」という形が見えてきて、今回のボランティアもそのようなスタイルで行うこととしました。実際、すでに多くの学生や教職員が自発的にボランティアを始めていることが見えてきて、4月下旬に「第1回ボランティア報告会」を開催したんです。その後、派遣の準備を行い、8月の夏期休業から大学としてのボランティア隊を派遣するに至ったというわけですね……皆さんが最初に行ったボランティア活動はどこでしたか？

吉田 今年のGWに参加しました（平成24年GWボランティア隊第2班）。SAVE IWATE¹という被災地支援団体で「くるみを割る作業」²をやったんですが、被災地ボランティアという言葉聞いてぱっと思い浮かぶ「瓦礫の処理の手伝い」などではなかったのが最初はちょっと意外でした。でも、SAVE IWATEの代表の方が「とても大事な作業なんだ」と説明してくださって。皆で和気あいあいと作業できて楽しかったです。

延川 僕が最初に行ったのは去年の夏の第1班です（平成23年夏季ボランティア隊）。東京大学が最初に派遣したボランティア隊ですね。あのときは側溝のヘドロ出し作業をしていて釘を踏んでしまいました。まだ震災から5ヶ月くらいで、そのうえ、初めてのボランティアだったので、気が高ぶっていたのかもしれませんが。中敷きをしていたんですが、脇から釘が刺さってしまって……ちょっと皮が剥けたくらいだったんですけど。

武藤 その後、化膿したり破傷風になったりしないで良かった。他の団体のボランティアの中には破傷風の罹患者も出てしまったからね。怪我や病気に関しては事前に相当調べて予防接種など

もしてから向かったのだけれど……。

延川 被災地に行く前は、TVで津波が押し寄せた様子や瓦礫と化した町の様子を見てもなかなか現実味が湧きませんでした。事実としては分かっているんですが実感が持たなくて。だから、「自分の目で見てみたい」というのもボランティアに行った理由のひとつですね。実際に被災地に行ってみても、非現実的な感覚は続きました。本当にここにあったくさんの家がこんな瓦礫になってしまったのか。出来事がものすごく過ぎて想像できなかった。

武藤 最初だったので、学生も教職員も随行員もどのような活動なのかというイメージを掴みきれないまま現地入りして大変だったね。河底君は今年2月の「学びの部屋」³でしたか？ 行こうと思ったきっかけは？

河底 被災地のために何かしたいという、ただそれだけです。昨年は修士論文を書かねばならなかったのも何とできなかったんですが、修論の目的がついた後、被災地のために何かしたいと思ったんですね。でも何をすれば良いのか、よく分からなくて、いろいろ調べていくうちに大学のボランティア派遣を知ったんです。「学びの部屋」という学習支援ボランティアで陸前高田市に行ったんですが、そのときは「予想していたよりもはるかに子供たちが元気だった」ということが強く印象に残っています。仮設住宅に住んで、その仮設住宅はグラウンドに建っているんで遊ぶところも狭いけれど、とても元気で。きっといろいろな悩みを抱えていたり辛さもあるんだろうけれど、それを表に出さずに元気になっている姿を見て、偉いなと思いました。

武藤 吉田さんの印象に残っている場面は？

吉田 今年の夏休みの「学びの部屋」にも参加したんですが、勉強を教えて仲良くなった中学生が学校の裏山に連れて行ってくれたんです。陸前高田を一望できるところでとても眺めが良く……あのときの中学生との交流が強く印象に残っています。ボランティアの期間中で、あの中学生



教育学部3年生

吉田 彩見

平成24年GWボランティア隊（第2班）・平成24年夏季ボランティア隊（第2班）に参加。

¹ SAVE IWATE

岩手県盛岡市を拠点として、東日本大震災の救援・復興事業を行っている一般社団法人。支援物資の仕分け・搬送、陸前高田市への配食プログラム、心と体のケアに関する活動など様々な支援事業を行っている。

² くるみを割る作業

一般社団法人SAVE IWATEが行っている東日本大震災支援事業の一つ。正式名称は「三陸の和グルメプロジェクト」。岩手県三陸地域で収穫された23トンのクルミをSAVE IWATEが買い取り、食品加工など商品化し販売を行っている。これらにより被災地の労働力の確保と雇用促進に寄与している。

³ 「学びの部屋」

岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する事業。東日本大震災によって学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる空間を提供するため、陸前高田市内の小中学校において学習支援活動を行っている。



経済学部4年生

延川 諒介

平成23年夏季ボランティア隊 (第1班)・平成24年2-3月陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア (A班)・平成24年夏季ボランティア隊 (第2班)に参加。



との会話が唯一、現地の方との交流と言えるものとなりました。恋愛の話など軽い話題で盛り上がったのですが、会話の途中で、「彼氏の家が流されてしまった」という話が出てきたりしたことを鮮明に記憶しています。

武藤 なるほど。「学習支援そのものも大切だけれど、一緒に遊んだり話したりすることも大切だ」という感想は参加した多くの学生からもらっています。延川君の印象に残っているのはどんな場面ですか？

延川 ひとつは自分が怪我をしたことですね。もうひとつは……今年2月と夏休みの「学びの部屋」に参加したんですが、場所は同じ高田第一中学校でした。夏休みのとき、2月に教えた子が僕を覚えてくれていてうれしかったですね。過去にピアノをやっていたので、休み時間に彼らのためにショパンのノクターン (夜想曲第2番)を弾いたんです。そういう、中学生との交流がとても印象に残っています。今思い返すと、彼らと遊んであげたというよりも、彼らに遊んでもらったような感じがしています。

武藤 覚えていてくれたことはとてもうれしいよね。学習支援という目的ではあるけれど、被災地の子供たちのそばに寄り添って、時間と空間を共有することの意義はとても大きいですね。では、それぞれボランティア活動をして得たものは、何かありますか？

延川 個人的なことなんですが、被災地で職員の方々と一緒に働いて東大職員の魅力に触れたことですね。自分の就職を考えるうえでも大きな材料になりました。

武藤 それで、延川君は来年4月から東大職員になることが内定しているんだね。

吉田 私も被災地に行ったときは学生よりも職員の方々と話す機会のほうが多かったくらいです。職員の方々と交流して「東大って自分が思っていたよりもずっと大きい組織なんだな」と実感しました。

武藤 なるほど、ボランティア活動は皆さん自身にとっても実りある経験になったんですね。今後の被災地復興に向けて、本学は継続的にボランティア支援をやっていると考えています。続けるにあたって、何か大切だと思うことはありますか？

吉田 私は今、就職活動中なんですけど、できるならば社会人になってからも被災地に貢献できる仕組みがあるといいなと思います……それから、実際に自分が活動することだけではなくて、現場でがんばっている人々の話を聞いたり、「国も民間もこんなにかんばっているのに、なぜ、復興が遅れてしまっているのか」ということも知りたいです。

武藤 国家、自治体、地域、組織などと現場の個人との間のギャップが大きすぎるよね。巨大な予算が注がれているはずなのに最前線はなかなか動いていかない、動いていけないということ。我々としても、東大史上初めてのボランティア支援担当課長である川久保課長と一緒に「どうすれば支援を続けて行けるか。どのように発展させるか」を真剣に考えています。大学らしい取り組みとしてどう続けるか。延川くんは続けていく工夫、何か思いつきますか？

延川 僕自身の経験から考えてみると……昨年夏に初めて行ったボランティアは教職員との交流もあって楽しい経験だったんですね。ボランティア活動すること自体が純粋に楽しかったのでリピーターになったんです。僕は他の人々と比べて特に被災地への思いが大きいわけではないと思います。他の人々と同じくらいか、それよりも小さいかもしれない。そんな僕がリピーターになることを考えれば、普通の学生たちも一度参加すればまた行きたくなるのではないかと思います。そうやってリピーターを増やしていく。それから、今の参加者を見ていると学部3年生から院生までが中心なので、1、2年生の参加者を増やしたい。5年10年のスパンで続けていくべきことだと思うので、長い間に何度も参加できる学生を増やしたいですね。

武藤 阪神淡路大震災の場合は本当に復興するまで16年ほどかかっています。東日本大震災の場合は、当初、「20年はかかるだろうな」と思ったんですが、この1年間ですいぶん進みました。それでも10年以上はかかるでしょうから息の長い活動が必要ですね。河底君は何かアイデアはありますか？

河底 まずは、とりあえず参加者を増やすことですよね。被災地に行って気持ちが変わったという人も多いので、実際に行ってみることが大切だと思います。そのきっかけを作るために、単位が与えられる授業に組み込むことが効果的だと思うんです。学生ならシラバスは皆、見るので、そういう活動をしていることを広く伝える意味でも効果的。さらに、ボランティア専門の部署を大学に作るべきだと思います。現在は東北でのボランティア活動ですが、今後、東海など別の場所で震災が起こる可能性も高い。そのときに、今、着々と積み上げているボランティアのノウハウや実績が役立つと思います。10年後になるのか30年後になるのか、それは分かりませんが、いつかまたやってくる大地震に備えて、ボランティア活動本部のような部署を作っておくことが大切だと思います。

延川 実際に大学がどこまでやるかという問題もありますね。難しい問題だと思います。

河底 東大のボランティア活動は交通費も一定の補助があるし、普通のボランティア団体ならば、寄附を募ったりして資金を集めるところからやらねばならないわけですが、大学の場合は工夫次第で資金を捻出できる。そういう意味では、むしろ大学が率先してやっていくべきなのではないでしょうか。

武藤 大学としての「被災地への関わり方」をどうするかという議論にはいろいろな意見があるわけですね。大学の授業に組み込むということも少し工夫して考えても良いかもしれません……現在、すでに遠野東大センター（東京大学教授・復興支援室 遠野センター）もありますし、寄附金などの支援金で参加者に交通費を支援できる枠組みもあります。そういう意味では、個人でボランティア活動をしている方よりも「想い」は達成しやすくなっている。教職員や学生が一体となって行うという意味でもボランティア隊は重要だし、大学が派遣する組織だからこそ、学習支援も可能となる。この枠組みを育てる形で、粛々と、そして、淡々と被災地支援を続けていくことが大学の使命だと私は感じています。

【2012年9月20日 武藤理事室にて】



新領域創成科学研究科
博士課程1年生

河底 秀幸

平成24年2-3月 藤前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（A班）・平成24年GWボランティア隊（第1班）・平成24年相馬市寺子屋事業学習支援ボランティア（A班）に参加。



最近のボランティア派遣

夏季ボランティア隊 (平成24年)

この夏も、東日本大震災の被災地支援活動の一環として、岩手県大槌町社会福祉協議会VC及び陸前高田市教育委員会等との連携の下に、本学の学生及び教職員による「夏季ボランティア隊」の参加者を募り、岩手県遠野市を拠点として復興・再生への支援活動を行いました。

3班編成でそれぞれ4泊5日（うち車中1泊）の日程で総勢113名が参加し、大槌町での海岸清掃、用水路ドロ出し、被災住宅地等の草刈り、お寺の清掃や一部学生による陸前高田市での学習支援活動を行いました。



吉里吉里地区の海岸での清掃作業。ふるいで丁寧に破片などを取り除く

福島県大熊町学習支援ボランティア (平成24年8月)

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、福島県教育委員会及び大熊町教育委員会からの要請により、大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒（仮設住宅等で避難生活中）を対象とした学習支援活動で、平成24年3月実施の第1回目（7泊8日）に続き、8月17日（金）～8月24日（金）の日程で、11名の学生ボランティアを派遣しました。

活動初日（18日）に開講式、24日には閉講式が行われ、学生一人一人が生徒たちにメッセージを伝えるとともに、記念品を贈呈しました。



大熊中学校の生徒たちと記念撮影

本学のボランティア派遣の歩み

平成23年度

8月3日～9月22日 (各班とも4泊5日)	夏季ボランティア隊	岩手県三陸沿岸被災地にて5班総勢220名の学生・教職員が参加。がれきの撤去活動や畑作業の手伝いなど、さまざまな活動に従事
12月26日～1月9日 (各班とも3泊4日)	岩手県陸前高田市学習支援ボランティア	「学びの部屋」に年末に7名、年始に9名の学生が参加、陸前高田市内の中学生の学習をサポート
2月18日～3月18日 (各班とも1泊2日)	岩手県陸前高田市学習支援ボランティア	年末年始に続き、「学びの部屋」に4班総勢35名の学生が参加、期末試験・高校入試の準備などの陸前高田市内の中学生の学習をサポート
3月23日～3月30日	福島県大熊町学習支援ボランティア	福島県大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒（仮設住宅等で避難生活中）を対象に、22名の学生が参加し学習をサポート

平成24年度

4月28日～5月5日 (各班とも3泊4日)	GWボランティア隊	岩手県遠野市を拠点として岩手県大槌町、陸前高田市、盛岡市にて2班総勢77名の学生・教職員が活動
5月26日～7月8日 (各班とも1泊2日)	岩手県陸前高田市学習支援ボランティア	「学びの部屋」に4班総勢20名の学生が参加、陸前高田市内の中学生の学習をサポート
6月16日～7月22日 (各班とも1泊2日)	福島県相馬市学習支援ボランティア	相馬市の応急仮設住宅に入居している小中学生を対象に、4班総勢22名の学生が児童・生徒の学習をサポート
8月2日～8月27日 (各班とも4泊5日)	夏季ボランティア隊	詳細は上述
8月17日～8月24日	福島県大熊町学習支援ボランティア	詳細は上述

※学習支援ボランティアは、2～3ヶ月の期間ごとに区切り、継続実施中

URL: http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

問い合わせ先: 救援・復興支援室ボランティア支援班 (内線:22529)

7、ボランティア活動支援金

(1) 支給実績

平成23年度（平成23年12月～平成24年3月）
63件 支給学合計 1,129,040円
平成24年度（平成24年4月～平成25年2月）
247件 支給額合計 4,043,813円
（平成25年2月末日現在）

(2) 取扱要項

平成23年12月6日
救援・復興支援室

東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項

1(趣旨)

この取扱要項は、東日本大震災の被災地域において救援・復興に関わるボランティア活動を行う本学の学生を支援するため、必要な事項を定める。

2(支援対象予定者)

支援対象予定者は、東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村においてボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生とする。

3(支援内容)

(1) 従事するボランティア活動が、東日本大震災の救援・復興に関わる活動であり、かつ、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等が主催する活動であると認められる場合において、その活動経費の一部又は全部を支援金として補助する。

(2) 支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動の主催団体が定める参加費等に相当する額の範囲内で、かつ、1回の活動につき20,000円を上限とする。

4(申請方法)

支援金を希望する者は、別に定める「申請要領」により申請するものとし、ボランティア活動を行う毎に申請することを可能とする。ただし、同一人による申請は、原則として、2回を限度とする。

5(支援の決定)

支援対象者及び支援金額は、前項の申請の際に提出されたボランティア活動報告書等を審査の上決定し、その結果を本人に通知する。

6(支援金の支払方法)

支援金は、申請者が指定した金融機関の口座に振り込むものとする。

7(返還)

申請に虚偽があった場合は、支援金を返還させるものとする。

8(事務)

支援金の取扱いに関する事務は、本部学生支援課が行う。

9(その他)

(1) この取扱要項による支援は、支援金の原資がなくなったときに終了する。

(2) この要項に定めるもののほか、この要項の実施に当たって必要な事項は、別に定める。

(3) 申請要領

平成23年12月6日
救援・復興支援室

ボランティア活動支援金の申請要領

「東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項」の4に基づく、ボランティア活動支援金の申請手続については、下記の要領により行います。

なお、申請手続は当該ボランティア活動の終了後に行うこととなりますが、申請時の提出書類の中には事前に様式を準備していく必要がある場合がありますので、ご注意ください。

1 申請資格

本学の「東日本大震災にかかる救援・復興支援のためのボランティア活動について(平成23年6月7日通知)」、「教職員・学生の救援・復興支援活動に当たっての留意点について(平成23年8月2日通知)」等の通知の趣旨に沿って、被災地でボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生を対象とします。

2 申請対象となる活動内容

(1) 東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村における救援・復興に関わるボランティア活動であって、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等(以下「公的団体等」という。)が主催する活動に従事する場合とします。

(2) 平成23年12月6日以降の活動を対象とします。

3 支援金の額

支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動を主催する公的団体等が定める参加費等に相当する額とします。

ただし、1回の活動につき20,000円を上限とします。

4 申請方法(提出書類等) ※ホームページからダウンロードしてください。

(1) 申請する際は、次に掲げる書類を提出してください。

- ① ボランティア活動報告書(支援金申請を含む。)
- ② 振込口座届
- ③ 公的団体等で活動したことを証明する書類(活動受入証明書あるいは認印等)
- ④ 公的団体等がボランティア活動に係る参加費等を定めている場合は、「ボランティア募集パンフレット」等の参加費等の金額がわかるもの

(2) ボランティア活動毎に申請することができます。

ただし、同一人による申請は、2回までとします。

(3) 申請書類は、本部学生支援課の窓口において受け付けます。

※ (1)の③、④の証明書等の提出がない場合は、支援金の補助ができませんので注意してください。

5 支援の決定

申請の際に提出されたボランティア活動報告書類等を審査の上決定し、その結果を同書類に記載の連絡先に通知します。

6 支援金の振込み

原則として、申請のあった翌月の末日までに届出のあった口座に振り込みます。

7 その他

この支援金の補助は、原資がなくなったときに終了します。

8 問い合わせ先

本部学生支援課(本郷キャンパス学生支援センター地下1階)
電話:03-5841-2524
FAX:03-5841-2519

ボランティア活動状況調査の結果

1、第1回活動状況調査

(調査期間: 平成23年3月11日-5月12日)

1-1、学生

1-2、教職員

2、第2回活動状況調査

(調査期間: 平成23年5月13日-9月30日)

2-1、学生

2-2、教職員

3、第3回活動状況調査

(調査期間: 平成23年10月1日-平成24年5月10日)

3-1、学生

3-2、教職員

※ 第1回、第2回の活動状況調査は平成23年度中に行われたものである

1、第1回活動状況調査
1-1、学生

東京大学学生におけるボランティア活動状況一覽

■ 学生参加者 110名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの学生ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

部局	学生別			参加期間		宿泊数			宿泊地	参加団体窓口	参加ボランティア内容	備考
	学部生	院生	専攻生	研究	GW前	GW中	GW後	7泊以上				
法学政治学研究科	1					~4/27	4/28-5/9	1			A)1	バス
医学系研究科	8					8		3			C)2 D)6	バス
工学系研究科	19					8		12			A)4 B)1 C)2 D)2 A)4 G)5	バス
人文社会系研究科	2					1		2			A)1 C)1	バス
農学生命科学研究科	10					5		8			G)2	バス
経済学研究科	5					1		2			G)5	バス
総合文化研究科	5					3		3			G)3	バス
新領域創成科学研究科	13					4		10			A)1 F)2 G)10	バス
情報学環												バス
計	24	55	24	5	2	43	67	36	62	12		
合計							110	110				

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。
※農学生命科学研究科については、学生証番号及び修士、博士等の表記をしない意向のため、大学院学生は全て院生修士に集計した。

東京大学教職員におけるボランティア活動状況一覧

■教職員参加者 21名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの教職員ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

部局	教職員別		参加期間		宿泊数		活動場所	仲介団体	参加ボランティア内容	備考
	教員 (特定有期含 む)	教員以外 (特定有期、 短時間含む)	GW前 ~4/27	GW中 4/28-5/9	2泊3日迄	3泊4日以上 7泊以上				
1 医学系研究科	2			2	2		B/2	B/2	C/2	
2 理学系研究科	1		1			1	C/1	E/1	E/1	
3 経済学研究科	2		2		1	1	A/1 D/1	E/2	B/2	
4 総合文化研究科		3	1	2	3		C/1 E-F/1 G/1	C/1 D/1 E/1	D/3	
5 教育学部		4		4		4	B/4	F/4	D/4	
6 情報理工学系研究科		1		1		1	A/1	A/1	D/1	
7 情報学環		1		1		1	C/1	E/1	D/1	
8 医科学研究所		3	1	2		3	H/1 C/2	E/3	A/3	
9 生産技術研究所		1	1	1		1	H/1 D/1	E/1	A/1	
10 本部		2		2		2	B/1 C/1	E/2	A/1 D/1	
計	10	11	6	15	10	11				
合計		21		21		21				

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

2、第2回活動状況調査
2-1、学生

東京大学「学生」のボランティア活動状況一覧

■参加者数 223名
調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日

部局	学生別				参加期間					活動日数		活動地	生協	参加団体窓口			備考									
	学部 生	院生 修士	院生 博士	院生 専攻	院生 他	5月	6月	7月	8月	9月	未記入			3日以内 ～1週間	4日以上 ～1週間	8日以上 未記入		現場の 団体	その他 (NPO 等)	不明	参加者 以外 参加者	参加者 以外 参加者				
1 医学系研究科	1	1	2			1					1	1							1							
2 工学系研究科	22					2	8	2	10	12	10	12							14	7	8	14				
3 人文社会系研究科	18					2	1	4	8	3	5	12	1						2	12	4	11	7			
4 理学系研究科	1	7	3			1	3	2	1	1	2	1							1	1	2	1	6			
5 農学生命科学研究科	6	7				3	1	3	1	3	2	2							1	2	1	3	7			
6 経済学研究科	5					1	1	1	2	1	2	3							1	2	1	2	3			
7 総合文化研究科	76					9	3	29	12	23	41	35							4	43	1	29	33	43		
8 教育学研究科	8	2				1	1	1	1	1	1	1							1	1	1	1	6	2		
9 薬学系研究科	3	1				1	1	1	1	1	3	1							1	1	1	1	3	3		
10 新領域創成科学研究科	5	2				2	4	1	1	1	1	4							3	2	1	1	5	5		
11 情報理工学系研究科	7					1	1	1	1	1	1	1							1	1	1	1	1	7		
12 公共政策大学院						2	1	3	3	3	2	7							1	6	1	1	5	4		
計	140	53	19	9	2	20	24	61	48	61	3	88	125	7	3				10	142	18	53	84	136	3	
合計																										223

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延べ人数である。

3、第3回活動状況調査
3-1、学生

東京大学「学生」のボランティア活動状況一覧

■参加者数 84名
調査期間：平成23年10月1日～平成24年5月10日

部局	学生別		参加期間												活動日数		活動地	参加団体窓口 現地の団体 (NPO等)	参加ボランティア内容 本学主催 ボランティア 学習支援 その他										
	学部	院生	12月	11月	10月	9月	8月	1月	2月	3月	4月	5月	未記入	3日以内	4日以上 8日以内	8日以上 未記入													
1 法学政治学研究所	2	1				1			2						1	2		遠野2 陸前高田1	2										
2 医学系研究所						4									3	1		会津若松1、不明3	4										
3 工学系研究所	9	3	4						2	1	1	1			2	3		遠野4、磐石2、陸前高田1、会津若松1、いわき1 遠野6、会津若松1	9		2	2	5						
4 人文社会系研究所		3								2					1	1		陸前高田3	3										
5 理学系研究所	1	1							1	1	1				1	1		陸前高田1 遠野1 遠野1	1										
6 農学生命科学研究科	1	5							1	2	2				3	2		遠野1、大島1、陸前高田1	4						1				
7 経済学研究所		3							1	1	1				1	2		遠野6、陸前高田1	3							2			
8 総合文化研究所	9	1							1	5	1	2			2	3	4	会津若松4、遠野6、陸前高田2 会津若松1	9							3	6		
9 教育学研究所	3	13							3	8	2				2	3		遠野2、安川1 安川1、大島4、遠野2 安川4、大島1	2						1	1	1		
10 薬学系研究所	4	7							1	1	1				1	2	1	遠野6、会津若松1 遠野2、郡山2、山元1 遠野2	4						3	1	5		
11 新領域創成科学研究科		1							1	1	1				1	1		陸前高田1 遠野1	1							1	1		
12 情報理工学系研究科		1									1				1	1		遠野1	1										
13 公共政策大学院																2		遠野6、陸前高田1	3							2	1		
計	32	35	10	7	9	2	5	1	1	8	28	14	15		22	50	12		63	21					31	22	1		
合計																													84

東京大学「教職員」のボランティア活動状況一覧

■参加者数
60
調査期間：平成23年10月1日～平成24年5月10日

部 局	教職員別		参加期間												活動日数			活動地	参加団体数 現地の団 体 (NPO等)	参加団体数 その他 (NPO等)	参加ボランティア内容 本学主催 ボラン ティア数 それ以外
	教員 (特定期間 参加者 数)	教職員以外 (特定期間 参加者 数)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	5月 (未記入)	3日以内 (未記入)	4日以上 ～1週間	8日以上 (未記入)					
1 法学政治学研究所	1														1	連野1	1		1		
2 医学系研究所	1														1	大船渡1		1	1		
3 工学系研究所		3													3	連野3		3	3		
4 人文社会系研究所																					
5 理学系研究所																					
6 農学生命科学研究科	1	5													4	連野4、釜石1	4	1	4		
7 経済学研究所															1	連野1	1		1		
8 総合文化研究所		19	2	4	3	2	3	2	1	2	1	2	15	4	連野1、釜石3、釜石沼2、水川2、大船渡 2、大船渡高田2、多賀城1、大船1、高田1、野田1	5	14	2			
9 教育学研究所	1														1	連野1	1		1		
10 薬学系研究所																					
11 新領域創成科学研究科	1														1	連野1	1		1		
12 情報理工学系研究所		1													1	連野1	1		1		
13 公共政策大学院																					
14 国際本部	1	2													2	鹿沼西1	2	1	2		
15 学生相談ネットワーク本部																					
16 本部		4													2	連野2、釜石沼1、鏡前高田1	4		2		
17 地震研究所	1														1	連野1	1		1		
18 生産技術研究所	1	3													3	東京都台東区1 連野2、鹿沼西1	3	1	2		
19 史料編纂所	1	2													2	仙台1 いわき1、仙台1	1	1	2		
20 物性研究所	2	2													1	連野1、鹿沼西1	1	1	1		
21 大気海洋研究所	1														1	連野1	1		1		
22 低温センター																					
23 アイフープ総合センター	6	2													6	連野1 福島県各所6	1	6	5		
24 計	14	46	1	2	5	5	4	2	22	14	60	25	27	8	福島県各所2	31	28	1			
合計		60										60	27	8			60	60			

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

ボランティア隊



相馬市「寺子屋事業」



大熊町



陸前高田市「学びの部屋」



組織・メンバー



東日本大震災に関する救援・復興支援室
ボランティア支援班の構成（平成24年度）

	所属・職名	氏名	備考
担当役員	理事・副学長	武藤 芳照	
担当役員補佐	法学政治学研究科教授	川出 良枝	総長補佐
〃	工学系研究科教授	大久保達也	総長補佐
〃	人文社会系研究科教授	秋山 聰	総長補佐
班長	教育・学生支援部長	富田 靖博	
班員	教育・学生支援部副部長	柳田 則幸	
〃	学生支援課長	安保 忠明	
〃	人事企画課長	東 高之	
〃	ボランティア支援担当課長	川久保 亨	
〃	教養学部事務部学生支援課長	高橋 喜博	駒場キャンパス
〃	新領域創成科学研究科事務長	武井 和夫	柏キャンパス
〃	企画課副課長	鈴木 和仁	
〃	学生支援課係長	高鳥 国之	
〃	人事企画課係長	小林 正樹	
〃	人事企画課職員	寺床 純三	
〃	学務課職員	市村 桃子	
〃	学生支援課職員	土井 達雄	
〃	学生支援課職員	海老沢 樹	

※班の庶務は、人事企画課と連携して学生支援課が担当する。

ウインドブレーカー作製

ボランティア支援班では、学習支援ボランティアに参加する学生用のユニフォームとしてウインドブレーカーを作製しました。陸前高田市・相馬市での冬季の活動の際に着用されています。



平成24年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録

作成 平成25年3月

編集 東京大学 救援・復興支援室 ボランティア支援班

住所 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話番号 03-5841-2529

URL http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html